

42

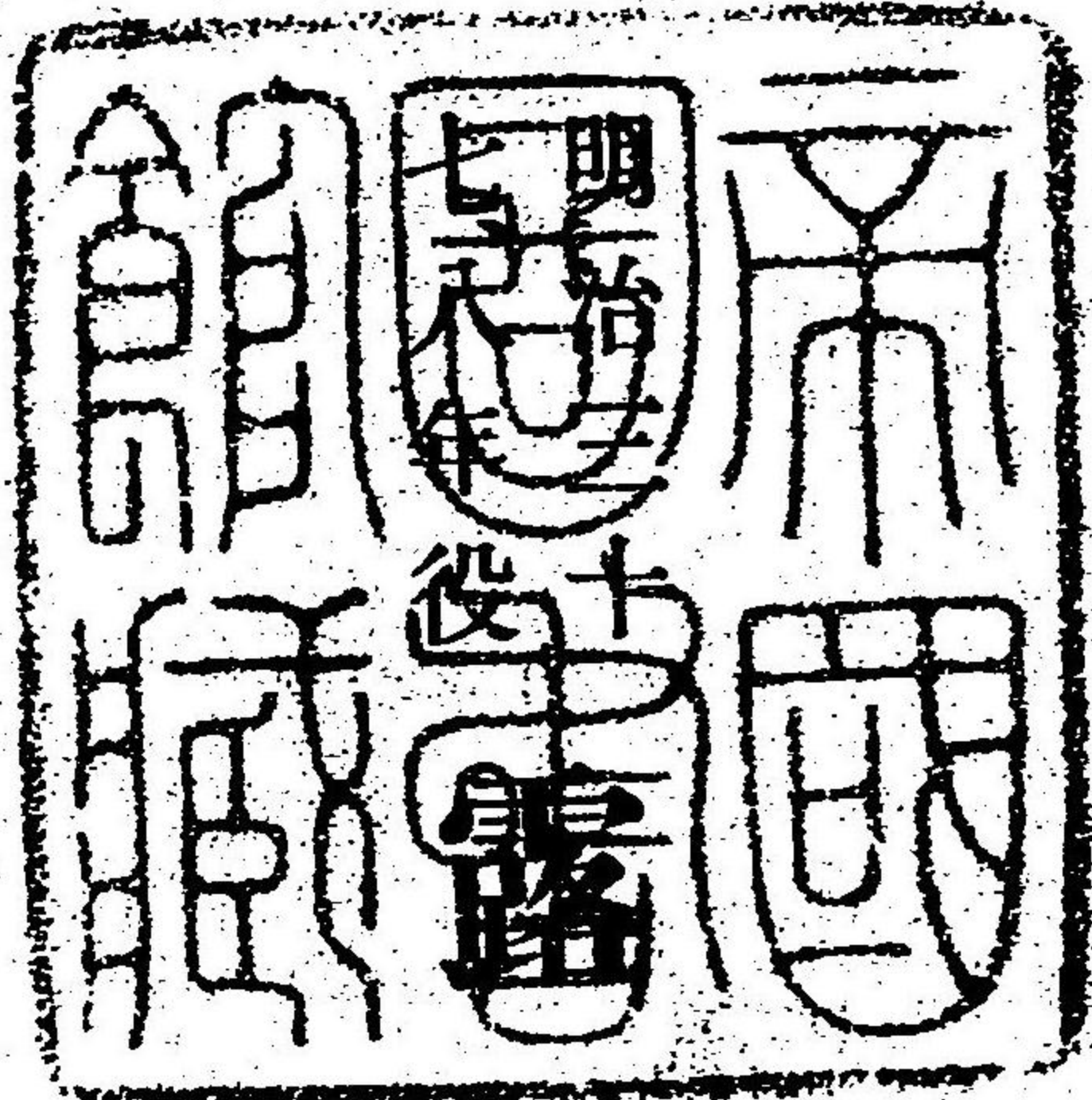
286

明治三十  
七八年役

# 露軍之行動

第三卷

參謀本部第四部編纂



軍之行動 第三卷

明治  
41 4 30  
丙午

明治四十一年四月

東京偕行社發刊



將中アルベリケタシ、ンオフ爵男長團軍一第利伯西  
 將少ケーオフ長團師四第兵狙東      將少スロツンルゲ長團師一第兵狙東

東狙兵第ゲレングロスアレクサンドル少將  
一師團長  
一八五一年生、一八六八年軍務ニ就ク、歩兵科出身、一八七  
七―七八年ノ戰役ニハ「ウケリチ」歩兵第六十三聯隊聯隊副官  
トシテ從軍、一八九九年少將、一八九七―一九〇一年迄警戒狙  
撃兵總指揮官、一九〇一年護境兵獨立軍團後援龍管區副司令  
官、一九〇二年參謀本部附、同年東狙兵第一旅團長、一九〇四  
年東狙兵第一師團長、同年中將ニ昇進、一九〇五年五月西伯利  
第一軍團長

西伯利第一フオン、シタケリベルグオホルギ中將  
軍團長男爵  
一八五一年生、一八六九年軍務ニ就ク、騎兵科出身、一八  
七三―七六年及一八七七―七八年ノ戰役ニ從軍「カザニ」龍騎  
兵第二十五聯隊長タルコト四年餘、一八九〇年少將、同年後  
裏海哥騎兵旅團長ト爲リ此職ヲ以テ一九〇〇―一九〇一年ノ  
戰役ニ從フ一八九七年騎兵第十五師團長、一八九九年騎兵第  
十師團長ニ轉シ同年中將ニ昇進、一九〇一年西伯利第一軍團  
長、一九〇二年騎兵第一軍團長、一九〇四年滿洲軍司令部附  
幾モ無ク西伯利第一軍團長ニ轉ス

東狙兵第フオーグアレクサンドル少將  
四師團長  
一八四三年生、一八六三年軍務ニ就ク、歩兵科出身、一八七七  
―七八年ノ戰役ニ從軍、一八九〇年大佐、同年後裏海狙撃兵第  
三大隊長、一八九二年狙撃兵第十七聯隊長、一八九四年狙撃兵  
第十六聯隊長、一八九七年「ブラガ」第五十八聯隊長、一九〇〇  
年少將、同年東狙兵第四旅團長、一九〇〇―一九〇一年ノ戰役  
ニ加ハリ負傷、一九〇四年東狙兵第四師團長、同年八月中將ニ  
昇進



將少ソイテナ長團旅二第團師四第兵祖東  
將中フロカマ官令司隊艦洋平大 將少フノソムサ長團旅兵騎里蘇島

烏蘇里騎兵旅團長  
 サムソフ  
 アレクサンドル少將  
 一八五九年生、一八七五年軍務ニ就ク騎兵科出身、一八七  
 七―七八年ノ戰役ニ從軍步兵第二十師團高級副官、高加士選  
 拔兵師團高級副官、哥薩克軍本部課長代理、ワルシヤ軍  
 管區司令部附特別勤務佐官、エリサヴェトグラド騎兵育  
 學校長歴任、一九〇二年少將、一九〇四年烏蘇里騎兵旅團  
 長、同年五月中將ニ昇進同年九月西伯利哥騎兵師團長ニ轉任

東獵兵第四師ナインモト  
 第二旅團長  
 アレクサンドロフ  
 少將  
 一八三九年生、一八五六年軍務ニ就ク歩兵科出身一八七七―  
 七八年ノ戰役ニ從軍、一八九四年大佐ト爲リ爾來「ワルシヤ  
 スク」豫備第二十八大隊長タルコト六年餘一九〇二年少  
 將ニ昇進參謀本部附、一九〇四年東獵兵第四師團第二旅團長

太平洋艦隊  
 マカロフ  
 ステパン  
 海軍中將  
 司令長官  
 ヨシフ  
 オウキチ  
 一八四八年生、海軍兵學校出身、一八六九年海軍少尉、一八七  
 七、露土戰爭ニ功アリ一八七九年水雷艦隊長、一八八一年ア  
 ハル、テク遠征ニ功アリ同年海軍少將ニ就任、一八八四  
 年練習艦隊司令官（チハチエフ中將）附旗手佐官、一八八五  
 年「クニヤシ、ボジャルスキー」艦長、同年「ウシヤシ」艦長、  
 一八九〇年少將ニ進ミ艦隊司令官、一八九一年海軍砲兵長官  
 代理、一八九四年中將ニ進ミ第二艦隊司令長官、一八九九年  
 リクロンシタンド軍港司令官、一九〇四年三月太平洋第一艦  
 隊司令長官、同年四月十三日戰歿

明治三十露軍之行動 第三卷

第四篇 引用書目

- 一 金州陣地ノ防備露國ニユツルツ工兵大尉著
- 二 日露戰爭ノ詳細第四第五編及旅順口(塊)
- 三 日露戰爭ノ概観(第二卷)
- 四 日露戰爭ノ概観(第一卷)
- 五 旅順口南正面ノ戰況(露)
- 六 旅順口南正面ノ戰況(露)
- 七 シレエテル少佐旅順口(獨)
- 八 海軍大佐ブーノフ旅順口ノ包圍中大平洋第一艦隊并陸上ニ於ケル其員ノ動作(露)
- 九 エム、スウエチン自開戰至遼陽露軍戰略概要(露)

第四篇 引用書目

十 サハロフ工兵二等大尉旅順口籠城日記(露)

第五篇 引用書目

- 一 ラング 得利寺戰團記事(露)
- 二 バイオフ大佐日露戰爭第一卷ノ一(露)
- 三 クロバトキン 將軍日露戰史ノ摘要(英)
- 四 日露戰爭梗概二(露)
- 五 ラフビツキ 得利寺ノ戰團(露)
- 六 インマヌエル日露戰爭第三卷(獨)
- 七 佛國子グリエ日露戰爭ノ教訓(佛)
- 八 プチウスキ 得利寺戰團ニ於ケル歩兵第三十五師團第二旅團(露)
- 九 埃國「ストレン」フロイル社日露戰爭ノ詳細(埃)
- 十 日露戰爭滿洲軍記事(米國カール、リー、チマン大尉(米))
- 十一 エムズウエチン 自開戰至遼陽露軍戰略概要(露)

士B A氏ノ記憶セル日露戰爭ニ於ケルクロバトキン(露)

明治三十年露軍之行動

第三卷

目次

第四篇 金州南山戰鬪

一 日本軍上陸迄旅順半島ニ於ケル諸情況

(一) 海正面ノ情況

露軍艦隊ノ不警戒(一)第一回日本艦隊(驅逐隊)ノ襲撃(二)二月九日朝露艦ノ位置(三)第二回日本艦隊ノ襲撃(四)陸上砲台ノ應射(五)外國汽船ノ誤認(六)砲撃(七)諸艦内港ニ入ル(八)開戦後露國艦隊ノ損害(九)港口ノ監視及防禦(一〇)第三回日本艦隊(驅逐隊)ノ襲撃(一一)艦隊増遣ノ中止(一二)第一回閉塞(一三)第四回日本艦隊(驅逐隊)ノ襲撃(一四)驅逐艦ノ損傷(一五)マカロフ中將ノ著任並訓示(一六)第五回日本艦隊(驅逐隊)ノ襲撃(一七)日本巡洋艦ノ間接射撃(一八)マカロフ中將ノ勉勵(一九)日本艦隊ノ水雷布設(二〇)第六回日本艦隊ノ襲撃(二一)日本汽船繁榮丸ノ擊沈(二二)第二回閉塞(二三)全艦隊老鐵山方面ノ出動(二四)極東總督ノ巡視(二五)全艦隊大連灣方面ノ出動(二六)驅逐隊ノ長山列島派遣(二七)

目次

一



第七回日本艦隊ノ襲撃(三)マカロフ中將等ノ溺死(三)艦隊ノ港内蟄伏  
(四)極東總督ノ旅順口到着(四)第八回日本艦隊ノ襲撃(四)第三回閉塞(五)  
波羅的艦隊増遣ノ準備(五)

(二)陸上正面ノ情況

第一回日本艦隊襲撃當時ノ狀態(三)旅順半島指揮權ノ不確立(三)日本軍  
ノ上陸ニ對スル防備(三)南山陣地ノ由來(三)陣地設計案(三)陣地ノ竣工  
(三)陣地ノ備砲(三)陣地防禦編成ノ梗概(三)日本軍ノ上陸ニ對スル陸海  
軍ノ協定(三)

二 日本軍上陸當時ノ情況

日本軍上陸ノ期待(三)蓋平以南鐵道沿線守備兵ノ配置(三)五月四日關東  
兵團ノ配置(三)日本軍ノ上陸(三)日本軍陸上ノ偵察(三)總督旅順ヲ去ル  
(四)海軍ノ行動(四)海軍砲ノ引揚(四)ステッセリ中將ノ旅順要塞防禦ノ訓  
令(四)日本兵普蘭店附近鐵道電信線ノ破壞(四)ズイコフ少將支隊ノ退却  
(四)日本支隊三十里堡ノ攻撃(四)騎兵支隊魏子窩方面ノ偵察(四)鐵道連  
絡ノ回復(四)鐵道最後ノ斷絶(四)五月九日頃旅順口ノ守備兵(四)日本支  
隊ノ普蘭店占領(四)

三 十三里臺附近ノ戰鬪

フォーク支隊ノ任務(五)日本艦隊ノ陸上砲撃(五)

四 南山戰鬪

南山陣地ノ信賴(五)南山陣地ノ配備(五)日本軍ノ近接(五)大連灣砲艦派  
遣ノ議(五)金州城ノ陥落(五)青泥窪市ノ撤退及大連灣ニ砲艦派遣(五)砲  
戰開始(五)南關嶺、毛家壑間ノ陣地配備(五)日本軍ノ攻撃前進(五)増援隊  
ノ請求(六)日本軍西部地區ノ突入(六)南山陣地ノ陥落(六)南山守兵ノ損  
害(六)青泥窪市ノ狼狽(六)

五 南山陥落後六月上旬ノ情況

艦隊ノ行動(六)黃泥川、鞍子嶺附近ノ對陣(六)日本艦隊ノ旅順港強行偵  
察(六)艦隊出動ノ躊躇(六)旅順要塞守兵ノ鼓舞(六)

第五篇 得利寺戰鬪ニ於ケル露軍ノ行動

一 シタケリベルグ兵團南下ニ至リシ情況

旅順半島防備ニ關スル當局者ノ意見(七)遼陽附近兵力集中ノ遲滯(七)滿

洲軍ノ新任務(七)五月中旬滿洲露軍ノ配備(七)滿洲軍兵力ノ增加(七)總督府ノ作戰意見(七)滿洲軍司令部ノ作戰意見(七)旅順要塞救援ノ訓令(七)旅順口戰備ノ狀態(八)旅順要塞救援ノ部署(八)五月下旬日本軍情況(八)總督ノ訓令(八)同訓令ニ對スル軍司令官ノ意見(八)南山陷落後ニ於ケル總督ノ訓令(八)同訓令ニ對スル軍司令官ノ處置(八)總督及軍司令官ノ情況判斷(八)六月上旬日本軍位置ノ推斷(八)南方ニ對スル作戰ノ警戒手段(八)シタケリベルグ中將ヘノ前進命令(八)シタケリベルグ兵團ノ兵力(八)六月上旬以來露軍ノ配置(八)南滿洲總兵力(八)

二 得利寺南方騎兵ノ衝突及南部兵團ノ得利寺集合

露軍最南部隊(九)サムソノフ騎兵支隊ノ先發(九)于家屯附近ノ戰鬪(九)サムソノフ支隊得利寺ニ退却(一〇)同支隊威力偵察ノ再行(一〇)日本軍支隊ノ退却(一〇)シタケリベルグ兵團主力ノ蓋平附近集合並一部ノ南進(一〇)西伯利第一軍團ヘノ訓令(一〇)得利寺附近ノ布陣(一〇)六月七日夜シタケリベルグ兵團ノ配置(一〇)日本艦隊蓋平方面ニ現出(一一)牽制運動(一一)シモノフ支隊ノ配備(一一)シタケリベルグ中將ヘノ訓令(一一)シタケリベルグ兵團防禦陣地ノ構成(一二)兵團得利寺集合ノ遲滯(一二)得利寺戰鬪參與露軍ノ全兵力(一二)

三 得利寺戰鬪

(一)戰鬪前ノ情況

日本軍ノ前進(二)シモノフ支隊及前衛ノ退却(二)日本軍ノ陣地占領(二)シタケリベルグ兵團得利寺附近陣地占領命令(二)發令當夜未著部隊(二)

(二)得利寺戰鬪

甲、六月十四日ノ戰鬪

日本軍ノ攻撃開始(三)左翼地區ノ戰況(三)同地區ノ砲戰(三)日本軍ノ前進(三)砲戰ノ再興(三)中央地區ノ戰況(三)露軍ノ損害(三)日本軍情況判斷(三)シタケリベルグ中將攻勢移轉ノ決心(三)グラスコ旅團ノ行動(三)シモノフ支隊ヘノ偵察命令(三)防禦部隊ノ陣地占領命令(三)

乙、六月十五日ノ戰鬪

イ、東部地區

攻撃部隊ノ前進準備(三)攻撃實行ノ躊躇(三)日本軍ノ砲擊開始(三)攻撃部隊

隊ノ前進(三五)グラスコ少將攻撃前進ノ部署(三六)軍團長退却ノ願慮(三七)グラスコ旅團ノ退却(三八)同旅團ノ再進(三九)

ロ、西部地區

一三八

前夜ヨリ午前六時頃ニ至ル情況(三九)日本軍ノ攻撃前進(四〇)日本軍ノ迂回サムソノフ騎兵支隊ノ退却(四一)右翼前進地區隊ノ退却(四二)同隊救援部隊ノ退却(四三)右翼地區隊龍口方面ニ進出(四四)午前十時過露軍全般ノ情況(四五)シタケリベルグ中將退却ノ決心(四六)同中將ノ受ケタル訓令(四七)

(三)露軍ノ退却

一四七

東部地區諸隊退却ノ情況(四七)西部地區諸隊退却ノ情況(四八)増援隊ノ到着及後衛戰(四九)得利寺戰鬪ニ於ケル露軍ノ損害(五〇)

四 得利寺戰後ノ情況

一五九

軍司令官ノ決心(五一)六月中旬滿洲軍ノ配備(五二)シタケリベルグ兵團萬家嶺以北ノ退却(五三)兵團ノ蓋平到着(五四)日本軍熊岳城ノ占領(五五)日本軍ノ東方集團ニ對スル軍司令官計畫ノ蹉跌(五六)

附錄

第一 關東兵團戰鬪序列

第二 シタケリベルグ兵團戰鬪序列

附圖

- 第一 五月十六日夜旅順半島露軍配備略圖
- 第二 五月二十六日南山陣地ニ於ケル配備圖
- 第三 陣地諸堡壘砲台經始斷面圖
- 第四 五月三十日子家屯附近騎兵戰鬪略圖
- 第五 六月七日頃滿洲露軍配置略圖
- 第六 六月十日乃 瓦房店附近シモノフ支隊配置略圖
- 第七 六月十四日晚得利寺附近露軍ノ配置圖
- 第八 六月十五日午前十時頃得利寺戰鬪露軍配備圖

明治三十七八年役 露軍之行動 第三卷

第四篇

金州南山戰鬪

日本軍上陸迄旅順半島ニ於ケル諸情況  
海正面ノ情況

露軍艦隊ノ警戒

自露開戦ニ至ルヤ其外交交渉ノ主動者タル極東總督アレクセエフ海軍大將ハ居  
ルニ想到セス兩國公使召還ノ報ノ如キハ之ヲ秘密ニ附シ二月八日夕ニ至リ始テ  
諸方ニ傳播セシメタリ是ヲ以テ八日日本住民ヲ迎フル爲メ一汽船旅順港ニ來リ  
九日出港タル時ノ如キハ在旅順口ノ官民皆之ニ驚ケリ情況此ノ如クナルヲ以テ  
同所ニ在ル第一太平洋艦隊ニ於テモ何等ノ警戒ヲ加ヘス日本艦隊ノ襲撃アリシ  
二三日前軍艦ハ毎夜水雷艇ニ對スル防禦演習ヲ行ヒシモ防禦網ヲ張ラス反テ「ボ  
ルタワ」ノ如キハ之カ撤去ヲ命セラレタリ

第四篇 金州、南山戰鬪 一 日本軍上陸迄旅順半島ニ於ケル諸情況

當時外港ニハ一等戰艦及巡洋艦全部ト「アンガラ」「ギリヤーク」「ラズボイニク」アリ其軍艦中八日ヨリ九日ニ亘ル夜間大艇ヲ使用シテ石炭ヲ搭載シ其上甲板ニ篝火ヲ

點シタルモノスラ有リ其他ノ砲艦及水雷敷設船等ハ總テ内港ニ在リ

第一回  
日本艦隊  
ノ襲撃

二月八日ノ夜二隻ノ驅逐艦ハ外海ヲ巡邏セリ然レトモ射撃スヘカラス疑ハシキ物ヲ見ハ引返シ長官ニ報告スヘシトノ訓令ヲ有セリ之カ爲メ是夜日本驅逐艦ノ

進航ニ會セシモ射撃セス之ヲ避ケテ日本ノモノト殆ント同時ニ友軍ニ投シタリ

敵艦現出ノ報旗艦ニ齎サルルト同時ニ「バルラダ」ハ既ニ爆發ノ難ニ遭ヒ「ツエザレ

ウキチ」ハ艦底ニ水雷爆發シ艦尾ヲ沈下シ「レトウキザン」亦艦首ニ損傷ヲ受ケタリ

殊ニ石炭搭載中ノ諸艦ハ周章ヲ極メ諸艦ハ砲ヲ以テ水雷ヲ防禦セリ然レトモ眞

面目ニ敵艦アルト思ハサリシニ因リ其射撃モ幾分カ躊躇セリ

爆發セラレタル「バルラダ」ハ西方砲台下ノ岸ニ坐擱シ「レトウキザン」ハ内港ニ向フ

途中ニ於テ坐礁シ横ニ港口ヲ塞キ「ツエザレウキチ」モ亦之ニ次キ港内ニ入ラント

シ「レトウキザン」ノ側ニ到ルヤ同シク坐洲シ同艦ト舳舻ヲ反對ニ平行シテ動ク能

ハス唯、幸ニ此兩艦ハ老虎尾半島<sup>ラホウウエイバン</sup>ノ岸ニ近接シ在リ艦體ト<sup>ホウチン</sup>黄金山ノ岸トノ間ハ尙

ホ大艦ノ通航ヲ許セリ

既ニシテ月出テ四邊靜寂ニ歸セリ二隻ノ哨艦ノ外驅逐艦ハ皆内港ニ在リシカ敵

艦襲撃アルヤ直ニ追撃ノ命下レリ然レトモ敵ヲ發見セスシテ翌早朝空シク歸港

セリ

司令長官スタルク中將ハ敵襲後諸艦ニ汽釀ヲ命シ後チ「ノーウキク」ニ敵艦驅逐ヲ

命シタリ同艦ハ出港セシモ毫モ得ル所ナク午前五時歸港セリ

九日朝各艦ハ左ノ如キ位置ニ在リ

二月九日  
朝露艦ノ  
位置

内港 「ポーブル」「アムール」「エニセー」驅逐艦及商船若干

東港 「グレミヤスチー」「オートワジヌイ」「フサドニク」「ガイダマーク」「ザビヤカ」外汽

船二隻

通路 「エルマク」「ツエザレウキチ」「レトウキザン」

外港 「ペトロバウロフスク」「ボルタワ」「セワストーポリ」「ボベード」「ベレスウエト」

「バヤン」「ポヤーリン」「ズスコリド」「バルラダ」「ヂアナ」「ノーウキク」「ラズボイ

ニク」「ジギット」「ギリヤーク」及「アンガラ」

第二回日  
本艦隊ノ  
襲撃

早朝遠距離偵察ノ爲メ巡洋艦「ボヤーリン」ハ派遣セラレタリ午前八時頃地平線上ニ日本巡洋艦八隻現出シ幾モ無ク影ヲ没セリ是時スタルク中將ハ總督ヨリ召致セラレ艦隊ヲ離レタリ此間ニ「ボヤーリン」ハ海上ニ現ハレ優勢ナル敵艦發見ノ信號ヲ爲セリ既ニシテ敵艦隊漸次現出シ遠距離ヨリ砲火ヲ開キ其第一彈ハ「ラズボイニク」色ノ儘ノ附近ニ落下セリ乃チ艦隊ハ拔錨シツツ在リ長官モ「ベトロバウロフスク」ニ歸リ此間砲戰繼續セラレタリ敵ハ初メ旅順口ニ向ヒ進ミ内港及砲台ニ向ヒ砲撃シ急轉シテ艦隊ニ砲火ヲ集注セリ是時稍後レテ陸上第十七第十八第十

陸上砲台  
ノ應射

三(黄金山)第十五電氣礁第七第九ノ諸砲台ヨリ之ニ對シ砲撃セリ日本艦隊ハ露國艦隊ニ近ツカスシテ退去セリ露ノ艦隊ハ總督ノ命ニ依リ砲台射界外ニ出ツルヲ許サレヌ爲メニ追撃ヲ行ハス唯「ノーウキク」及驅逐隊ハ敵艦ヲ襲撃スヘキ命ヲ受ケタリ而シテ其驅逐艦ハ次テ取消命令ヲ認メ歸還シタルモノ「ノーウキク」ノミハ之ヲ認メスシテ冒進シ遂ニ其艦尾ニ敵彈ヲ受ケ漏水シ爲メニ船渠ニ入り三週間ノ修理ヲ要スルニ至レリ又此戰團中「セワストーポリ」ハ「ボルタワ」ト輕ク衝突シ後者ニ漏水孔ヲ穿テリ當時

忽卒ノ際之ヲ以テ敵ノ十二尹砲彈ニ因スルモノト看做セリ

敵艦出現ノ報アルヤ港内ノ各砲艦ハ拔錨出港ヲ命セラレシモ其出ルヤ既ニ戰團終結後ナリキ敵艦退却後幾モ無ク東方ニ二隻ノ船影ヲ認メ驅逐艦ハ之カ偵察ヲ命セラレタリ此二隻ハ「シウーチ」及其他ノ汽船ニシテ海洋島ニ石炭ヲ輸送シ歸リ來レルナリ此驅逐艦ノ歸港途中友軍驅逐艦ハ之ヲ敵艦ト誤認シ殆ント砲火ヲ加ヘントセシカ幸ニ其誤認ナルヲ知リ事ナキヲ得タリ

是日ノ砲戰ニ損傷ヲ蒙リシハ「バヤン」アスコロド「チアナ」ノーウキクヲ主トシ其他ハ輕微ナリ人員ノ損傷ハ全艦隊ヲ通シ戰死下士卒二十一一名、負傷將校四名下士卒九十七名ニシテ陸上砲台ニ於テハ戰死下士卒一名、負傷下士卒五名ナリ

是日午後ノ高潮ニ乗シ「バルラーダ」ハ内港ニ入り「ツエザレウキチ」モ之ニ次キ曳キ入レシカ「レトウキザン」ノミハ之ヲ動かス能ハスシテ遂ニ航門ニ殘レリ

是日戰團後水雷布設船「エニセー」ハ夜ニ入りテ「ボヤーリン」ノ護衛下ニ大連灣ニ派遣セラレシカ自ラ布設セル水雷ニ罹リ爆發シ將校四名下士卒九十三名ヲ失ヒタリ二月十日外港ニ在リシ全艦隊入港ニ決セシモ早朝ヨリ北風吹キ荒ミ全艦ノ入港

外國汽船  
ノ誤認砲  
撃

ヲ果サス砲艦戰隊ハ之カ爲メ是夜強風ヲ太湖灣ニ避クルニ至レリ是日露英獨ノ  
三汽船來航シ老欽山麓ニ碇泊セシカ夜ニ入り此附近ニ「ギリヤーク」及「ザビヤカ」來  
泊シ後者ノ當直將校三汽船ヲ誤認シテ敵艦ノ潛行シ來ルモノト爲シ砲撃ヲ行ヒ  
附近ノ哨艇及砲台ヨリモ亦射撃ヲ加ヘタリ三汽船ハ人員ニ死傷ナカリシモ船体  
ニ損害ヲ受ケ翌朝之ヲ大連灣ニ到ラシメ損害賠償ヲ支拂フコトト爲レリ是夜驅  
逐艦二隻ノ衝突アリ

是日ロスチンスキー海軍少將旅順口ニ來リ沿岸水雷布設ノ任ヲ授ケラレ十二日

ヨリ「アムール」ニ將旗ヲ掲ケ其任ニ就ケリ

諸艦内港  
ニ入ル

十一日諸艦ハ總テ内港ニ入り唯外港ニ殘レルハ「ポヤールン」「ポープル」「ギリヤーク」  
及水雷砲艦一隻驅逐艦數隻ナリ是日「ポヤールン」ハ驅逐艦四隻ヲ率テ「エニセ  
ー」ヲ轟沈シタル日本驅逐艦ト當時之ニ原因スヲ攻撃スヘキ命ヲ受ケ大連灣ニ向ヒ  
南三山島附近ニ到リシカ復タ水雷ニ罹リ沈没セリ初メハ沈没ニ至ラザリシカ自ラ  
「アムール」ハ「エニセー」ノ殘リノ事業ヲ完成スヘキ命ヲ受ケシモ是日ハ出發スルニ  
至ラス

開戦後露  
國艦隊ノ  
損害

斯クテ露國艦隊ハ開戦後二三日ニシテ仁川ニ「ワリヤグ」及「コレエツ」ヲ大連灣ニ「エ  
ニセー」「ポヤールン」ヲ失ヒ「ツエザレウキチ」「レトウキザン」「バルラダ」及「ノーウキク」  
ハ損傷シテ修理中ニ在リ「マンジウール」ハ上海ニ於テ武装解除セラレ「シウーチ」ハ  
營口ニ在リテ結氷ノ爲メ合スルヲ得ス陸軍々隊ニ保管セラレ遂ニ沈没セシメラ  
レタリ故ニ總計六隻ノ軍艦ハ艦隊ヨリ除去セラレ四隻ハ修理中ニ在リ此頃ヨリ  
マカロフ中將ノ來着迄全三週日間ハ何等ノ創意的計畫モ無ク日本艦隊ノ位置モ  
知ラス唯水雷艇ノ港外附近ニ遊弋スルヲ以テ少クモ巡洋艦隊之ニ附隨シ在ルコ  
トヲ察シ得タルノミ旅順港口ノ監視及防禦ハ其通路ニ横ハレル「レトウキザン」ニ  
委ネラレ水道ノ西半ハ同艦自ラ閉塞シ東半ニハ其後網ヲ下ケタル防材ヲ張り東  
港ノ入口ニモ夜間網ヲ張り以テ敵水雷艇ノ襲撃ニ備ヘタリ十三日ノ夜港口ニ日  
本驅逐艦現ハレ遠距離ヨリ水雷ヲ發射セリ因テ水道ヲ保護スルノ必要ヲ感シ「レ  
トウキザン」モ遠カラス撤去スルニ至ルヘキカ故ニ水道ノ兩側(港口ノ外方)ニ十二  
日極東總督ハ損傷艦艇ヲ巡視シ翌二十一日旅順口ヲ去リ艦隊ノ指揮權ノ一

第三回日  
本艦隊  
(驅逐艦)  
ノ襲撃

港口ノ監  
視及防禦

部ヲスタルク中將ニ委任セリ

増遣艦隊  
ノ中止

此間ウイレニウス少將ノ率ウル増遣艦隊ハ二月下旬紅海ノ南部ニ達シタリ然レトモ今後ノ航海ニ於テ中立國ヨリ石炭ノ供給ヲ得ルノ困難アルノミナラス日本人ノ眼ニ觸レスシテ東亞ノ露國港ニ達センコトハ殆ント不可能ナルヘク將タ日本艦隊ヲ衝破センコトモ亦望無キニ因リ二月二十三日少將ハ地中海ニ歸航スヘキ命令ヲ受ケ其後遂ニ露國波羅的海ニ復歸シタリ

第一回閉  
塞

二十四日午前三時探海燈火ノ照光内ニ來航中ナル船舶映シタリ乃チ「レトウキザン」及諸砲台ハ約五吉米ノ距離ヨリ猛烈ニ之ヲ射撃シタリ是レ日本人ノ放テル閉塞船ニシテ五隻ノ中三隻ハ目標附近ニ來リ二隻ハ外港ニ沈没セリ然レトモ幸ヒ水道ハ閉塞セラルルニ至ラザリキ爾後ハ日本軍ノ閉塞船ニ對スルコトノミニ注意ヲ拂ヒ外港錨地ニ工兵部ノ布設水雷ヲ沈置シ又港口ノ前方ニ汽船數隻ヲ沈メ此間ニ防材ヲ張り閉塞船ノ近接ヲ防クコトトセリ

第四回日  
本艦隊ノ  
襲撃

二十四日拂曉「レトウキザン」ノ側方ヨリ二隻ノ驅逐艦ヲ出セシニ日本閉塞船ノ乗員ヲ收容セントスル驅逐艦四隻ト遭遇セリ此間「ノーウキク」モ亦出港シ此二隻ノ

驅逐艦ヲ率テ老欽山<sup>ラオチンサン</sup>ヲ繞回シ鳩灣<sup>カウベイ</sup>ニ到リ前夜哨戒ノ爲メ此ニ派遣セル驅逐艦ヲ迎ヘタリ此等驅逐艦ノ歸港スル頃恰モ老欽山<sup>ラオチンサン</sup>ノ方位ニ日本巡洋艦四隻現ハレテ地平線ニ日本ノ全艦隊出現セリ「ノーウキク」ハ遠距離ヨリ日本艦隊ト若干ノ砲火ヲ交ヘツツ全速力ヲ以テ内港ニ歸レリ是夜午前一時頃日本驅逐艦ハ再ヒ來襲シ「レトウキザン」ヲ轟沈センコトヲ企テタルモ功ヲ奏セザリキ是夜モ例ニ依リ鳩灣<sup>カウベイ</sup>ニ驅逐艦二隻ヲ派遣シ哨戒ニ任セシメタリ是レ日本軍カ同灣ニ上陸センコトヲ妨害セム爲メナリキ

二十五日朝此兩艦歸港途中老欽山<sup>ラオチンサン</sup>沖ニ於テ日本巡洋艦小隊ト遭遇シ一艦ハ危險ヲ冒シ脱歸シ得タルモ他ノ一艦「ウヌシーテリヌイ」ハ老欽山<sup>ラオチンサン</sup>望樓ヨリ外港ニ日本艦隊アリトノ報ヲ得テ引キ返シ鳩灣<sup>カウベイ</sup>ノ一岬角陰ニ隠レントシテ坐洲セリ乃チ旅順港ヨリ友艦救助ノ爲メ「バヤン」アスコリド<sup>アスコリド</sup>及「ノーウキク」派遣セラレタリ此間東方海岸ニ出タル哨艇ハ無事ニ歸港セリ既ニシテ前記三艦ノ出港スルヤ日本艦隊ハ十二時砲ヲ以テ之ヲ射撃セリ露艦之ニ應射セシモ彈丸彼ニ達セス司令長官乃チ三艦ニ歸港ヲ命シタリ日本戰艦ハ大連灣<sup>ダイレンワン</sup>ノ方向ヨリ岸ニ接シ砲台及港内ニ向



ヒ砲撃ヲ行ヘリ是時海正、面砲台ノ左翼ニハ大口徑砲射彈ノ達セサル處アリ又六吋砲ヲ以テセハ僅ニ五十鎗迄射撃シ得ルモ日本軍艦ハ八十鎗ノ距離ヨリ射撃セシカハ効力無カリキ

是時敵彈ハ東港及工廠内ニ落下セシモ幸ニ大損害無カリキ日本艦隊ハ永ク砲撃セシテ東南ニ去レリ是時日本巡洋艦ノ小隊ハ本隊ト分レ老鉄山ニ向ヒ次テ北航シ鳩灣ニ隠レタル「ウヌシーテリヌイ」ヲ發見シ之ニ砲火ヲ加ヘタリ同驅逐艦長ハ乗員ヲ上陸セシメ艦ヲ沈没セシメタリ是時日本艦隊分離ノ事黄金山望樓ヨリ報告無カリシニ因リ艦隊司令長官ハ此日本小隊ノ鳩灣附近ニ射撃シ在ルモノヲ擊破スルノ機會ヲ逸シタリト云フ

二月二十七日イェッセン海軍少將旅順ニ來リ幾モ無ク浦鹽斯德ニ向ヒ出發セリ是レシタケリベルグ少將ニ代リ同地ノ巡洋艦小隊ヲ指揮セムカ爲メナリ

ロスチンスキー海軍少將ハ水雷ヲ以テスル軍港ノ沿岸防禦ノ任ニ膺リ二月二十一日迄ニ大窪口ニ、二十二日八隻船灣ニ水雷ヲ布設セシカ此頃遼河防禦計畫ノ爲メ營口ニ赴ケリ營口附近遼河ニ觀

驅逐艦ノ損傷

三月四日大連灣ニ在ル東清鐵道會社ノ汽船ノ内二隻ヲ旅順港ニ回航ノ爲メ港口用フルニ二隻ノ驅逐艦出來ノ不長ナル派遣セラレ到レハ同汽船ハ翌日ニ非サレハ出港スル能ハス因テ驅逐艦レイテナント、ブラーコフハ更ニ驅逐艦二隻ヲ迎ヘ旅順口ニ歸ラントシ夕三山島附近ニ出セシ頃ヨリ風雪ト爲リ三艦互ニ相失スルニ至レリ「ブラーコフ」ハ終夜海上ニ漂航セント欲シ岸ニ接シ在リシカ遂ニ岩礁ニ乘リ揚ケ曉ニ及ヒ滿潮ニ際シ自ラ歸港セシモ艦底損傷セリ他ノ二隻中一ハ無事歸港セシモ他ハ港口燈臺下ノ沙濱ニ坐擱シ損傷ヲ蒙レリ是ニ於テ開戦後四隻ノ驅逐艦ヲ滅スルニ至レリ船渠ニハ「バルラダ」アリテ當

マカロフ中將ノ著任并訓示

三月八日午前七時三十分マカロフ海軍中將旅順口ニ著シスタルク中將ニ代リ艦隊司令長官ノ職ニ就キ爲メニ全艦隊ノ振肅ヲ來タセリマカロフ中將ハ能ク人ヲ見ルノ明アリ又偉大ノ精力アリ是レ其大ニ諸人ノ畏敬ヲ惹ク所以ナリト云フ是日「レトウキザン」ハ浮上リ之ヲ内港ニ曳入レタリ  
中將艦隊ニ著スルヤ各司官艦長ヲ會シ大ニ艦隊前途ノ任務ニ就キ説ク所アリ其言ニ曰ク吾人ハ増援艦隊ノ到着迄艦隊ヲ保存スル必要アルヲ感スルモ同時ニ

爲シ得ル限リ敵ヲ撃テ其勢力ヲ弱ムルコトモ亦必要ナリ各艦ハ毎ニ十分ノ戰闘準備ニ在ラサルヘカラス特ニ碇泊中ハ炭量ノ節約ニ勉ムヘシ蓋シ吾人ハ多量ノ石炭ヲ有セサルニ非サルモ其用途モ亦大ナレハナリ本職ノ聞ク所ニ據レハ各艦ハ日常ノ生活用ニ多量ノ炭ヲ消費スト此問題ハ慎重ニ調査ヲ遂ケ成ルヘク此量ヲ減少スルヲ要ス各艦長ハ此方針ニ依リ宜シク適當ノ處置ヲ執ランコトヲ望ム港口水道ノ防禦ニ關シ本職ノ希望スル所ハ砲艦ヲ据エ之ニ當ラシメントスルニ在リ但シ巡洋艦ハ一令ノ下時機ヲ失セス外港錨地ニ出航シ得ルカ如ク碇泊セシメントス海上ニ於テハ日本人我ニ優レリ故ニ増援艦隊ノ到着スル迄ハ吾人ハ石炭ノ補充ヲ得ルモノト推算スルヲ得ス云々

第五回日  
本艦隊  
ノ戰  
九日夜第一第二ノ兩驅逐艦隊ヨリ八隻ヲ出シ哨戒勤務ニ從事セシカ日本艦隊ハ是夜旅順港ニ近ツキ哨戒區域外ニ游弋シ其伴ヘル驅逐艦二隊ヲ縱チタリ其一隊ハ外港錨地ニ來リ退去シテ探海燈光外ニ隠レタリ此間ニ乘シ他ノ一隊來リテ外港錨地ニ水雷ヲ撒布セリ曉ニ及ヒ最初來リシ日本驅逐艦ハ露ノ第一驅逐艦ノ四隻ト遭遇シ彼我反對ノ針路ヲ執リ全速力ヲ以テ通過セシニ因リ戰闘ハ少時間ニ

過キサリシモ甚々劇烈ニシテ司令マッセウキチ大佐以下數名之ニ負傷シ未明此驅逐艦皆港内ニ歸レリ第二驅逐艦ノ四隻中二隻ハ無事歸港セルモ他ノ二隻「クリスチ」ハ黎明ニ日本ノ第二ノ驅逐艦ト遭遇セリ兩艦ハ敵ノ優勢ナリシニ因リ大連灣内ニ入り島蔭ニ潛匿セリ然ルニ日本驅逐艦ハ追窮シテ止マス兩艦長遂ニ發見ノ免カレサルヲ察シ意ヲ決シテ旅順口ニ向ヒ駛走セリ時ニ日本驅逐艦ハ後方ニ在リシモ七五密米砲彈ノ射程内ナリシニ因リ猛烈ナル砲火ヲ以テ兩艦ヲ追撃セリ然ルニ兩艦ノ艦尾砲ノ射程敵ニ達セス應射スルヲ得ス一意旅順ニ駛走スルニ勉メ同地ヲ距ル半時ノ行程ニ近ツケリマカロフ中將之ヲ見テ「ノーウキク」ニ坐乗シ將ニ救助ニ赴カントセリ是時一彈「ストレグースチー」ノ機關ニ命中シ同艦ハ停止セサルヲ得サルニ至レリ日本驅逐艦ハ之ニ近接シ猛火ヲ加ヘタリ艦長セル「ゲーエフ」大尉爲メニ斃レ其他ノ乗員亦多ク死傷セリ是時「ノーウキク」ハ現場ニ駛航シ來リ日本驅逐艦ヲ退却セシメタルモ同時ニ日本巡洋艦四隻出現シ砲火ヲ開キ「ノーウキク」ヲシテ退却ノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリ是ニ於テ曩ニ退却セシ日本驅逐艦再ヒ來リテ「ストレグースチー」ニ近接シ甲板上ノ全員ヲ掃射シ遂ニ舫

日本巡洋艦ノ間接射撃

索ヲ以テ之ヲ曳キタリ然レトモ勇敢ナル二名ノ露兵ハ機關室ニ入り入口ヲ閉塞シ自ラ沈没スルノ處置ヲ取り幾モ無ク沈没シタリ此間「ノウキク」ハ旅順口ニ歸リシカ恰モ好シ「バヤン」ノ出發セルニ會シ相共ニ水面ニ游泳スル者ヲ救助センコトヲ企テシカ港外ニ日本全艦隊出現シタルニ因リ之ヲ果サスシテ歸港セリ當時低潮ナリシニ因リ露ノ戰艦ハ援助ノ爲メ内港ヨリ出ツルコト能ハサリキ

日本艦隊ノ内巡洋艦若干ハ港口水道ニ面シテ砲台射程外ニ留マリ戰艦ハ老鉄山ニ近ツキ同所ヨリ間接射撃ヲ以テ工廠及内港錨地ヲ砲撃セリ此砲撃ハ午前九時三十分ヨリ午後一時十五分迄四時間ノ長キニ亘レリ之ニ因リ巡洋艦「アスコリド」ニ大ナル破片命中シ水線上部ニ孔ヲ穿テリ其他ノ損害ハ輕微ナリ砲台ニ於テ傷者六名艦隊ニ於テ死者一名傷者將校一名下士卒四名市街ニ於テ人民ノ死者三名傷者一名アリト云フ午後二時日本艦隊ハ東南方ニ退去セリ

此砲撃ニ對シ露軍ノ何レノ砲台モ之ニ應戰スル能ハス又戰艦モ潮ノ關係上出港シテ抵抗スル能ハスマカロフ中將ハ大ニ憤慨セリト云フ

彼我驅逐艦ノ夜闘ハ何等ノ利益無キヲ知り爾後可成之ヲ避クルノ方針ヲ取レリ

三月十三日ボリス、ウラジミロウキチ大公旅順口ニ著セラルキリル、ウラジミロウキチ大公ハ早ク既ニマカロフ中將ノ幕僚ニ在リ

三月十五日ヨリマカロフ中將ハ「ポーブル」及「オトワジヌイ」ノ兩艦ヲ港口水道ニ据エ閉塞船ト驅逐艦トニ對スル防禦ニ當ラシメタリ又運送船「エルマク」ハ戰爭開始ノ頃ヨリ水道ニ碇泊シテ閉塞船ノ如キ用ヲ爲シ在リシカ今ヤ之ヲ内港ニ移シ代フルニ薄弱ナル巡洋艦「ラズボイニク」ヲ以テセリ

マカロフ中將ノ勉勵

マカロフ中將ノ精力大ナルヲ獨リ艦隊ノ事ノミナラス諸般ノ事ニ執掌セリ即チ船渠ノ缺乏ハ艦隊勢力ヲ減殺スルモノナルヲ以テ特ニ戰艦「レトウキザン」及「ツエザレウキチ」ノ修理ニ配慮シ或ハ港口或ハ老鉄山ニ砲台ヲ建設セシメ或ハ港口ヲ閉塞セントスル日本軍ノ企圖ヲ防止スルニ勉メ其港口ニ位置ヲ撰定スルニハ探海燈ノ照否孰レカ困難ナルヤヲ自ラ試験シ照輝中ノ果シテ困難ナルヲ決定セリ此偉大ノ精力家モ著任ノ當初ハ外港錨地ノ掃海ヲ行ハサリキ又極東總督ハ敵艦ノ屢現出スル旅順口視界内ト敵揚陸ノ虞アル貔子窩ニモ水雷ヲ布設スヘキヲ命セリ然レトモマカロフ中將ハ此ノ如キ水雷ハ浮流シテ反テ友艦ニ危害ヲ及ホ

日本艦隊  
設ノ水雷布

スモノト爲シ之ニ賛同セス反テ艦隊ヲ以テ海上ニ雄飛セントノ説ヲ主張シタリ  
 二十一日夜十二時頃旅順港口ニ日本驅逐艦ノ近接スルヤ水道ニ在ル「ポール」先  
 ツ發見シテ砲火ヲ開キ「オートワジヌイ」及諸砲台亦之ヲ射撃セリ日本驅逐艦ハ之  
 ニ應射シ且ツ外港錨地ニ何等カノ動作ヲ爲セルモノ、如シマカロフ中將ハ水  
 道ニ在ル砲艦ニ莅ミテ視察シ日本艦隊カ外港錨地ニ水雷ヲ布設シ得ルコトヲ認  
 メ爾來艦隊ノ出港スル前必ス港口兩燈台ノ一線ニ依リ外港ニ掃海ヲ行ハシメタ  
 リ而シテ中將ハ水道ヨリ歸途艦隊ニ命スルニ午前六時迄ニ出港準備ヲ整フヘキ  
 ヲ以テシ又水道ノ兩砲艦ノ中間ニハ綱ヲ吊シタル防材ヲ張ラシメ尙ホ敵ノ閉塞  
 動作ヲ妨クル爲メ港口ニ達スル迄ノ水道ヲ紆餘曲折セシメント欲シ曩ニスタ  
 ク中將ノ計畫セシ汽船二隻ヲ沈ムル案ヲ實行セリ「ハイラル」「ハルビン」ノ兩  
 此沈没兩汽船ノ間ニハ防材ヲ張リタルモ晝間ハ驅逐艦ノ爲メ通路ヲ開キ夜間之  
 ヲ閉塞セリ全艦隊出港ノ際ハ港務部ノ汽艇ニテ之ヲ閉塞セリ  
 二十二日午前八時日本艦隊現出シ二部ニ分レ一部ハ旅順口方面ニ止マリ一部士  
 島ハ老鉄山ヲ繞回シ鳩灣方向ヨリ内港水道及東港ニ向ヒ砲火ヲ開ケリ

第六回日  
本艦隊ノ  
襲撃

露ノ巡洋艦ハ是時既ニ出港シマカロフ中將ハ「アスコリド」ニ坐乗シ在リ日本艦  
 隊現出スルヤ更ニ戰艦ニ出港ヲ命セリ戰艦ハ日本軍ノ砲撃セル水道ヲ通過セル  
 モ損害ヲ蒙ラス唯數個ノ彈片ハ水道ニ在ル「ポール」ニ命中シ僅カノ損傷ヲ起セ  
 リ  
 スクテ戰艦四隻「レトウキザン」「ツエザレウキチ」巡洋艦四隻ハ外港ニ在リ然レトモ  
 日本ノ戰艦六隻、一等裝甲巡洋艦六隻、二等巡洋艦六隻及若干ノ驅逐艦ニ比セハ勢  
 力固ヨリ匹敵セス故ニ砲台射程外ニ出ツルコト能ハサリキ日本艦隊モ亦砲台ト  
 交戦スルノ不利ナルヲ認メタルカ如ク敢テ近接シテ戦ハス僅カニ若干ノ砲撃ヲ  
 交換シタルノミ陸上ニ於テ五名ノ死者、十名ノ傷者ヲ出セルト云フ是時内港ニ在ル「レトウキザン」「ツエザレ  
 ウキチ」ハ間接射撃ヲ以テ老鉄山西方ナル敵艦ニ應射シタリ  
 日本艦隊ハ久シク留マラスシテ日没迄ニ遠ク去レリ之カ爲メ驅逐艦ヲ以テ夜暗  
 襲撃スル能ハサリキ然レトモ是日ノ戰艦以下ノ出港ハ日本陸軍ヲシテ遼東沿岸  
 ニ上陸スルノ企圖ヲ止メシメタルノ効力アリキ即チ露ノ艦隊ニシテ出動シ得ル  
 間ハ敵ヲシテ其從來ノ港口閉塞ノ無効ナルヲ知ラシメ敢テ冒險的ノ上陸動作ニ

著手スル能ハサラシメタリ

是頃マカロフ中將ハ驅逐隊第二隊司令ヲ適任者ニ變更セリ此等兩隊ノ驅逐艦ニハ「チフスキ」社ニテ長時日ヲ費シ旅順口ニテ組ミ立テタル十二隻ノモノ漸次完成シテ加入セリ然レトモ此内過半ハ速力豫期ニ達セス機關亦不良ニシテ屢故障ヲ生セリ

日本汽船  
繁榮丸ノ  
撃沈

二十五日夜十二時マカロフ中將ハ各艦ニ出港準備ヲ命シ二十六日拂曉外港錨地ニ出テシメタリ艦隊ノ南航シテ廟島<sup>イサトケ</sup>ニ達スル頃日本小汽船芝罘方向ニ急航スルヲ認メ「ノーウキク」及驅逐艦若干之ニ追跡シ臨檢シ其ノ繁榮丸ナルヲ知り曳索ヲ取レルモ効ヲ奏セス遂ニ之カ乗員ヲ收容シテ船體ヲ撃沈セリ

艦隊ハ此間艦隊運動ヲ爲シ「ノーウキク」等ヲ併セ歸航ニ就ケリ是時<sup>ホウチンシヤ</sup>黃金山望樓ヨリ地平線ニ十四隻ノ日本艦隊現ハルトノ無線電信アリ是レ商船ヲ誤認シタルモノナリシモマカロフ中將ハ之ニ依リ旅順口ニ歸港スルノ決心ヲ爲セリ歸途戰艦「ベレスウエト」ト「セワストーボリ」ト輕キ衝突ヲ起シ後者ノ推進機ノ一翹ヲ曲ケタリ後者ノ艦長爲ニ更迭セシメラレタリ

第二回閉塞

二十六日夜再ヒ日本軍ノ港口閉塞ノ舉アリ二十七日午前三時四隻ノ閉塞船港口ヨリ約四吉米ノ地ニ於テ探海燈ノ照光内ニ現ハレ各砲台ハ猛烈ニ之ニ向ヒ砲火ヲ開キ哨戒ニ任シ在ルニ隻ノ驅逐艦モ亦之カ攻撃ニ向ヒタリ第一ニ向ヒシ「シリヌイ」ハ一隻ノ汽船ニ水雷一發ヲ放チ爆發ヲ認メ次テ他ノ閉塞船ニ向ヒ第二ノ水雷ヲ放チ前進セリ次テ水雷裝填中第三ノ閉塞船ニ遭遇シ舳ヲ以テ之ト交叉セリ此汽船ノ投錨セントスル頃第二ノ驅逐艦「レシーテリヌイ」水雷ヲ放チテ之ヲ轟沈セリ其船底ノ未タ海底ニ觸レサル間ニ潮流ハ船尾ヲ右轉セシメ恰モ港口水道ニ對シ正横ニ据ハリ水道ノ西半ヲ閉塞シタリ是レ猶ホ「レトウキザン」ノ嘗テ閉塞シタル時ノ狀ノ如シ當時汽艇ヲ以テ沈没船ノ船尾ヲ南方ニ曳キ直サントセシモ哨艦ヨリ加ハル砲火ノ爲メ之ヲ果サ、リキ斯クテ閉塞船ノ内一隻ハ殆ント成功シ他ノ三隻ハ黃金山下ニ沈没セリ

此間「シリヌイ」ハ前進シテ日本驅逐艦數隻ト遭遇シ砲戰ヲ交ヘシカ敵彈機關室ニ命中シ機關長及下士卒七名之ニ死シ<sup>此艦ノ全死傷ハ死者將校一名、傷者徹速力ヲ</sup>將校一名、下士卒十二名ナリト云フヲ漸ク砲台ノ射程内ニ歸リ黃金山下ニ坐擱シ遂ニ歸港セシムルヲ得タリ

全艦隊老  
金山方面  
ノ出動

マカロフ中將ハ日本軍ノ第二回閉塞ニ鑑ミ西方ヨリ港口へ潜航スルコトヲ一層  
 困難ナラシメンカ爲メ尙ホ一隻ノ汽船吃水ノ大ナリヲ沈没セシメタリ  
 二十七日朝全艦隊ハ外海ニ出タリ是時南方ニ日本艦隊現ハレ東ヨリ來リテ老鉄  
 山ラオタイエノ背後ニ隱レントスマカロフ中將乃チ各艦ノ急速出港ヲ促シ老鉄山岸ニ沿ヒ  
 航行シ遂ニ一處ニ駐リ日本艦隊ノ歸航ヲ要撃シ且ツ老鉄山ノ南方ニ布設シ在ル  
 水雷ノ地ニ敵艦ヲ誘ハントセリ然レトモ遂ニ日本艦隊ノ來ルヲ見ス午後二時悉  
 ク内港ニ歸レリ此出動中驅逐艦ハ日本布設水雷ヲ外港錨地ニ發見シ爾後毎日水  
 雷運送船「アムール」ヲシテ此錨地ヲ掃海セシムルコトト爲レリ又艦隊ノ出港毎ニ  
 水雷砲艦「フサドニク」ガイダマークニ掃海索ヲ曳カシメ先頭ニ立タシムルコトト  
 爲レリ

極東總督  
巡視

三月三十一日極東總督旅順口ニ來リ三四日間滞在陸軍部隊及諸砲台ヲ檢閲セ  
 リ  
 三月二十八日營口ニ戒嚴令ヲ布カレタリ  
 四月二日夜日本ノ無線電信ヲ感得シ敵艦ノ遠カラサルヲ察シマカロフ中將ハ驅

全艦隊  
大連灣方  
面出動

驅逐艦隊  
ノ長山列  
島派遣

逐隊ニ東南五十哩ニ出航シ日本軍ヲ攻撃セシメタリ但シ友軍ノ砲撃危険ヲ避ケ  
 シカ爲メ拂曉前ニ歸港スル勿ラシメタリ是ニ於テ驅逐艦四隻ハ出港シタルモ毫  
 モ得ル所無クシテ歸レリ  
 四日マカロフ中將ハ日本艦隊カ長山列島ニ根據地ヲ設クルコトヲ聞キ驅逐艦ヲ  
 シテ同島ニ出動セシメント欲シ之カ處置ニ就キ第二驅逐隊司令ブーブノフ大佐  
 ニ研究ヲ命シ又港口ノ外方沈没兩汽船ノ内ニ砲艦ヨリモ優勢ノ砲ヲ有スル巡洋  
 艦ヲ三日毎ニ交番ニ派遣セシメ敵ノ襲撃及閉塞ニ備ヘシメタリ  
 十日聖主更生祭アリ其慣例破齋ノ宴ハ終夜ニ亘ルヲ常トス然レトモマカロフ中  
 將ハ是夜十時過躬ヲ水道ニ碇泊シ在ル「ギリヤーク」ニ赴ケリ是レ躬ヲ終夜警戒ニ  
 當ラントシ部下ヲ戒飭セント欲セシナリ  
 十一日朝艦隊ハ全編制ニテ出港セリ然レトモ出港ニ時ヲ移シ東方ニ針路ヲ取リ  
 大連灣ニ到リシハ既ニ正午頃ト爲リ遂ニ得ル所無クシテ歸航セリ  
 十二日晚驅逐艦八隻ヲブーブノフ大佐ノ指揮ニ屬シ長山列島ニ派遣セリ翌朝ハ  
 「バヤン」ヲ派シテ之ヲ迎フル筈ナリキ此驅逐隊ハ是夜八時出港シ廣鹿島ノ側ヲ過

キ長山島附近ヲ巡航シ歸途ニ就ケリ三山島附近ニ到ルヤ夜將サニ明ケントシ日本驅逐艦三隻ヲ發見セリ是時迄ニ露ノ驅逐艦三隻ハ既ニ踪跡ヲ失シ五隻ト爲レリ然レトモ日本艦ヲ追フテ幕進セリ然ルニ約半時間ヲ經テ東南方ニ煤煙ヲ認メ次テ日本艦隊現出シタリ乃チ露ノ驅逐隊ハ旅順港方向ニ回避セリ

第七回日本艦隊ノ襲撃

此間廣鹿島附近ニ於テ驅逐隊ト分離シタル「ストラシヌイ」及「スメールイ」ハ途ニ本隊ト合セス「スメールイ」ハ歸還シ天明ノ頃旅順港ニ達シタリ然レトモ「ストラシヌイ」ハ途中日本艦八隻ト遭遇シ友艦ナリト誤認シ之ト同行シタリ然ルニ天明ニ及ヒ軍艦旗ヲ掲クルヤ忽チ日本艦ヨリ一齊ニ射撃ヲ受ケ退却ヲ始メタルモ艦長以下死傷シ益々日本驅逐艦ノ壓迫ヲ受ケ遂ニ沈没セリ「スメールイ」ハ砲聲ヲ聞キ之ニ赴援シタルモ既ニ遅ク反テ四倍優勢ナル敵前ニ於テ退却スルノ已ムヲ得サルニ至レリ是時「バヤン」出港シ來リ日本驅逐艦ハ遁逃セリ然レトモ之ニ代リ六隻ノ日本巡洋艦現出シ「ストラシヌイ」ノ沈没地附近ニ於テ沈溺セントスル兵員五名ヲ救助セル「バヤン」ニ向ヒ砲火ヲ開ケリ同艦ハ之ニ應砲シツツ旅順港ニ回航セリ是時曩ニ長山列島ニ赴キシ五隻ノ驅逐艦ハ日本軍艦ノ側ヲ過キ旅順港ニ歸還スルヲ得タリ

マカロフ中將等ノ溺死

露ノ驅逐隊長山列島ニ向フ間ニ恰モ日本艦隊ハ旅順外港ニ水雷ヲ布設センコトヲ企テ港口前ニ現出セリ當時水道外方ニ碇泊セル「デアナ」艦上ニ在リタル「マカロフ」中將ハ之ヲ見テ反テ友軍ノ相失シタル驅逐艦ナリト誤認シ哨艦ニ命シ砲撃ヲ禁シタリ因テ日本ノ蛟龍丸ハ何等ノ障礙ニ遇ハス水雷沈置ノ業ヲ畢リ探海燈及砲台ニ向ヒ射撃シ悠々退却セリ「マカロフ」中將ハ日本驅逐艦ノ現出ハ必ス艦隊ノ現出ヲ伴フヲ知り長山列島派遣ノ驅逐隊ノ運命ヲ憂慮シ艦隊ニ早朝出港ヲ命シタリ是時例ニ反シ掃海ヲ行ハス艦隊ハ微速力ヲ以テ東航シ附近ニ歸還セル驅逐艦ヲ歸港セシメ「バヤン」ヲ援助シテ日本巡洋艦ヲ遁逃セシメタルモ日本戰艦現出スルヲ認メ之ト交戦スルヲ避ケテ歸途ニ就キタリ然ルニ其先頭ニ在リシ「ペトロバウ」ロフスク「ハ」水雷ニ罹リ爆發シ司令長官「マカロフ」中將、參謀長「モーラス」少將初メ乗員五百七十六名ハ殆ント全部溺沈シ唯「キリル」大公、艦長「ヤーコフ」レフ大佐外約九十名十三人ニ七救助セラレタルノミ此間「ボベード」モ亦水雷ニ罹リ傾斜シ水面ヲ砲撃シテ水雷ヲ避ケツツ歸港セリ其他ノ諸艦ハウフトムスキ「少將」ノ信號

ニ依リ相次テ内港ニ入レリ

マカロフ中將旗艦ト共ニ沈没セルハ痛ク露軍ノ志氣ヲ沮喪セシメタリ之ニ因リ新任司令長官ノ來著迄極東總督アレクセエフ海軍大將躬ヲ艦隊ノ指揮ヲ執ランカ爲メ奉天ヨリ旅順口ニ來ルコトト爲レリ

艦隊ノ港内整伏

此遭厄後當分露國艦隊ノ出港ハ不可能ト認メタリ當時戰艦中完全ノ状態ニ在ルモノハ「ボルタワ」ト「ベレスウエト」アルノミ巡洋艦小隊ハ全編制ニテ完全ナリシモ「バヤン」ヲ除クノ外ハ偵察若クハ驅逐隊ノ掩護ニ用ヒ得ルニ過キス「バルラダ」ハ幾モ無クシテ出渠シ之ニ代リテ驅逐艦四隻ヲ入渠セシムル豫定ナリキ

十四日夜日本人ハ再ヒ外港ニ現ハレ水雷ヲ沈置セリ

極東總督ノ旅順口到着

十六日朝極東總督旅順口ニ著シ「セワスト」ボリニ坐乗セリ戰艦々隊ハ公爵ウフトムスキー少將ノ指揮ニ屬セリ

第八回日本艦隊ノ襲撃

十五日朝日本艦隊旅順口ノ視界ニ現ハレ其二艦日進ハ老鉄山沖ヨリ内港及水道ニ向ヒ間接射撃ヲ行ヘリ露ノ軍艦ハ十二吋砲ヲ以テ之ニ應射セリ二時間ニ亘ル砲戰間敵彈ノ爲メノ損害ハ無カリシモ「セワスト」ボリノ前部十二吋砲發射ノ際

砲塔ノ一部ヲ破壊シ戰役ノ終局迄用ヲ爲ササリキ日本艦隊ハ正午頃退去セリ

極東總督ノ艦隊指揮ヲ執ルヤ其參謀長ウキトゲフト少將ヲ艦隊ノ參謀長ニ補シ麾下各艦長ヲ旗艦ニ招キ第一ニ損傷軍艦ノ急速修理ヲ行ヒ外港錨地ニ間斷ナク掃海ヲ行フヘキ方針ナルヲ示セリ當時ウフトムスキー公ハ戰艦ヲ指揮シ再ヒ將旗ヲ「ベレスウエト」ニ移シレイツェンシタイン少將ハ依然巡洋艦ヲ指揮シロスチンスキー少將ハ外港ノ掃海事業ヲ擔當シタリ

日本軍艦ノ鳩灣方向ヨリ砲撃ヲ行ヒシ當時老鉄山燈台附近ニハ六吋砲台築カレ備砲シ在リシモ日本艦隊ノ砲撃ニ遇ハンコトヲ恐レ敢テ發射セサリシト云フ此頃老鉄山附近日本軍艦カ砲撃スル位置ニ水雷ヲ布設スルコトト爲リ二十二日汽艇三隻ヲ派シテ之ヲ行ハシメシカ沈設ノ際水雷爆發シ其一隻ハ沈没セリ其後四月中露ノ軍艦ハ遂ニ一隻モ出航セサリキ唯驅逐艦等小船艦ノミ時々出動セリ

第三回閉塞

五月二日夜日本軍ハ第三回ノ閉塞ヲ企テタリ是夜荒天ニシテ月アリシカハ閉塞ナカリシト思ヒシニ三日午前二時頃銃聲起リ總督ハ「オトワジヌイ」ニ赴ケリ例ニ



依リ哨艦及砲台ハ猛烈ニ砲撃ヲ加ヘ驅逐艦ハ水雷ヲ放チタリ之カ爲メ閉塞船ハ或ハ水雷ノ爲メ轟沈スル有リ或ハ防材ニ衝突スル有リ諸所ニ沈没セリ本夜波浪高カリシ爲メ閉塞船乗組ノ日本兵ハ沖ニ逃ルル能ハスシテ岸ニ打チ寄せラレ將校二名下士卒三十名捕虜ト爲レリ然レトモ皆負傷シ在リ其他ハ露ノ哨兵ニ向ヒ射撃シ或ハ抵抗ヲ續行セル者アリ此閉塞船沈没後モ戰艦ノ出動シ得ル航路ハ開通シ在リ然レトモアレクセエフ大將ハマカロフ中將ノ例ニ倣ハス其艦隊ヲ外港ニ出航セシメサリキ蓋シ當時日本軍ノ上陸ヲ妨害スルニ全力ヲ盡クスノ意無ク寧ロ早ク其地點ヲ知ランコトヲ欲セシニ因ルナラン

波羅的海艦隊増遣ノ準備

五月初波羅的海ニ於テロジエストウエンスキー中將ノ艦隊ヲ東亞ニ回航セシムル準備ニ著手セリ是ヨリ旅順艦隊ハ一ニ此増遣艦隊ノ到着ヲ待ツコトト爲レリ

(二)陸上正面ノ情況

第一回日本艦隊襲撃時ノ狀態

二月九日日本艦隊ノ襲撃アリシ當時旅順要塞ハ纔ニ其一半ノミ構築セラレ未タ完成セス海正面ノ砲台スラ全部ニ將校ヲ配置シ完全ニ使用スルニ至ラサリキ又警報ノ際各部隊ノ取ルヘキ方法ノ規定無カリシニ因リ日本艦隊ノ砲撃ヲ受クル

旅順半島指揮權ノ不確立

ヤ露軍ハ大ニ周章混雜ヲ極メタリ當時要塞ノ守兵トシテハ前年十月新設セラレタル東狙兵第七旅團三大隊砲兵第七大隊并ニ要塞砲兵二大隊、要塞工兵一中隊總計八千人ニ過キス從來久シク此地ニ駐屯シタル東狙兵第三旅團及東狙砲兵大隊ノ大部ハ一月中旬既ニ遼陽蓋平間ニ進メラレ其最後ニ殘リシ第十一聯隊モ亦八日迄ニ大石橋ニ輸送セラレテ營口方面ノ警戒ニ任シウエルフネウジンスクウラウキ哥騎兵第一聯隊ノ大部ハ貔子窩附近沿岸ノ監視ニ任シ其殘留セルハ東狙兵第三旅團ノ補充大隊、ウエルフネウジンスク哥騎兵第一聯隊ノ第四中隊、東部西伯利砲兵第二旅團ノ第一中隊、後ヲ東狙砲兵第四旅團第三中隊ト爲ル東部西伯利工兵第二大隊ノ電信一中隊等ニシテ旅順口附近ニ在リ又東狙兵第四旅團後ヲ師團ニ擴張及後貝加爾砲兵大隊二中隊等ニシテ後チ第四旅團ハ青泥窪ニ在リ

旅順半島ノ軍隊及要塞ノ指揮ノ關係ハ久シク整理セラレサリキ開戦ノ頃ハ關東州軍隊司令官ステッセル中將ハ假リニ要塞ノ指揮權ヲ執リタリ千九百三年九月以來アレクセエフニ代リ要塞司令官タルニ二月九日附極東總督ノ命令ヲ以テ戰時金州及旅順口ノ防禦陣地ノ守備ハ旅順要塞司令官ニ委セラレ其翌日ヲ以テ自今戰時狀態ニ入りタル

旨ノ布告アリ次テ二月十二日ステッセル中將ハ西伯利第三軍團長ニ任セラレ旅順要塞司令官ニハ狙撃兵第二旅團長スミルノフ少將ニ昇任中將ニ任命セラレ其到着スル迄ステッセル中將ハ要塞ニ留マルヘキ旨十六日ヲ以テ命令セラレタリ

三月十七日ニスミルノフ中將旅順口ニ到着セシモステッセルハ尙ホ同地ニ留マリ兩者ノ權限判明セサリシカ三月二十九日ステッセル中將ハ關東半島諸隊司令官ニ任セラレ要塞司令官モ亦之ニ隸屬スルコトト爲レリ此ノ如ク指揮權屢移動セラレ不確實ナリシニ因リ其後要塞内ニ於ケル諸官廳司令部間ニ權限ノ紛爭絶エサリシト云フ

日本軍ノ上陸ニ對スル防備

開戦ト同時既記ノ如ク日本艦隊ノ襲撃ヲ受ケ彼我海軍力ノ懸隔ヲ生シ露國艦隊ハ殆ント港内ニ蟄伏スルニ至リシカハ遼東沿岸ハ全ク暴露セラレ結氷ノ害ナキ大連灣附近ニハ何時日本軍ノ上陸スルヤモ測ラレサル形勢ト爲リ殊ニ防備未タ完成セサル要塞ニ對シ奇襲的ノ上陸ヲ行フコト有ルヘシトノ憂慮ヲ抱クニ至レリ

關東半島中上陸ニ便利ナル地點ハ大連灣ニシテ殊ニ青泥窪ハ適當ノ地ナリ是ヲ

南山陣地ノ由來

以テ露軍ハ此ニ日本軍ノ上陸センコトヲ妨碍スルノ目的ヲ以テ二月九日「ボヤーリン」護衛下ニ「エニセー」ヲ派遣シ港口ニ水雷ヲ布設セシメ「エニセー」ハ十日ヨリ十一日「爆發」ニ遇ヒ沈没セリ尙ホ金州以東ヨリ上陸スルノ虞アル日本軍ニ對シ關東半島ヲ防備センカ爲メ南山ノ地頭ニ殘存セル堡壘ヲ修築シ爲シ得ル限り之ヲ堅固ニスヘキ命令ヲ發シタリ其後大窩口八隻船灣ニモ水雷ヲ數設シ是月下旬此地頭ノ防禦編成ハ北清事變ノ際千九百年六月露國守備隊ノ始メテ起工セルモノニシテ金州市街ト併セテ防備セリ是時南山ノ陣地編成ハ野戰的工事ニシテ陣地ノ角面堡(附圖第二ノZs.No.)陣地ノ東南斜面中腹ニ一箇ノ角面堡(附圖第一ノZs.No.)ヲ設ケ陣地ノ中央高地ニ砲台十三個(附圖第二ノZs.No.)乃至之ノ位置ニ相當スルヲ築キ角面堡二個(附圖第二ノZs.No.)ヲ設ケ斜面ノ中腹ニ總延長二百五十「サ」左右兩翼ニ砲台二個(附圖第二ノZs.No.)ヲ設ケ斜面ノ中腹ニ總延長二百五十「サ」左右兩鐵線網ヲ設ケタリ六砲台ニハ要塞砲他ノ六砲台ニハ野戰砲ヲ備ヘ總計九十一門ヲ有シ東狙兵第十二聯隊ハ此地ノ守備ニ任シタリ

陣地設計案

其後此陣地ハ荒廢ニ歸セシカ千九百三年夏東亞ノ防備ヲ増大ニセル頃此ニ永久的堡壘ヲ築設スルノ議起レリ然レトモ幾モ無ク日露間ノ葛藤急ヲ告ケシ爲メ此議ハ寢ミ千九百四年二月三日更ニ此地ノ防備ヲ檢閲シ

第四篇 金州、南山戰闘

一 日本軍上陸迄旅順半島ニ於ケル諸情況

二十九

聯隊長<sup>シユワルツ</sup>工<sup>チンチョウ</sup>金州及南山陣地ニ關シ大要左ノ設計案ヲ得タリ

一 金州城壁上<sup>チンチョウ</sup>南面壁ヲ除クニ胸墻<sup>高ニ米突三五</sup>冠シ圍壁ノ内側ニ急造密室ヲ設

ケ四門ノ内方ニ筐舎ヲ構築シ城門側ニ通路橫斷ノ散兵壕ヲ構築シ竹製階梯及

投下爆藥ヲ準備シ守兵トシテ機關銃四門ヲ有スル步兵二中隊ヲ充ツルコト

二 南山陣地ニ殘存シ崩壞セル構築物ヲ修繕シ之ニ多クノ掩蓋ヲ設ケ依然陣地防

禦ヲ陣地ノ頂上ニ集メ鐵道線路ト陣地トノ間ニ散兵壕及支撐點ヲ設ケ以テ手

灣トノ間隙ヲ閉塞シ中央凹地ニ豫備隊及倉庫ノ爲メ掩蓋ヲ設ケ飲料水ヲ内部

ニ探求シ交通路ヲ開設シ各砲台間及大窰口<sup>カキヤク</sup>大連旅順口等ノ各地間ニ電話ヲ以

テ連絡ヲ通シ敵ノ萬一青泥窪<sup>グニヰ</sup>附近ニ上陸スル場合ニ應センカ爲メ南面ニモ防

備ヲ施シ北方斜面ノ防禦線ヲ前方ニ推進スニ至リ之ヲ前方ニ推進スル如ク設

更セリ此陣地ノ攻撃點ハ右翼及中央部ニ在リト判斷シ此兩方面ニ人工障礙物

ヲ設ケ左翼前ハ十字火ヲ以テ迎へ得ルカ故ニ單ニ凹地ノ入口ニノミ閉塞ヲ設

置スルコト

三 工事ハ備人夫ヲ以テシ守備隊タル東狙兵第五聯隊ヲシテ援助セシメ聯隊長ト

レチャコフ大佐及工兵一等大尉シユワルツハ作業ノ指導ヲ擔任シ守兵ニハ最  
少限三大隊ヲ充ツルコト

陣地ノ竣  
工

此設計ヲ關東州會議ニ附セシカ費用ノ點ニ於テ躊躇セリ然ルニ二日ヲ經テ開戰  
スルニ至リシカハ九日ヨリ之カ工事ノ準備ニ著手シ十一日ヨリ匙鏃ヲ下セリ爾  
來何時ニテモ敵ノ攻撃ニ應シ得ンカ爲メ漸進構築法ニ依リ主要部ヨリ逐次完成  
スルヲ勉メ<sup>金州城ノ工事ハ三月約五十日ノ後即チ四月三日ヲ以テ全部竣工ヲ告</sup>  
ケタリ此間マカロフ海軍中將赴任ノ途次之ヲ巡視シ<sup>三月八日</sup>金州灣ニ對シ大口徑砲  
ヲ備フルコトヲ勸告シタリ又試驗射撃ヲ行ヒ<sup>三月十日</sup>コンドラレンコ及フオーク

兩師團長モ臨場シタリ工事竣工スルヤ四月三日アレクセエフ極東總督ステッセ  
リ中將等陣地及守備兵ヲ檢閲シタリ此頃ニ至リ東狙兵第五聯隊ニ増加セラレタ  
ル第三大隊歐露ヨリ到着シ亦此檢閲ヲ受ケタリ

工事ノ日子ハ五十日ナリシモ雨天等ニ妨ケラレタルヲ除キ實際從事セシハ約四  
十日ナリキ支那人夫ハ初メ新年等ノ爲メ應募者無カリシカ二月中旬以後多キハ  
一日ニ五千人ヲ使役シ東狙兵第五聯隊ト共ニ從事セリ作業總費ハ六萬三千留ヲ

要シタリ

陣地完成後四五月ノ交ハ東狙兵第四師團長ノ指揮ニ依リ第十砲台附近ヨリ海岸ニ至ル追加ノ散兵壕ヲ増築シ且ツ歩兵線ニ榴霰彈ニ對シ安全ナル帽堡ヲ構築シタリ而シテ東面及北面ニ布設セル地雷線ニハ尋常地雷ヲ相互二十米突ヲ間シ埋設シ其深サハ成ルヘク一米突トシ各之ニ二十五吉瓦ノ黑色火藥ヲ裝填シ擲石地雷ト交互配置セリ導火索ナカリシニ因リ電氣發火ノ爲メ歸線トシテ土地ヲ用ヒ雷ト交互配置セリサハルヲ得ヌ之カ爲メ三月大雷雨ノ際二十七個ノ地雷ハ自ラ爆露國千八百七十七年式野砲ヨリ成リタリ五月二十一日十珊米七砲二門十五珊米輕加農四門旅順口ヨリ陣地ニ搬致セラレ第三、第五砲台ニ備附セラレタリ然レトモ其彈藥準備ハ砲一門ニ對シ多クモ百五十發ニ過キサリキ次テ二十二日「カネ」式十五珊米海軍砲一門到着セリ此砲ヲ中央角面堡ニ配附セントセシカ其畢ラサルニ方リ日本軍ノ攻撃ヲ受ケタリ又金州灣ニハ海軍大尉チルコフ等ヲ派シテ若干ノ水雷ヲ布設セリ

陣地防禦概成ノ梗概

此ノ如クシテ編成シタル南山陣地ハ附圖第二及第三ノ如シ其防禦編成ハ獨立セ

砲地ノ備

發シ更ニ之備砲ハ當初八門ノ野砲十二門ノ八十七密米清國舊式野砲及四十門ノ

ル二部ヨリ成ル即チ歩兵防禦ハ陣地ノ下方ニテ兩海岸ノ間ニ延長シ四個ノ堡壘ヲ備フル下層ノ散兵壕全部新設線ト頂界線ニ設ケタル上層ノ散兵壕修復及新設線ヨリ成リ其前方ニ地雷及鐵條網共ニ新設ニシテ鐵條網ノ砲兵防禦ハ主トシテ陣地ノ頂上ニ集マリ此ニ二十三個ハ修復擴張ニシテ全部改造其他ハ修復ノ砲台ヲ備ヘ且ツ兩翼ニ二個ノ砲台新設ヲ有シ別ニ陣地ノ南方大連灣岸ニ一砲台新設ヲ有リ尙ホ頂上ニハ閉鎖堡壘ノ形狀ヲ有スル三個ノ歩兵用據點アリ陣地ノ中央ニ於ケル各凹地ニハ掩蓋附兵舎、倉庫及豫備隊ノ掩蓋又ハ綑帶所、電話所ノ掩蓋及井ヲ設ケ電話線ヲ以テ砲台及地區ト南山ノ最高點ニ於ケル中央電信所トヲ連絡シ此ニハ前地ヲ照ラスヘキ探照燈ヲ備ヘリ此間旅順口ニ於テモ亦開戰以後要塞背面ノ防禦工事ニ繁忙ヲ極メ要塞司令官スミルノフ中將到着迄ハ工兵科出身ナル第七師團長コンドラテンコ少將之カ任ニ膺リ殆トチンチョウ金州附近ノ前進陣地ヲ願ルノ暇無キ狀況ナリ

南山陣地ハ露軍ニ於テ當初之ヲ難攻不落ト唱ヘタリ是レ青泥窪ノ住民日本軍上陸ノ報ヲ聞キ逃走スル際ステッセリ中將カ之ヲ諭スニ用ヒタル語ニシテ遂ニ廣

ク傳播セリ

日本軍ノ  
上陸ニ對  
スル陸海  
軍ノ協定

二月十日アレクセエフ總督ハ將校一同ニ令スルニ其家族及妻ニシテ負傷者看護  
志願ノ外ハ歸國セシムヘキ旨ヲ以テセリ然レトモ悉ク實行セラレスステッセリ  
中將ノ如キハ其妻ヲ留メ其他ノ將校ニシテ之ニ倣ヒシ者アリ青泥窪ノ露國民ハ  
其地軍港ニ非サルカ故ニ日本軍ノ砲撃ヲ蒙ルコト無キヲ期シ若干殘留セリ  
三月八日マカロフ海軍中將ノ到著ト同時ニ輕氣球隊長到著セシモ材料ト部隊ト  
ヲ缺ケリ是レ輕氣球材料ヲ運搬スル汽船「マンヂェリア」ハ開戰當初日本艦隊ヨリ  
捕獲セラレタルニ因ル其後氣球隊長ハ絹布及麻布ヲ以テ各一個ノ氣球ヲ製セリ  
然レトモ良好ナル塗料無カリシ爲メ實用ニ供スルニ至ラザリキ  
三月中旬水雷一中隊到著シ八隻ノ小舟及二隻ノ單桅船ヲ齎セリ又之ト同時ニ二  
百七十個ノ「ガルバニ」電氣水雷百個ノ觸發水雷三十個ノ海底水雷及百八十五吉米  
六ノ裝甲海底線ヨリ成レル水雷材料旅順口ニ到著セリ  
三月十七日スミルノフ中將旅順口ニ到著スルヤ直ニマカロフ中將ト協議シ日本  
軍上陸スル場合ニハ陸軍ヨリ歩兵三聯隊及野戰砲兵全部ヲ上陸點ニ派遣スヘク

全艦隊モ亦此ニ前進スヘキコトヲ決定シ其他防禦工事ヲ檢閲シ新ニ工事ヲ起サ  
シメ一層繁忙ヲ増セリ



五月四日  
關東兵團  
ノ配置

魏子窩ノ間ニ在リ

其他五月四日日本運送船隊ノ鹽大澳附近ニ現出セル頃旅順口防禦ニ任セル關東兵團十二門工兵約二大隊、番騎兵一中隊、野戰砲六ハ左ノ配置ニ在リ

一、東狙兵第五聯隊ノ守備隊タリ北京ハ南山及金州附近ニ在リテ防禦陣地ノ守備ニ任ス

二、東狙兵第四師團(東狙砲兵第四旅團共)ハ首力ヲ以テ青泥窪、南關嶺及柳樹屯ニ位置シ、金州南方、大連灣附近ノ防備ニ任ス

三、爾餘ノ諸隊(東狙兵第七師團(東狙砲兵第七大隊共)同第三師團ノ殘留兵混成大隊、エルフネウジンスク、哥騎兵第一中隊、地雷中隊、電信隊、水雷隊、鐵道兵若干、憲兵隊ハ關東要塞砲兵三大隊、工兵一中隊、地雷中隊、電信隊、水雷隊、鐵道兵若干、憲兵隊ハ

概子旅順口附近ニ在リ

當時普蘭店ニハ東狙兵第四聯隊ノ一大隊アリ其以北蓋平間ニハズイコフ少將ノ率ウル歩兵四大隊、砲兵一中隊、護境兵二中隊アリ又魏子窩及唐家房ニ大孤山ヨリ出セル「ウエルフネウジンスク」哥騎兵第一聯隊ノ一中隊アリ其他海岸諸所ニ監視哨ヲ配置シ在リ

日本軍ノ  
上陸

五月四日夕魏子窩附近ニ七隻ノ運送船ヲ見、次テ四十隻ニ増加シタリ

アレクセエフ總督此報ニ接スルヤ直ニステッセル中將ニ向ヒ野戰砲兵一中隊ト共ニ東狙兵第四師團ヨリ混成獵兵支隊ヲ魏子窩ニ派遣スヘク、訓令シ尙ホ普蘭店ニ在ル東狙兵第一師團ノ一大隊ヲ魏子窩ニ派遣スヘキヲ命セリ此部隊ニ與ヘラレタル任務ハ上陸軍ヲ防止シ若シ強大ナル敵軍上陸セハ其鐵道線ニ從ヒ前進スルコトヲ極力防止スルニ在リ之ト同時ニ軍司令官クロバトキン大將モ亦シタケリベルグ中將ニ命令スルニ歩兵四大隊、騎兵一中隊、砲兵半中隊ニ僅少ナル輜重及五日間ノ糧食ヲ附シ上陸點ニ派遣スヘキヲ以テセリ此支隊ノ指揮官ニハズイコフ少將任命セラレタリ

翌五日朝日本軍ハ砲火ノ掩護ニ依リ海岸ニ上陸ス是時六十隻ノ運送船アリ露ノ監視哨ハ海岸ヨリ退却シ魏子窩ニ住セシ僅少ノ露國人ハ同地ヨリ撤退シ同時ニ郵便電信局ノ書類ヲ搬去セリ

日本軍上  
陸地點ノ  
偵察

是日五普蘭店ヨリ中佐ランツエフノ率ウル東狙兵第四聯隊ノ三中隊及獵兵四隊ハ上陸地ニ向ヒ出發セリ中佐ハ歩兵一中隊及獵兵一隊ヲ魏子窩ニ派遣シ二中隊

及獵兵三隊ヲ率テ是夕大沙河河口附近ニ達シ日本軍ノ上陸地點ヲ偵察シ鹽大澳受益河口附近ノ村落ニ一萬人ノ兵力アルヲ知レリ歸途孫家屯附近ニ於テ優勢ナル日本兵ト衝突シ西方ニ回避セサルヲ得サルニ至レリ又貔子窩派遣中隊ハ日本軍大沙河々邊ノ唐家房ヲ占領シ在ルヲ認メテ普蘭店ニ歸還セリ

總督旅順ヲ去ル

是日午前十一時アレクセエフ總督ハ勅許ヲ得テボリスウラヂミロウチ大公及府員ト共ニ滿洲軍ニ向ヒ旅順口ヲ出發セリ是頃マカロフ中將ノ後任タルスクルイドロフ中將ハ尙ホ赴任ノ半途ニ在リ因テ已ムヲ得ス太平洋第一艦隊司令官ニ從來總督ノ參謀長タリシウキトゲフト少將ヲ臨時任命セリ艦隊參謀長ニハ「セロ」ヲ任命セリ總督ハ出發ニ先テ兩驅逐隊司令ヲ旗艦ニ集メ少シニテモ日本軍ノ揚陸ヲ沮害スヘキ旨ヲ諭示セリ當時完全ナル驅逐艦ハ十二隻アリ月ハ下弦ニシテ貔子窩迄近距離九十浬アリ夜間ハ八時三十分時アリ兩司令ハ之ヲ考慮シ假令能ク掩護セラレタル日本運送船ヲ襲撃シ得ルトスルモ歸途曉ノ頃ニハ大連灣ニ達スルノ計算トナルカ故ニ巡洋艦ヲ派シテ掩護セラレンコトヲ望ムト答ヘ總督ハウキトゲフト少將ト稟議スヘキ旨ヲ述ヘ告別シテ去レリ

海軍ノ行動

然レトモ是日輸送途中總督ハ此件ニ關シウキトゲフト少將ニ打電シ日本運送船ニ對シ水雷攻撃ヲ行フヘキヲ命セリ少將乃チ各司令官艦長ヲ集メテ會議ヲ開キタリ其議事録ニ載セタル決定次ノ如シ曰ク艦隊中完全ノ状態ニ在ル軍艦ノ數僅少ナルト外港錨地ニ敵水雷ノ夥シク散布シ在ルトヲ以テ艦隊ノ出港ハ全然滅亡ノ因ヲ爲シ隨テクロンシタットヨリ回航スル艦隊ハ旅順口ニ來リ何等ノ應援ヲ受ケサルコトト爲ルヘク又軍艦ノ掩護ナクシテ驅逐隊ノミヲ派出スルハ目的ニ適合セスシテ是亦此等ノ滅亡ヲ招クモノナリ因テ少將ハ此決議ヲ總督ニ回電セリ

海軍砲ノ引揚

其後ウキトゲフト少將ハレイツェンシタイン少將ニ命シ巡洋艦驅逐艦ノ協同動作ニ關シ計畫セシメタルモ實行ノ際ニ臨ミ毎ニ巡洋艦ノ出港不可能ト爲リ之ヲ果サス從テ驅逐艦ハ近距離ノミヲ航行セリ  
總督ノ退去後旅順口ノ防禦ニ關シ陸海軍將校間ニ會議開カレ海軍ヨリハ軍艦ノ戰鬥力ヲ弱メサル限リ其艦砲ヲ卸下シテ陸上陣地ニ揚クヘシト決セラレタリ是ヨリ先キ既ニ「ジギット」「ラズボイニク」「エルマク」及「アンガラ」等ノ艦船ヨリ撤去シタ



ル砲其他海軍所屬ノモノヲ海正面ノ陸上砲台ニ備附セシカ向後此等ヲ海正面ヨリ撤シ陸正面ニ移スコトト爲レリ又清國ヨリ鹵獲セシ砲ノ中ヨリ陸上防禦ニ使用シタルモノ若干アリ此頃「アンガラ」ノ全備砲ヲ撤去シ之ヲ病院船ニ改造シタリ而シテ陸上防禦線ヲ數區ニ分チ每區ノ工事ヲ一艦毎ニ課セラレタリ

ステツセ  
ル中將ノ  
旅順要塞  
防守ノ訓

六日旅順口ニ於テハ皇太后ノ命名日ニ際シ盛大ナル神事ヲ舉ケ式畢リテステツセリ中將ハ守備軍ノ觀兵式ヲ行ヒ左ノ訓示ヲ下セリ

四月三十日、五月一日敵ハ強大ナル兵力ヲ以テ鴨綠江ヲ渡リ我軍ハ豫定ノ陣地ニ退却セリ昨日敵ハ遼東(リフオトシヒスウオキ)子窩附近ニ上陸セリ惟フニ敵ハ鐵道線ヲ中斷シ我軍隊ヲ旅順口ニ壓迫シ極東ニ在ル露軍ノ根據地タル旅順要塞ヲ攻圍スルナラシ汝等ハ我救援軍到着スル迄要塞ヲ防守スヘシ常ニ警戒ト監視ヲ怠ラス靜肅ニ沈着シテ敵ヲ迎ヘ如何ナル場合ニモ不意ノ出來事ニ驚ク勿レ是レ予ノ義務トシテ告ケント欲スル所ナリ記憶セヨ我等ハ神助ト共ニ現下ノ困難ナル任務ヲ果シ得ルコトヲ

是日旅順口ヨリ出發セシ旅客用車ハ普蘭店西南方二露里ニ於テ日本歩兵ノ射擊

日本兵營  
附近  
鐵道電信  
線ノ破壞

ヲ受ケタリ旅客列車ノ外ニ患者二百餘名ヲ載セタル郵便列車モ亦日本兵ノ射擊ヲ受ケ機關手ハ制轉セシカ一將校ノ要請ニ因リ急ニ赤十字旗ヲ掲ケ速力ヲ増シテ恙ナク瓦房店停車場ニ到着セリ此汽車射擊ノ後幾モ無ク八時前日本部隊ハ普蘭店停車場ニ現出セシカ同地ノ露軍部隊ト少時激戰ノ後擊退セラレタリ然レトモ日本兵ハ停車場南端ニ於ケル鐵道橋ノ軌鐵ヲ毀損シ電線ヲ破壞シタリ

ズイコフ  
少將支隊  
ノ退却

露軍司令部ハ此汽車射擊ノ報ニ接シ軍參謀長サハロフ中將ヨリ護境兵司令官ニ宛テ左ノ如ク打電セリ

貴官ハ即時左ノ命令ヲズイコフ少將ニ傳達スヘシ  
軍司令官ハ貴下ノ支隊ノ成ルヘク速ニ退却スヘキヲ命セラル但今日中ニ夜行軍ヲ行ヒ又爲シ得ル限リ鐵道ニ由リ退却スヘシ列車ノ準備ニ關シテハ既ニ其手續ヲ爲シ置ケリ鐵道ニ由ラサル部隊ハ二日行軍ヲ以テ熊岳(シムンユク)停車場ニ達セシコトヲ望ム貴官ハ護境兵ヲ率キ退却掩護ノ爲メ沿海龍騎兵ヲ集合スヘシ  
七日ズイコフ少將ハ其支隊ヲ得利寺附近ニ集合シ同日退却ヲ開始セリ護境兵ハ普蘭店ヨリ之ニ跟隨セリ輸送シ得ヘキ停車場設備ハ後黑龍鐵道兵第四大隊ノ一

部之ヲ撤去セリ此鐵道兵ハ又普蘭店附近ノ電線ヲ破壞セリ普蘭店ニハテニソフ大佐ノ指揮スル沿海龍騎兵聯隊及護境兵哥騎兵ノ各二中隊ノミ殘留シ日本軍ト觸接シ今後ノ上陸經過ヲ監視スルニ任セリ

ズイコフ少將退却ノ報旅順口ニ達スルヤステッセル中將ハ尙ホ傷病者及普通人民ヲ半島外ニ退去セシメンカ爲メ鐵道ヲ保持セント欲シ東狙兵第四師團ノ一支隊ヲ普蘭店方向ニ進マシメ鐵道ヲ警戒シ且ツ鐵道ニ達スル日本斥候ヲ驅逐セシメタリ

日本支隊  
五十里堡  
ノ攻撃

八日護境兵ハ五十里堡附近ニ於テ日本一支隊ノ攻撃ヲ受ケ激闘ノ後壓迫セラレタリ露軍ノ死者四名日本軍ハ同所ニ於テ電線ヲ破壞セリ然レトモ軌鐵ニハ手ヲ觸レサリキ

騎兵支隊  
五十里堡  
ノ偵察

テニソフ大佐ハ其騎兵支隊沿海龍騎兵二百名ヲ率キ是日夜三十里堡魏子窩間ノ地方ヲ搜索セシカ魏子窩西北方十里露軍ノ地ニ於テ散兵壕ニ據ル日本歩兵一中隊ト衝突シ護境兵一馬一頭負傷セリ此搜索ニ依リ日本軍ハ三十里堡東方數多ノ村落ニ歩兵一乃至三中隊砲三、四門ヲ配置シ夜間或ハ拂曉ニ乘シ一部宛西南方ニ移動

シタルヲ認メタリ又土人ノ言ニ據レハ是時迄日本兵ノ上陸セル者二萬人野砲並ニ攻城砲モ上陸セリ又魏子窩市ニハ千五百ノ日本兵アリト云フ魏子窩ノ西南方十二露里ノ一高丘ヨリ監視セル將校ハ日本ノ運送船七十九乃至百隻ナルコトヲ認メタリ

鐵道連絡  
ノ回復

是ヨリ先キ鐵道破壞ノ任ヲ以テ派遣セラレタル後黑龍鐵道兵第四大隊長中佐スビリドノフハ將校七名ヲ率テ下士卒十五名ト共ニ汽罐車二輛ヲ搭シ瓦房店ヲ發シ普蘭店ニ到リ偵察セシニ敵既ニ撤去シ橋梁ノミ破壞セラレ六時間以內ノ修理ヲ施セハ列車ヲ通シ得ルヲ知リ軍事交通部長ニ鐵道修理ノ意見具申ヲ爲シ修理スヘキ旨ノ電命ヲ得タリ因テ一タヒ瓦房店ニ復歸シ翌八日後黑龍鐵道兵第四大隊ノ一中隊及烏蘇里鐵道大隊ヲ率キ列車ニ由リ普蘭店停車場附近ニ到リ此ニ在ル破壞鐵橋全長十、サレハ橋梁ノ半ハ破壞セラレハニ應急修理ヲ加ヘ三十分ニ完成セリ因テ列車ヲ進メ三十里堡停車場前二十露里ノ地ニ到リシカ前方ヨリ來ル列車ニ會シ初メ敵ナルヲ疑ヒ之ニ對スル處置ヲ取リシカ近ツクニ及ヒ友軍ナルヲ知レリ即チ旅順口ヨリ參謀將校大尉ヲ載セテ來レルモノナリ

乃チ前途故障ナキヲ知り相共ニ三十里堡停車場ニ到リ翌日モ尙ホ列車ヲ運轉シ得ルノ望ヲ有シ瓦房店ニ歸レリ

是日青泥窪ニ於テハステッセル中將ノ命令ニ依リ浚泥船、小舟、小汽船二隻ヲ沈没セリ自餘ノ船舶ハ沈没スルコトヲ猶豫セラレタリ

翌九日遼陽ヨリ旅順要塞ニ送ルヘキ兵器彈藥ヲ載セタル列車瓦房店ニ到着セリ是ニ於テスビリドノフ中佐ハ萬一ノ場合ニハ兵器彈藥ノ全部ヲ爆破スルノ決心ヲ執リ躬ヲ列車ヲ指導シテ南下セリ之カ爲メ汽罐車及列車ノ下部ニ綿火藥ヲ裝置シ中佐ハ別ニ汽罐車ニ搭シ列車ノ前方三露里ニ在リテ進行シ午後四時無事ニ金州ニ到着シ第四師團長フオーク中將ヨリ其成功ヲ祝セラレタリ此ノ如クシテ鐵道連絡ハ全ク回復シ十日ニ至リ電信線ノ修理亦成レリ是日普蘭店西南十露里ニ在ル護境兵ノ前哨ハ日本軍ノ襲撃ヲ受ケ兵卒四名戰死シ八名負傷シタリ日本兵ハ鐵道線路ヲ占領シ之ヲ破壊シタル後翌日撤去セリ此破壊ノ箇所ハ十日スビリドノフ中佐ニ依リ修理セラレタリ

當時露軍ニ於テ偵知セル所ニ依レハ日本軍ハ八日ヨリ十日ニ至リ前進部隊ヲ以

テ貔子窩ヨリ西方十露里ノ地ヲ占領シ諸兵連合ノ千名ノ支隊ハ唐家房ニ一部ハ吳家屯車家屯ニ在リテ概テ普蘭店ヨリ東南十乃至十二露里ヲ距テ金州街道上ニ位置ス而シテ最西方ノ部隊ハ金州ヲ距ル二十露里ノ地ニ達シ在リ

十日ナデイン少將ノ率ウル歩兵六大隊砲兵一中隊ハ三十里堡ニ進ミタルモ日本大部隊ノ現出ニ因リ停止セリ此間日本ノ騎兵部隊并ニ鐵道附近ニ在ル僅少ノ歩兵ト衝突シ之ヲ驅逐セリ下士卒二名戰死シ同十四名ト馬匹十一頭負傷セリ

十一日旅順口ニ向ケ第二回ノ列車ヲ通過セシムルヲ得タリ

十二日日本ノ支隊ハ新ニ鐵道線ニ近ツキ普蘭店附近ノ鐵道ヲ破壊シ撤退セリ爲ニ大連ヨリ出タル役員ノ家族ヲ乗セタル汽車ハ通過スルヲ得ス後方ニ引還セリ是日ヨリ翌十三日ニ亘リ鐵道連絡愈々望ナキニ因リ瓦房店停車場ヲ閉鎖シ茲ニ連絡ヲ絶テリ此間九日護境兵第二十一、第四十二中隊ノ一部ハ鐵道ニ由リ旅順口ニ到着シ衛戍ノ増援ヲ爲シ又旅順海兵團ヨリ海兵十中隊ヲ陸上勤務ニ加ヘシカハ歩兵ノ總數ハ三萬一千ニ上リ其他ノモノヲ加ヘ守備兵ノ總員四萬一千六百ヲ算セリ(艦隊ノ乗員ヲ除ク)

五月九日  
旅順口  
ノ守備兵

鐵道最後  
ノ斷絶

是夜アダムス灣ニ日本艦隊現出シ探照燈ヲ以テ普蘭店ヲ照ラセリ又日本軍艦三隻日進、嚴ハ大窰口ニ入り砲火ノ掩護下ニ水雷艇ハ灣内ノ測量ヲ爲シ且ツ掃海シ水雷艇一隻第四十八號ハ水雷ノ爆發ニ遇ヒ七名負傷セリ

是日青泥窪ニ於テハ防波堤破壊ノ準備ヲ施シ其一ニ水雷ヲ爆發セントセシモ設備不完全ニシテ爆發セステ中將ハ其委員ニグリゴレンコ大佐ヲ任命セ

リ

十三日日本支隊ハ更ニ普蘭店停車場附近ニ現出シ西南方五露里ノ所ニテ鐵道ヲ破壊セリ又約千人ノ日本支隊ハ其西方九露里ノ地ニ前進シ他ノ三百人ノ歩騎兵一隊ハ瓦房店停車場附近ニ現出セリ

日本支隊ノ普蘭店占領

十四日歩兵二大隊、騎兵二中隊ノ日本支隊ハ普蘭店ヲ占領セリ是日日本軍艦數隻再ヒ大窰口ニ現ハレ露軍ノ臨時砲台(東狙兵第四師團ノ歩兵一中隊、砲六門アリ)ノ砲撃ヲ冒シ終日掃海ニ從事セシカ頗ル事業ヲ妨害セラレタルカ如シ宮古艦ハ水雷爆發ノ爲メ沈没シ六名負傷シ二名死セリ是日グリゴレンコ大佐青泥窪ニ來リ防波堤ヲ破壊スヘキヤ否ヤニ關シ協議セシ

カ之ヲ破壊セサルコトニ決セリ夕ニ至リ防波堤ニ試験的破壊ヲ試ミタルモ奏功セサリキ翌十五日ステッセル中將ハ防波堤破壊ヲ要セサル旨ヲ命シタリ

三 十三里台附近ノ戰團

支隊ノ任務

日本艦隊  
陸上ノ砲

五月十五日ステッセル中將ハ日本軍ノ二大縱隊前進スルノ報ニ接シフオーク中將ニ命スルニ成ルヘク大ナル損害ヲ敵ニ與ヘ後チ要塞地帯ニ退クヘキヲ以テセリフ。オーク中將乃チ其支隊東狙兵第五、第十四、第十六ノ一部隊、砲兵八、大、トヲ以テ十三里台ヨリ格條溝附近ニ亘リ陣地ヲ占領セシメタリ是時ロマノフスキー中佐ノ砲兵中隊ハ十三里台西方ニ暴露シテ布列セリ是ヲ以テ日本軍ハ續テ近接シ來リ彼我ノ間ニ砲火ヲ交フルヤ半時間内ニロマノフスキー中佐ハ負傷シ砲兵中隊ノ將校悉ク負傷シ下士卒ノ十分六、五ハ損害ヲ受ケタリ砲一門ハ破壊フオーク中將ハ敵ノ兵力優勢ナルヲ以テ支隊ニ退却ヲ命シ先ツ左翼ヨリ撤退シ右翼ニ及ヒタリ日本軍ハ進撃ヲ行ハス因テ妨害ヲ受クルコト無ク南山以西ニ退却シタリ

五月十四日以來十六日ノ戰團ニ於テ將校一名戰死シ少將ナデイン外九名ノ將校負傷シ下士卒ノ死傷合計約百五十名アリ

十六日日本艦隊ハ蓋平ノ西北海岸ニ現ハレ砲撃シ上陸ヲ始メタルモ暫クニシテ退却セリ是日旅順半島ノ北岸營城子灣ニハ日本艦隊現ハレ砲撃ヲ爲セリ

是日青泥窪ニ在リシ東狙兵第四師團ノ大部ハ南關嶺ニ赴キ第十六聯隊ノ二大隊ヲ青泥窪ニ殘留セリ

大孤山ニ在ル海岸監視哨ハ是日撤去ヲ命セラレタリ

十七日ステッセル中將南山陣地ヨリ旅順口ニ歸還ノ途中其列車日本軍艦ノ砲撃ヲ受ケ引還ヘスノ已ムヲ得サルニ至レリ因テ中將ハ約二時間街道ヲ騎行セシカ日本艦隊巡洋艦二隻、砲艦二隻、沖ニ去リシヲ以テ再ヒ汽車ニ搭シ僅ニ免ル、コトヲ得タリ

四 南山戰團

南山陣地ノ信賴

五月十六日十三里台附近戰團後フオーク支隊ハ南關嶺ニ退キタリ當時金州ノ西南方南山陣地ノ編成完結シ在リテ此陣地ハ難攻不落ナリト信セシヲ以テステツセリ中將ハ日本軍カ直接ニ旅順半島ノ海岸殊ニ青泥窪附近ニ上陸センコトヲ憂慮シ東狙兵第七師團ヲ旅順口ニ置キ二個ノ支隊ヲ出シテ東南海岸及西北海岸ヲ監視セシメ同第四師團ヲ南關嶺ノ鐵道交叉點ニ置キ大連灣ニ上陸ヲ豫期スル日本軍ノ拒止ニ備ヘ尙ホ要スレハ鐵道ニ由リ旅順口ニ應援スルニ便セリ

南山陣地ノ配備

南山陣地ニハ此工事ニ從事シタル東狙兵第五聯隊コトレチャアリテステツセリ中將ニ直屬シテ守備ニ任シ内第十中隊長エレメハ獵兵二隊ヲ併セ三百名ト爲リ金州城ノ守備ニ派遣セラレ在リ砲二門ヲ有ス其他東狙兵第十三、第十四聯隊ノ獵兵隊及機關銃十門ハ南山陣地ノ守備兵ニ増加セラレタリ野戰砲兵ハ陣地ニ配備セラレシテ唯、砲種ヲ異ニスル六十四門ノ大砲北清事變ノ遺獲砲ヲ含ミ彈藥ヲ備附シ之ニ使用スル爲メ旅順口ノ諸要塞砲兵十二中隊ヨリ編成セル要塞砲兵第十三中隊アリ海軍水兵若干ハカ子式砲備

南山陣地ノ防禦司令官タルトレチャコフ大佐ハ陣地ヲ三地區ニ分チ東部地區海手

鏡堡ニ至ルニハ第二、第三、第十二中隊ヲ充テ中部地區第三眼鏡堡(之ヲ含ム)ニハ第四、第六、第八中隊ヲ充テ西部地區第九角面堡(之ニハ第五、第七兩中隊ヲ充テ各地區毎ニ指揮官ヲ置キ殘餘ノ第九、第十一中隊ヲ總豫備トシテ躬ラ之ヲ率キ又全陣地ノ砲兵ヲ大尉ウキソキチユノ指揮下ニ置ケリ東狙兵第五聯隊ノ第一中隊ハ在

五月十六日先進部隊ノ要塞地帯内ニ退却スルヤ東狙兵第五、第十三、第十四聯隊ノ各獵兵隊ノ護境兵第二十、第三十六中隊及哥騎兵中隊ハ金州城ヨリ肖金山ヲ經テ手灣ニ亘ル線ニ前哨ヲ配置セリ十七日ニ至リ日本ノ斥候ハ金州城北ノ射距離外ニ出沒セリ

十八日老虎山ノ西方斜面ニ出テタル獵兵隊中尉之ヲ率ウハ日本歩兵三中隊ト衝突シ退却ニ方リ十字火ヲ受ケ戰死八名、負傷二十三名ヲ出セリ但シ日本兵二名ヲ俘虜トセリ

當時露軍ニ於テハ日本軍ノ首力ヲ歩兵三萬、騎兵千五百及攻城砲兵ヨリ成ルト判

日本軍ノ近接

斷セリ而シテ十九日頃金州北方ノ高地上ニ日本兵ノ鑿壕スルヲ見タリ  
 此間日本兵ハ金州城ニ近接シ城門爆破一<sup>二</sup>日及攀登三<sup>二</sup>日ヲ試ミシモ成功セス二十  
 一日ニハ其先進部隊老虎山南方ニ達シ大孤山半島ヲ占領シ同時ニ支那舟ヲ手灣  
 ニ進メントセシモ砲撃ヲ受ケ退却シタリ十四日ヨリ二十一日迄ノ露軍ノ死傷將  
 校十名下士卒百七十五名ニ達セリ

大連灣砲艦派遣ノ議

此間ステッセル中將ハ大連灣ニ砲艦ヲ派遣シ南山陣地ノ側面ヲ掩護セシメンコ  
 トヲ海軍ニ請求シ海軍ニ於テハ砲艦各長ノ會議ヲ開キタルモ皆之ヲ冒險ノ業ナ  
 リトシテ應スル者ナク纒ニ少壯將校ノ指揮ヲ以テ砲艦一隻ヲ大連灣ニ派遣スル  
 コトト爲リシモ金州灣ニハ之ヲ派遣セサリキ是レ距離ノ遠キト終始戰團守備ニ  
 在ラサルヘカラサルカ故ナリ  
 二十二日東狙兵第十三第十四聯隊ノ乘馬獵兵隊ノ行ヒシ偵察ニ依リ肖金山ノ背  
 後ニ強大ナル日本軍集合シ在ルコトヲ知レリ  
 二十四日ニ至リフオーク中將ハ是夜北方ニ向ヒ威力偵察ヲ行ハンコトニ決心シ  
 第十三第十四第十五聯隊ハ翌日午前二時八里庄方向ヲ取り前進スヘク此出撃隊

金州城ノ陷落

ニハ日本攻城砲ヲ破壊スルノ任務ヲ有スル本隊ノ一部跟隨シ之カ掩護ハ南山陣  
 地ノ大砲之ニ任スル筈ナリキ然ルニ此企圖ハ是日黄昏ステッセル中將ヨリ中止  
 ヲ命セラレタリ恰モ是夜大窰口方向ヨリ日本軍前進シ來リ北方面ノ露國前哨ハ  
 南山陣地ニ退却セリ  
 二十五日午前五時ヨリ十一時ニ亘リ日本軍ハ金州城及南山ニ對シ猛烈ナル砲撃  
 ヲ行ヒシモ距離遠キ爲メ僅ニ將校一名兵卒四名ノ死傷アリシノミ南山ノ全砲兵  
 ハ之ニ應戰セリ  
 午後四時數隻ノ日本砲艦及水雷艇金州灣ニ現出セリ黄昏ニ至リ颶風アリ露軍ノ  
 面ヲ撲テリ八時日本軍ハ金州城ノ兩側ヨリ南下シ城壁ヲ包圍セントス但シ城ノ  
 西方ニ於テハ前哨タル第七中隊ノ一小隊ハ下方散兵壕ニ據リ若干抵抗シテ退却  
 シ日本歩兵ハ南門附近ニ來リシモ露軍ノ射撃ニ因リ退却セリ之ニ反シ城ノ東方  
 ニ於テハ優勢ナル日本軍漸次市街ヲ包圍シ十時ニ至リ銃火ヲ交ヘタリ此警報ニ  
 接スルヤトレチャコフ大佐豫備隊ノ内ヨリ第九中隊ノ半部ヲ金州城ニ増援セシ  
 メタリ是時ニ方リ雷雨將サニ到ラントシテ電火閃メキ増援隊ハ日本兵ノ前進ヲ

認メツツ十一時市街ニ達シタリ  
 金州城守備ノ一中隊半ハ防戦ニ勉メ南門外十乃至十五歩ノ距離ニ於テ寸構ノ撃  
 ト云フ深夜一時ヨリ二時ニ至ル大雨ニ際シ之ヲ保持スルヲ得タリシモ雨霽レシ  
 ト共ニ東部ヨリ壓迫ヲ受ケタリ是時恰モトレチャコフ大佐ノ退却命令ニ接シエ  
 レメエフ大尉ハ守兵ノ大部ヲ率キ南門ヨリ突出シ血路ヲ開キシカ附近ニ在ル日  
 本兵ヨリ猛射セラレ其南山陣地ニ復歸セシハ僅ニ百餘名ニ過キスシテ他ハ或ハ  
 死傷シ或ハ捕獲セラレタリ是ニ於テ日本軍ハ全正面ニ亘リ南山陣地ニ向ヒ前進  
 シ得ルニ至レリ

青泥窪市  
 ノ撤退及  
 大連灣ニ  
 砲艦派遣

金州城敵襲ノ報傳ハルヤ青泥窪市亦遠カラス敵手ニ陥ルヘキヲ惟ヒ至急同市ニ  
 在ル軍需品ト殘留船舶ヲ旅順口ニ回航セシメ市民モ亦同地ニ向ヒ撤退ニ著手セ  
 リ即チ是日汽船「ゼーヤ」「ブーレーヤ」及浮起重機ハ旅順港ニ入り是ヨリ先キ二十一日  
 汽船「アムール」モ亦同地ニ避ケリ南山ノ攻撃ヲ受クル機迫リシカハステッセル中  
 將ハ砲艦ヲ派遣シ兩側ノ掩護ノ必要ナルヲ主張シウキトゲフト少將ハ金州灣ニ  
 ハ無謀ニ砲艦ヲ派遣スヘカラスト爲シ大連灣ニ最モ吃水淺キ「ポープル」ヲ派遣ス

砲艦開始

ルニ決セリ乃チ「ポープル」ハ是夕甚シキ荒天ヲ冒シ旅順口ヲ出港シ驅逐艦「ポイキ  
 」及「ブールヌイ」之ニ伴ヘリ途中日本驅逐艦ノ發見スル所トナラスシテ其夜大連  
 灣ニ到着セリ「ポープル」艦長シエリチング海軍中佐ハ出港ニ際シ長官ヨリ若シ敵  
 手ニ陥ルノ危急ニ頻セハ艦ヲ破壊シ人員ハ陸路歸港スヘシトノ訓令ヲ受ケタリ  
 二十六日午前四時三十分露軍砲兵第一中隊ハ先ツ砲火ヲ開キ東北方ニ方リ暴露  
 セル日本砲兵及前進中ナル歩兵隊ヲ射撃セシカ日本砲兵ハ多數ノ砲ヲ以テ巧ニ  
 隱蔽シテ射撃ヲ開始シ加之金州灣ノ艦隊ヨリ砲火ヲ始メ彈雨陣地ヲ蔽ヒ露軍砲  
 兵ハ忽チ苦戦ノ状態ニ陥レリ砲戰開始ト共ニ「ポープル」及驅逐艦ハ手灣ニ入り日  
 本軍ノ左翼攻撃ニ移ル時之ヲ射撃スヘシトノ命令ヲ受ケ午前八時該灣ニ來着シ  
 海岸ニ配置セル日本砲兵二中隊ト砲火ヲ交ヘ之ヲ沈黙セシメタルモ午後三時ニ  
 至リテハ日本ノ軍艦ハ之ニ代リテ手灣ニ現ハレタリ砲艦ニ十一時フオーチ中將ハ  
 命ヲ却スヘキヲ  
 露軍砲兵ハ勇敢ニ砲撃ヲ繼續セシモ午前九時頃ヨリ彈藥ノ缺乏ヲ告ケ各門平均  
 リノ彈藥準備ア十一時頃ニ至リテハ全砲台ハ沈黙スルノ已ムヲ得サルニ至レリ砲全



南關嶺、毛家塋間ノ陣地配備

台ノ費消彈藥七是ニ於テ指揮官ノ命令ニ依リ一部ノ砲兵ハ砲ヲ遺棄シ大房身ニ退却セリ唯、若干ノ砲門ノミハ勇敢ナル砲兵ノ努力ニ依リ彈藥ヲ搜出シ砲撃ヲ時々行ヒ得タルノミ故ニ今ヤ歩兵ノ獨力ヲ以テ陣地ヲ保持セサルヲ得サルニ至レリ

是朝フオーク中將ハ敵ヲ迎撃スルノ目的ヲ以テ歩兵三聯隊砲兵五中隊ヲナゲイ少將ノ指揮ニ屬シ南關嶺及毛家塋間ニ連亘セル高地上ニ配置セリ即チ大房身附近ノ右翼ニ東狙兵第十四聯隊及砲兵一中隊南關嶺ノ北方中央ニ第十五聯隊及砲兵一中隊毛家塋ノ南方左翼ニ第十三聯隊及砲兵三中隊内二中隊ハ第七大隊ニ屬スヲ配備シフオーク中將、躬ヲ第十六聯隊ノ一大隊ト砲兵一中隊ヲ率テ依然南關嶺停車場附近ニ駐マレリ第十六聯隊ノ二大隊ハ青泥窪ニ在リ

最初露軍ノ砲兵陣地ヲ射撃セシ日本砲兵ハ其衰微ヲ見ルヤ陣地ノ中央部殊ニ第九角面堡及西部地區ノ第五、第七兩中隊ノ據レル散兵壕ヲ側射シ尙ホ他ノ一部ハ第八角面堡、第九砲台及第十三砲台間ニ在ル凹部ニ向ヒ射撃セリ之ト同時ニ金州灣ノ砲艦ヨリ第五、第七兩中隊ノ散兵壕ヲ射撃シ殆ト之ヲ崩破セリ此ノ如ク日本砲兵ハ半圓形ノ陣地ヨリ射撃ヲ集注セシカハ露軍ノ陣地及砲台ハ同時ニ正面側

日本軍ノ攻撃前進

面火ヲ受クルニ至レリ此間金州灣ニ於テハ午前十時十一時、十一時十五分頃ノ三回ニ水雷爆發シ日本砲艦ノ附近ニ水柱噴騰セシモ之ニ罹ラザリキ

日本ノ歩兵ハ砲兵火掩護下ニ攻撃前進シ殊ニ東部ヨリ近接セシニ因リトレチャコフ大佐ハ全豫備隊第九中隊ノ半部ヲ既ニ午前中ニ上層ノ散兵壕ニ増加シ敵ノ近接ヲ妨害セサルヲ得サルニ至レリ中央部ニ於テモ日本歩兵ハ東北方ヨリ近接シ來リ鐵道堤及凹地ヲ利用シ陣地ヲ距ル七百歩ノ地ニ進出シ更ニ五百歩ニ近接セリ西部ニ在リテハ金州城ノ西方海岸ヨリ攻撃ヲ開始セリ此方面ニ於テハ最初露軍ノ前哨線ハ背後散兵壕ヨリノ掩護射撃ニ依リ金州南方無名河ノ低地ヲ前進スル日本歩兵ヲ拒止セシカ日本軍ハ砲艦ト協力シテ散兵壕ニ長時間砲撃セル後始メテ露軍前哨線ヲ壓迫シ河域ニ占據シタリ爾後屢進出ヲ試ミタルモ一齊射撃ヲ受ケ之ヲ果サス十時西南窪ヲ占領シ次テ増援兵ヲ得テ正午頃小距離躍進ヲ以テ漸次硯池河ニ近接シ二時始メテ此ニ達スルヲ得タリ此間西翼ノ日本兵ハ海水中ヲ跋涉シテ前進セリトレチャコフ大佐ハ之ニ對スル餘力ヲ有セス纔ニ先ツ海軍「カチー」式砲ノ備附ニ從事セル水兵一中隊及軍樂隊ノ第一小隊ヲ第十五砲台附

近ノ散兵壕ニ據ラシメ増援兵ヲフオーク中將ニ請ヒタルモ許容セラレス已ムヲ得ス聯隊旗ヲ東狙兵第四師團ノ陣地ニ移シ其護衛ニ任シタル軍樂隊第二小隊ヲ第四第七兩中隊ニ増加セリ

露軍砲火ノ沈黙後日本砲兵ハ漸次陣地ヲ進メタリ東部ニ於テ馬家屯南方ニ其砲兵一中隊現出セシカ第二角面堡ヨリ舊式野砲二門ヲ以テ之ヲ射撃シ退却セシメタリ又同村及鐵道ノ北方ニ進出セル日本砲兵二中隊モ亦損害ヲ蒙ムリ隱蔽セリ之ニ反シ金州停車場附近ニハ午後一時三十分ニ至ル迄ニ野砲約三十門ヲ布列シ金州城西南部ニ於テモ砲兵一隊ハ放火ヲ開始シ更ニ第九砲台ヲ距ル千米突ノ距離ニ進ミタリ

此間中央部ニ於テ日本ノ二個縱隊ハ趙家樓西方ニ在ル凹地ヲ經テ第四眼鏡堡ニ向ヒ突撃セシモ蔭蔽セル鐵條網ニ遮止セラレ五回ノ近距離一齊射撃ニ依リ殆ト殲滅セリ黄昏ニ及ヒ日本軍ハ東部ニ於テハ散兵壕ヲ距ルコト八百步中央部ニ於テハ四百步ノ地點迄前進シタリ是日午後二時ニ至リ日本砲兵ハ彈藥盡キ砲火著シク減削セラレ露軍ノ爲メ好景

況ヲ呈セリ此報告誇大ニセラレテ旅順口ニ達スルヤステッセリ中將以下大ニ之ヲ祝セリ然ルニ午後四時日本軍ハ彈藥ノ供給ヲ得テ再ヒ砲火ヲ熾盛ニセリ是時ナゲイン少將ハ東狙兵二大隊ヲ増援セリト云フモ陣地ニ到着セサリキレタルヤ

増援隊ノ請求

日本砲兵ノ砲火中止間歩兵戰團ハ益々激烈ニ繼續セラレ西部ニ於テ日本散兵ハ砲池河ヲ進出セントセシモ能ハス五時ニ至リテ西翼ハ海中ヲ跋涉シ前進ヲ始メ砲池河ヲ回轉軸ト爲シ東南ニ方向ヲ轉セリ此報告ヲ得テフオーク中將ハ逆撃銃槍戰ヲ爲スノ理由ヲ以テ南關嶺陣地ニ在ル兵力ヲシテ増援セシメサリキ

此間第五第七中隊ハ著大ナル損害ヲ受ケ午後五時殆ト破壊セラレタル下層ノ散兵壕ヲ去リ上層散兵壕及第九砲台附近ノ凹道内ニ退却スルノ已ムヲ得サルニ至

レリ海岸ヨリ前進セシ日本軍ハ曩ニ東狙兵第十三、第十四聯隊ノ獵兵ノ據リタル散兵壕ヲ距ル二百歩ノ距離ニ近接シタリ

トレチャコフ大佐ハ午後六時ニ得タル増援二個中隊ノ内半中隊ヲ中央部ノ増援ノ爲メ第四眼鏡堡ニ向ケ派遣シ他ノ半中隊ヲ左翼ニ向ケ派遣セリ時ニ六時二十分ナリ大佐ハ尙ホ暫時陣地ヲ保持シ夜ニ入ルヲ得ヘキ希望ヲ抱ケリ然ルニ第十二砲台附近ヨリ左翼部隊ノ退却スルヲ目撃セリ是ヨリ先キ西部地區隊長シテム大尉スキーハ一獵兵力第十砲台ニ來リ帽ヲ振ルヲ認メ誤テ退却ノ記號ト爲シ部下ニ命シテ第十一砲台附近ノ散兵壕ニ退却セシメ次テ第十二砲台附近ノ散兵壕ニ據ラシメタリ日本軍乃チ此機ニ乘シテ第十、第十一砲台ヲ占領シ追撃セシカハ退却セル露軍ハ支持スル能ハサルノ狀況ナリ大佐乃チ手下ニ在ル第十四聯隊ノ一中隊ヲ第十二砲台附近ニ増援セシメ日本軍ノ前進ヲ拒止セシメタリ西部地域ニ進入シタル日本軍ハ側面ニ向ヒ第十五砲台及第九角面堡ヲ攻略シ更ニ東方ニ向ヒ第九砲台ヲ占領シタルヲ以テ第四、第五砲台モ亦相次テ陥リ日本軍ハ漸次勢ヲ得テ東部高地ノ巔頂ニ近迫セリ中央部ニ於テハ露軍ハ兵力ノ寡少ナルニ因リ下層

日本軍西  
部地區ノ  
突入

南山陣地  
ノ陥落

ノ散兵壕ノミヲ占領セシカ今ヤ第九、第十砲台ヨリ背射ヲ受ケシニ因リ指揮官グセフ大尉ハ部下ニ命シ爲シ得ル限リ隱蔽シツツ陣地ノ右翼ニ退却セシメタリ然レトモ既ニ日本軍ヨリ包圍セラレ徒歩獵兵第二中隊ノ如キハ百十五名ノ内僅ニ十八名ヲ殘スニ至レリ七時三十分日本軍ハ第十三砲台ニ向ヒ突撃シ次テ第十四、第三、第二砲台ヲ奪略シ此等ノ砲台ヨリ尙ホ陣地ノ右翼ヲ保持セル右翼隊ヲ斜射背射セリエロックス中尉及第二中隊此中隊ハ退却開始命令アル迄ハ僅長シヤステ大尉ハ此ニ留マリテ全部ノ退却ヲ掩護セシカ部下兵ハ殆ト屠殺セラレ兩將校モ亦重傷ヲ蒙リ戰場ニ遺棄セラレタリ斯クテ八時南山ノ全陣地ハ日本軍ノ領有ニ歸セリフオーク中將ハ初メ南關嶺オクンリニ於テ日本軍ヲ邀撃スルノ決心ヲ有セシカ日本軍艦ヨリスル砲撃ノ威力大ナルヲ見テ其陣地ノ久シク保持スヘカラサルト爲シ更ニ旅順口ニ近ク海岸ヲ距ル遠キ地ニ於テ防禦スルヲ有利ト爲シ退却ニ決心セリ是時恰モステッセル中將ヨリ退却ノ命令アリシカ如シ是ニ於テ暗中全ク秩序ヲ亂シ混亂シテ南山敗兵ト共ニ退却セリ途中南關嶺ヲ過クル頃日本軍ノ現狀射撃ノ如キハ或ハ哥騎兵ヲ日本騎兵ト誤認シ後方部隊ヲ日本兵ノ追撃ト做セリ某

南山守兵ノ損害

終身ヨリ負傷兵ヲ載セタル最斯克テ東狙兵第四師團及南山敗兵ハ翌二十七日拂曉  
 鳳凰山麓ニ達シ同山ニ守備兵ヲ殘シテ旅順口ニ集合セリ  
 南山守兵タル第五聯隊ハ二十六日ノ戰團中死傷約四百五十名是日黄昏ヨリノ退  
 却ニ於テ死傷六百五十六名ヲ生シタリト云フ  
 聯隊附中佐ヲテツキハ砲戰ノ初  
 處傷シテ伴  
 處ト爲レリ

全損害左ノ如シ

將校

下士卒

計

戰死 七  
 失蹤 一〇  
 負傷 七

七四八

七六五

計

二四

一三三二

一三三六

青泥窪市  
狼狽

死者五十五名ノ死傷ハ全員ノ百分三十八ニ當リ要塞砲兵三百五十名中二名ノ  
 費消小銃彈ハ約七十三萬八千發ナリト云フ青泥窪市街ニ於テハ前日迄ステッセ  
 川中將ヨリ南山ハ堅固ナリ到底日本軍ノ占領ニ歸セス安堵スヘキ旨ヲ訓示セラ

レタルニ拘ラス此陥落ノ報及露軍ノ旅順口ニ退却セルコトヲ知り驚愕措カス鐵  
 道ハ一部日本軍ノ有ニ歸シタルニ因リ市民ハ是夜徒歩ヲ以テ旅順口ニ逃走セリ  
 ステッセル中將ハ南山陥落ノ報ヲ得テ大ニ驚キ直チニ青泥窪市司令官露備工兵大尉ヲ  
 ニ電話ヲ以テ命令ヲ與ヘ運搬シ得サル物件ヲ破壊シ明朝迄ニ同地ヲ撤去セシメ  
 タリ夜十一時サハ旅順口ニ輸送シ庶民ハ徒歩セシムヘシトノ命令ヲ受ケタリ此ノ  
 如クナルヲ以テ短時間内ニ何等ノ大破壊ヲモ試ムル能ハス船渠、棧橋等僅少ナル  
 損傷ヲ殘シテ旅順口ニ撤退セサルヲ得サルニ至レリ夜一時三十分守備兵タル第  
 十六聯隊ノ二大隊ハ第十四聯隊練兵場ニ集合シ最後ニ青泥窪ヲ出發セリ支那人  
 其虛ニ乘シ市街ニ入り掠奪ヲ恣マ、ニセリ是夜露ノ軍艦若干モ青泥窪ニ來リ情  
 況ヲ偵察シ旅順港ニ歸還セリ唯、速力遅キ小汽船ハ翌朝敵ノ水雷艇ニ拿捕セラレ  
 シコトヲ慮リ自ラ轟沈セリ

五 南山陷落後六月上旬迄ノ情况

艦隊ノ行

今ヤ南山陷落ノ結果前面ニ在リシ海岸監視哨ハ廢セラレ小平島灣迄日本軍ニ委  
 棄スルニ至レリ爾來日本艦隊ハ大連灣ヲ領有シ專ラ旅順軍港ヲ封鎖シ閉塞ニ代  
 フルニ水雷ヲ敷設シテ敵艦ノ近接ヲ妨害スルニ勉メタリ  
 五月二十六日夜ウキトゲフト海軍少將ハ金州灣ニ在ル敵ノ砲艦強襲ノ爲メ水雷  
 艇十隻ヲ派遣セシニ其内一隻ハ座礁沈没シ乗員ハ友艇ニ收容セラレタリ又大連  
 灣ニ在リタル砲艦「ボーブル」及驅逐艦二隻ハ南山陷落後約七十露里ヲ駛航シ無事  
 ニ旅順港ニ歸レリ是日午前海軍將校ノ不注意ニ依リ青泥窪ヨリ回航セル艦載水  
 雷艇二隻ヲ沈没セシメタリ  
 二十七日日本軍ハ柳樹屯及三十里堡停車場ヲ占領シ三十日ニ至リ青泥窪ヲ占領  
 セリ

黃泥川、  
鞍子嶺附  
近ノ對陣

其後日本軍ハ營城子停車場ヨリ小平島附近ニ亘リ前哨ヲ配布シ彼我ノ間ニ交戰  
 起ラス露軍ハ此間ニ再ヒ要塞ノ前地ニ於テ陣地ヲ占領スルニ決シ黃泥川西方ノ  
 高地ヨリ老横山山鞍子嶺ヲ經テ北方海岸ニ達スル廣大ナル陣地ヲ占領セリ

日本艦隊  
ノ旅順港  
強行偵察

從來旅順口陸海軍ノ間ニ調和ヲ缺キシカ南山戰團ニ海軍カ金州灣ニ砲艦ヲ派遣  
 セサリシコトハ陸軍將校ヲシテ益海軍ノ無能ナルヲ批難セシメ兩者ノ關係一層  
 不良トナレリ  
 五月二十九日夜日本砲艦及驅逐艦ハ復タ旅順外港ニ現ハレ砲台及ギリヤークハ  
 之ニ砲火ヲ加ヘ其砲艦一隻ヲ擊沈セリ此間外港ノ掃海ハ間斷ナク施行セラレ二  
 十七日ニハ「アムール」ハ鮮生角ニ水雷ヲ沈置セム爲メ出航セリ  
 三十日砲艦「オトワジヌイ」ハ露ノ掃海艇ヲ脅カセル日本驅逐艦ヲ擊退セン爲メ出  
 港セリ

六月二日「ノークキク」及驅逐艦ハ水雷沈置ノ爲メ小平島ニ向ヒシモ優勢  
 ナル敵出現シタルニ因リ空シク歸港セリ

艦隊出動  
ノ躊躇

四日ステッセル中將ハコンドラテンコ少將ヲウキトゲフト司令長官ノ許ニ遣シ  
 日本軍再ヒ貔子窩ニ揚陸ヲ試ムルニ於テハ艦隊ニテ之ヲ拒止センコトヲ請ハシ  
 メタルモ長官ハ艦隊未タ整頓セサルト陸軍ニ艦砲ヲ貸與セルノ故ヲ以テ之ヲ容  
 レサリキ然レトモ五日此件ニ關シ司令官艦長ノ會議ヲ開キ戰艦ノ修理完成次第

六月 中 艦隊ハ出港スルニ決セリ七日亦會議アリ當時ノ形勢ハ旅順港ノ封鎖ヲ受クルヲ免カレス若シ要塞ニシテ遂ニ陥落セハ艦隊ハ自ラ滅亡スヘキニ因リ艦隊ハ之ニ先チ自ラ出港スヘキヤ否ヤヲ討議セシカ多クハ出港ヲ不利ト爲セリ六日夜哨艦「チアナ」ギリヤーク及「オートワジヌイ」ハ日本ノ水雷沈置船及驅逐艦ニ砲火ヲ加ヘ其沈置船一隻ヲ撃沈セリ

旅順要塞  
守兵ノ鼓

十日驅逐艦ハ日本ノ掃海艇ヲ掩護スル驅逐艦ト帽島附近ニ於テ戰鬪セリ  
十一日驅逐艦ハ半島ノ西岸ニ沿ヒ偵察巡航シルイザ澳ニ於テ日本驅逐艦ト戰鬪ヲ交ヘタリ  
十五日小平島沿岸ニ日本軍ノ陸上左翼部隊現出セルノ報ニ接シ「ノーウキク」ハ驅逐艦ヲ率テ之ヲ砲撃セム爲メ出港シ同澳ニ在リシ日本驅逐艦ハ之ヲ避ケタリ  
六月十三日滿洲軍司令官クロバトキン大將ヨリ左ノ電報文フオーク少將ノ許ニ達セリ

旅順口フオーク少將ハ予ニ代リ東狙兵第五聯隊カ金州ニ於テ顯ハセル勇猛ナル勳作ヲ祝セラレヨ本職ハ堅ク貴官ニ信頼シ貴官ノ前途ヲ以テ榮譽アルモノ

ト認ム然レトモ露國軍隊ノ膺ルヘキ本分トシテハ左程困難ト認メス糧食彈藥ノ竭キサル限リハ持久スルノ貴官ノ決心ト全隊ニ一死殉難スルカ敵ニ打テ勝ツカノ覺悟アルヲ信シテ疑ハス本職ハ有力ナル救援部隊ヲ準備シツツアリフオーク少將ハ十四日此全文ヲ公示シ且ツ左ノ如ク之ニ附加シタリ

予ハ茲ニ予カ部下一般ニ右電報ノ全文ヲ示スニ方リ諸士克ク滿洲軍司令官ノ此ノ渥キ信頼ニ背カサル所アルヲ確信シ乃チ滿洲軍司令官侍從將官クロバトキンノ名ヲ以テ第五聯隊及金州ノ防禦ニ膺レル諸隊ノ勇敢ナル勳作ヲ祝ス諸士ノ勤勞ト勇敢トハ軍司令官ノ知己ノ將官ヨリ全露西亞ノミナラス苟モ文化ノ普及セル全世界ニ賞揚セラレタルハ予ノ歡喜ニ堪ヘサル所ナリ親愛ナル狙撃兵及砲兵諸子ヨ予ハ諸子カ本電ニ對シ予カ享クルヨリモ尠カラス歡喜スル所アルヲ信シテ疑ハス畢竟本電ハ吾人ノ總テノ煩悶ヲ一掃セルモノト謂フヘシステッセリ中將ハ吾人ニ示スニ其死所ヲ以テシクロバトキン侍從將官ハ吾人ニ示スニ其進退ヲ以テス今ヤ吾人ハ吾人ノ父祖ノ前例ニ依リ敵ヲシテ吾人ヲ破ルノ困難ナルヲ悟ラシムルノ秋トハ爲レリ

第五篇 得利寺戰鬪ニ於ケル露軍ノ行動

一 シダケリベルグ兵團南下ニ至リシ情況

旅順半島  
防備ニ關  
スル當局  
者ノ意見

旅順半島防備ノ兵力ニ關シテハ開戰前ヨリ露國當局者間ニ久シク意見ヲ異ニシ  
三十六年六月クロバトキン大將ノ旅順口ニ到リシ時大將ハ會議ノ席上數師團ノ  
兵力ヲ要スルコトヲ切論セシカアレクセエフ關東總督當時ハ此ハ之ヲ否認シ旅  
順要塞防禦ノ兵力ヲ約一個師團ニ限ルコトト爲セリ尋テ開戰ニ至リ三十七年三  
月下旬クロバトキン大將ノ滿洲軍司令官トシテ遼陽ニ著スルヤ第一ニ極東總督  
ニ向ヒ旅順要塞防禦ノ兵力ヲ増大スヘキ意見ヲ提出シ東狙兵第九師團ヲ此ニ派  
遣センコトヲ勸告シタルニ總督ハ之ヲ斥ケテ曰ク日本軍カ要塞戰ヲ行フモ最早  
利益ヲ得ヘカラス今ヤ旅順口ニハ後貝加爾地方ヨリ豫備兵到著シ糧食充實シ日  
夜工事ヲ施スニ至レルカ故ニ憂フルニ足ラス強勇ナル砲兵ヲ有スル旅順口在來  
ノ守備兵ヲ以テ防禦力十分ナルヘシ況ンヤ艦隊ハ未タ戰鬪力ヲ失ハサルニ於テ  
フヤト

第五篇 得利寺戰鬪ニ於ケル露軍ノ行動

一 シダケリベルグ兵團南下ニ至リシ情況

遼陽附近  
兵力集中  
ノ遲滯

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動

爾來クロバトキン大將ハ其作戰計畫第二篇ニ準據シ一意兵力ヲ遼陽附近ニ集中セシコトヲ勉メ在リシカ増援兵ハ鐵道輸送力ノ微弱ナル爲メ到着遅滯セシノミナラス西伯利步兵第一師團ノ哈爾濱ハルビンニ到着スルヤアレクセエフ總督ハ之ヲ後方各地ノ守備ニ留メテ遼陽リャオヤンニ送ラサリキ此ノ如ク遼陽ニ於テハ兵力ノ集中意ノ如ク進捗セサルニ反シ旅順口ニ於テハ陸正面ノ防禦工事ヲ施シ益々防備ヲ鞏固ナラシメタリ五月中旬クロバトキン大將ハステツセリ中將ニ書テ與ヘ關東軍隊カ攻シメタル撃チ受ケルモ事甚タ單純ナリト述ヘ又曰ク其時ハ安心ナリ日本軍如何ナル兵力ヲ以テ攻撃スルモ彈藥糧食ハ十分ナリト要當時滿洲軍ノ極東總督ヨリ受塞ハ僅少ノ部分ヲ除クノ外戰備充實ノ答ナリトケタル命令ノ要旨ハ將來果敢ナル前進ヲ行ハンカ爲メ十分ナル兵力ヲ集中スル迄ハ前敗ニ鑑ミ慎重ニ行動スヘキニ在リ然ルニ四月二十五日在旅順口アレクセエフ大將ヨリ次ノ新任務ヲ課セラレタリ即チ日本軍若シ旅順口ヲ攻撃スル場合ニハ迅速果敢ニ此要塞ヲ救援スヘシ但シ此際毫モ最初ノ任務ヲ放棄スヘカラス又後方連絡線タル鐵道ヲ確有シ軍ノ集中ヲ繼續シ得サルヘカラス之カ爲メ兵力ノ大部ヲ以テ鴨綠江方面ノ日本軍ヲ抑留シ其殘餘ヲ以テ旅順口ヲ救援スヘシ蓋シ旅順要塞ノ喪失ハ全艦隊ノ滅亡ニ等シケレハナリト

滿洲軍ノ  
新任務

五月中旬  
滿洲露軍  
ノ配備

次テ五月ニ入り日本軍ハ貔子窩ピシウワ附近ニ上陸シ鴨綠江畔亦守ヲ失フニ及ヒ總督ハ益々日本軍ノ旅順口攻撃ヲ顧慮シ同要塞ノ難攻不落ニ就キ危懼ノ念ヲ懷クニ至レリ當時五月中旬滿洲露軍ハ概テ左ノ如キ配備ニ在リ

南部兵團指揮官男爵シタケリベルグ中將

西伯利第一軍團

東狙兵第一師團

同 第九師團

沿海州龍騎兵聯隊

後貝加爾哥騎兵旅團(長 ミシチエンコ少將)

東部兵團(指揮官伯爵ケルレル中將ザスリチ代ル)

西伯利第三軍團

東狙兵第三師團

同 第六師團

後貝加爾哥騎兵師團(長 レンチンカンブ中將)

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動

海城蓋平營口地方

岫巖附近

連山關附近

賽馬集附近



西伯利第二軍團(長ザスリチ中將)

東狙兵第五師團

歩兵第三十五師團第二旅團

歩兵第三十一師團第二旅團

西伯利歩兵第一師團

西伯利哥騎兵師團(長シモノフ中將)

西伯利第四軍團(長ザルバエフ中將)

西伯利歩兵第二師團

同 第三師團

其後滿洲軍ノ全兵力ハ大要左ノ如ク増加スヘキ豫定ニ在リ

五月中旬

歩兵七師團

哥騎兵一師團半

五月下旬

歩兵八師團

哥騎兵二師團半

六月上旬

歩兵九師團

哥騎兵二師團半

西伯利第四軍團ノ歩兵第二師團及西伯利哥騎兵師團ノ三聯隊遼陽附近ニ到着ス

大部ハ遼陽附近

奉天及其北方各地ノ守備

五月下旬遼陽附近ニ到着

五月十六日乃至二十一日遼陽ニ到着  
右ニ引續キ鉄道ニ由リ輸送セラル

滿洲軍兵力ノ増加

總督府ノ作戰意見

ルヤ營口ノ守備兵ハ歩兵五大隊ニ増加セラレ西伯利哥騎兵一旅團ハ後貝加爾騎砲兵第四中隊ト共ニ五月二十三日蓋平及熊岳城方向ニ前進シ歩兵第三十五師團第二旅團ハ南部兵團ニ對スル最近ノ豫備隊トシテ鞍山站ニ移動セシメラレタリ是時ニ方リ日本軍ハ魏子窩附近上陸地ト鳳凰城鴨綠江間トノ二大集團ニ分レ在リ其東方ノモノハ海城旅順口街道ノ側方百三十乃至四百四十露里ニ在リ之ニ因リ當時極東總督府ハ左ノ如キ作戰上ノ意見ヲ有セリ戰略概要ニ據ル

第一滿洲軍現在ノ位置ノ南方旅順口方ニ十分強大ナル防禦線ヲ設置シ以テ新銳ナル日本軍カ此方面ヨリ現出スルニ備ヘ首力ヲ提ケ鳳凰城方面ノ敵軍ヲ鴨綠江左岸ニ擊退スル目的ヲ以テ同地ニ向ヒ前進ス

此計畫ハ當時滿洲軍ノ兵力南滿洲ノ日本軍ヨリ莫ニ優勢ナルヲ以テ奏功ノ望アリ而シテ此作戰成功セハ鴨綠江ニ在ル敵ニ對シ防禦線ヲ設置シ海城附近ニ豫備隊ヲ配置シ一部ヲ以テ旅順口ヲ救援ス

第二鳳凰城附近ノ敵軍ニ對シ連絡線掩護ノ爲メ諸峠ニ防禦線ヲ設置シ海城附近ニ豫備隊ヲ配置シ一部ヲ以テ旅順口ヲ救援ス

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動 一 シタケリベルグ兵團南下ニ至リシ情況 七十五

此ノ如ク敵ノ二軍(東方及南方集團)ノ離隔セルト我滿洲軍ノ内部ノ位置ヲ利用シテ孰レカ其一ヲ攻撃セサルヘカラス即チ内線作戰ヲ採ラサルヘカラス

滿洲軍司令  
部ノ作  
戰意見

然ル

ニ滿洲軍司令部ノ幕僚ハ之ニ反對ノ意見ヲ有スルコト左ノ如シ  
滿洲ノ戰地ニ來ルヘキ日本軍ハ常備十二師團及豫備十二旅團(本國ニ一師團及一豫備旅團ヲ殘留スルモノト算ス)ニシテ少クモ其半數ハ當時既ニ戰地ニ來著シ其内三師團及豫備部隊(三旅團)ヨリ成ル黒木軍ハ鳳凰城ニ在リ又魏子窩(魏子窩普蘭店)三十里堡方面ニ來ルヘキ三師團ハ既ニ關東ノ地ニ上陸セリ

日本軍ノ計畫ハ尙ホ不明ニシテ殊ニ其未タ上陸セサル二個軍ニ關シテハ如何ニ使用セラルルヤ詳ナラス

此ノ如キ狀況ニ際シ制海權ヲ獲有シ兵數一般ニ優勢ナル敵ニ對シ我ヨリ攻勢ヲ取ルハ極メテ冒險ナリ

黒木軍ヲ鴨綠江後方ニ擊攘スル目的ヲ以テ鳳凰城ニ向ヒ前進スルト假定センカ我ハ營口或ハ蓋平附近ニ上陸セントスル敵ニ對シ我連絡線ヲ安全ニスル必要アルノミナラス遼東半島若クハ關東ニ上陸スル敵軍ノ海城若クハ遼陽方向

ニ前進スルニ對シテモ亦連絡線掩護ノ必要アリ之カ爲メ少クモ三師團ノ兵力ヲ割キ内二師團ヲ大石橋營口蓋平ノ地方ニ殘置シ他ノ一師團ヲ鐵道線ニ沿ヒ南方ニ派遣シ以テ我ニ危險ナル敵ノ前進ヲ適時ニ偵知セサルヘカラス加之奉天遼陽ノ守備隊ヲ編成シ且ツ遼河ノ線並ニ兵站地ノ守備警戒ノ爲メ若干ノ兵力ヲ要スルカ故ニ鳳凰城ニ向ヒ前進センカ爲メ我ニ五十乃至六十六大隊即チ黒木軍ト同等ノ兵力ヲ使用シ得ルニ過キス加之我軍鳳凰城ニ向ヒ前進スルニ方リ黒木軍ハ大孤山若クハ鴨綠江口ニ上陸スル二三師團ノ増援ヲ受ケ得ルコトヲ顧慮セサルヘカラス

又假令此ノ如キ黒木軍増援ノ企圖ナキトスルモ黒木大將ハ我前進ヲ知り戰團ヲ避ケントセハ何時ニテモ鴨綠江左岸ニ退却スルヲ得ヘシ此場合ニハ我ハ効果ヲ得ルノ望ミ少ナキ二個ノ決心中孰レカヲ取ラサルヘカラス即チ飽ク迄モ黒木軍ヲ擊破センカ爲メ鴨綠江ヲ奪取スルカ將タ擊破ノ望ナキ敵ニ對シ防勢ヲ採リ魏子窩附近上陸軍ニ向ヒ攻勢作戰ニ轉スルカ是レナリ此内前者ハ極メテ冒險ナリ後者ハ吾人ヲシテ九連城戰團前ニ類似スル狀況ニ陥ラシムルモノ

ナリ  
 其他附言スヘキハ軍ノ後方連絡ニ對スル顧慮ハ終始作戰ヲ左右スルコト是レ  
 ナリ即チ鳳凰城前進中敵若シ蓋平ニ向ヒ前進センカ其陽動ニ出ツル目的ナル  
 ニモ拘ラス我ハ前途効果アル狀況ニ際シテモ尙ホ軍ヲ停止シ黒木軍攻撃ヲ中  
 止セサルヘカラサルニ至ルヘシ  
 貔子窩附近ニ上陸セル南方集團ニ對シ攻勢ニ轉スルコトモ亦狀況ニ適應スル  
 モノニ非ス何トナレハ遼陽ヨリ普蘭店ニ至ル距離ハ鳳凰城ニ至ル距離ニ比シ  
 五日行程大ナレハナリ又黒木軍方面ノ危険ヲ豫防スル爲メ約一軍團ヲ割キ又  
 營口ヨリ蓋平ニ亘ル沿岸地區ニ約一軍團ヲ殘サンカ旅順口方面ニ向フ前進ノ  
 爲メ我ノ使用シ得ルハ僅ニ二十乃至三十大隊ニ過キスシテ奏功疑ハシキナリ  
 加之雨季滿洲ニ於テハ七月十四日頃ニ始マルニ入ルヤ野砲兵及車輛輜重ノ運  
 動ハ極メテ困難ト爲ルヘク我ハ僅ニ山砲八門ヲ有スルニ過キス又駄馬輜重ヲ  
 全然有セス故ニ我ハ雨季ノ來ル前ニ我作戰ヲ終了セサルヘカラス是レ極メテ  
 望ミ無キコトナリ何トナレハ敵ト我集中地タル遼陽トノ距離ハ二百露里以上

ナルヲ以テナリ  
 之ニ加フルニ軍ノ輸送機關ハ戰團豫備品ニ關シ顧慮外ニ置クモ糧食ノ輸送ニ  
 於テ僅ニ三四日分ヲ貯ヘ得ルノ狀態ニ在リ故ニ軍ハ中間ノ給養地ヲ設置セン  
 カ爲メ屢駐止セサルヘカラス換言スレハ軍ノ運動ハ所謂五日行程式倉庫ノ建  
 設ノ如キ舊時ノ方法ニ依ラサルヘカラス

旅順要塞  
救援ノ訓

五月十九日アレクセエフ總督ハクロバトキン大將ヲ奉天ニ召致シ旅順要塞ヲ救  
 援スヘキ希望ヲ提出シ其實行手段トシテ左ノ二計畫ヲ示セリ

其一、南方ニ掩護部隊ヲ出シ全力ヲ舉テ黒木軍ニ衝突シ以テ敵ヲ鴨綠江外ニ擊  
 攘スルコト此場合ニ於テハ敵ハ少クトモ或ル期間旅順口ニ對シ斷然タル  
 行動ヲ取ル能ハサルヘシ

其二、黒木軍ニ對シテ優勢ナル掩護隊ヲ殘留シ全力ヲ舉テ直接旅順口ニ對シ行  
 動スル敵軍ト決戦センカ爲メ南方ニ前進スルコト

此二策ノ内孰レヲ實行スヘキヤハ軍司令官ノ意見ニ一任シタルモ其文意ニ於テ  
 總督ハ前者ノ得策ナルコトヲ暗示セリ以上中將ノ言

旅順口戰  
備ノ状態

クロバトキン大將ハ前掲軍幕僚ノ意見ノ如ク兵力ノ集中ニ先タチ南方若クハ東方ニ向ヒ攻勢ニ轉スル時機ニ適セスト思惟シタリ

然レトモ旅順口ノ狀況ハ軍司令官ヲシテ甚タ不安ノ念ヲ起サシメタリ是レ軍司令部ニ於テハ旅順要塞ハ二十七大隊ノ守兵ヲ有シ堅固ニ設堡セラレ在ルカ故ニ糧食ノ續ク限リハ優勢ナル日本軍ニ對抗スルヲ得ヘク而シテ其糧食ハ一ケ年分ノ貯蓄アリト思惟シ在リシニ何ソ料ラン是時ニ於ケル極東總督府ノ公報ニ依レハ要塞ハ僅ニ二三ケ月維持シ得ルニ過キサラントハ此ノ如キ狀況ハ軍ノ一部ヲシテ縦ヒ如何ナル危険ヲ冒スモ旅順口ニ對シ攻撃スル敵軍ヲ爲シ得ル限リ自己ノ方面ニ誘致スルコトニ全力ヲ盡ササルヘカラサルニ至レリ

極東總督府野戰軍參謀長タリシジリンスキ一中將ノ言參謀大學講話ニ據レハ旅順口ノ砲煩ハ表面上完全ナリシモ砲ノ制式ハ日本軍ノ使用シ得ルモノニ對抗スルヲ得ス又彈藥ノ數量モ表面上ハ十分ナリシモ充實シ在ラス糧食材料ノ如キモ豫定ノ一個師團ニ對シ十二ケ月分ヲ貯藏シタルモ實際要塞内ニハ二個師團餘存在シタルニ因リ六ケ月以上ヲ支フル能ハス此等ノ状態ハ旅順要塞ノ状態ヲ困難

ナラシムルニ至レリステッセリ中將ハ五月中旬ヨリ絶エス極東總督ニ向ヒ救援ヲ請求セリト云フ

旅順要塞  
救援ノ部

此ノ如ク旅順要塞ノ現状判明セシト一方ニハ聖彼得堡ヨリ來電アリテ旅順口ノ爲メニ憂慮ニ堪ヘス其運命ハクロバトキン大將ノ雙肩ニ在ル旨ヲ言明シタリ是ニ於テ軍司令官ハ本志ニ非サルモ命令ニ服從シ一軍團ノ兵力ヲ速ニ關東方向ヘ差遣センカ爲メ西伯利第一軍團ニ命スルニ蓋平カビシニ移リ該地ニ於テ南進ノ準備ヲ整フヘキ旨ヲ以テセリ

然レトモ軍司令官ハ之ト同時ニ東方千山チエンシヤン々地ノ諸峠ニ増兵シ以テ確實ニ連絡線ヲ掩護スルノ必要ナルヲ感シ西伯利步兵第二師團ノ一旅團ヲ浪子山ナメシヤンニ其一旅團ヲ海城ハイチョウニ移シ分水嶺フエシユイリヨリ大厩嶺ダイモウリ間ノ諸峠ヲ防禦セシメ尙ホ步兵第三十五師團ノ一旅團ヲ海城ハイチョウニ移シタリ之ニ因リ軍ノ總豫備隊ハ二十大隊ヨリ成ル西伯利第二軍團ノミト爲レリ

此ノ如キ部署ヲ爲シタルモ愈何日ヲ以テ西伯利第一軍團ヲシテ南進セシムルヤハ日本軍ノ兵力及企圖ヲ略偵知シタル後ニ決定セント欲シ專ラ其搜索及情報蒐

集ニ從事セリ此間同第一軍團ノ前進準備成リ所要ノ糧秣ハ集積セラレタリ  
 クロバトキン大將ハ黒木軍ニ對シ南進軍ノ行動ヲ掩護センカ爲メ東部兵團ヲシ  
 テ攻勢的手段ヲ以テ日本軍ノ前進ヲ妨害セシメント欲シ同兵團ノ諸隊ヲシテ分  
 水嶺大座嶺ノ線ニ進マシメタリ詳細ハ第七篇參照  
 其他増援團隊到著スルヤ直ニ關東ニ向ヒ前進スル諸隊ヲ増加スルコトニ豫定シ  
 在リ之カ爲メ西伯利第三師團ノ到著ト同時ニ西伯利第二軍團ノ先頭歩兵第三十  
 五師團ノ一旅團ハ先ツ南進シ次テ第十軍團ノ到著ニ應シ第二軍團ノ全部モ亦南  
 進スル豫定ナリ又軍司令官自身ハ黒木軍ノ行動如何ニ依リ遼陽ニ留マルカ或ハ  
 野戰司令部ノ一部ヲ伴ヒ南方ニ赴キ躬ヲ西伯利第一第二軍團ノ指揮ヲ執ランコ  
 トヲ欲セリ

五月下旬  
日本軍情  
況判斷

五月二十四日在岫巖附近ノミシチエンコ少將ノ騎兵斥候ハ日本軍三十四隻ノ汽  
 船ヲ以テ太孤山附近ニ上陸セルヲ發見シタリ軍司令部ニ於テハ是レ日本ノ第三  
 軍カ將タ鳳凰城附近ニ配置セル黒木軍ノ有力ナル増援隊ナリト判斷シタリ此狀  
 況ニ於テ南部兵團ヲ南下セシムルコト益々危險ト爲リシカハ既記ノ如ク西伯利歩

兵第二師團ヲ分水嶺浪子山附近部隊ノ後援ニ任スルノ必要アルコト確實ト爲レ

五月下旬間諜ノ數次ノ報告及在賽馬集附近レンネンカンブ少將支隊ノ搜索ニ依  
 リ騷河北方ノ地方並ニ渾江ノ下流近傍ニ山砲ヲ有スル日本一縱隊行進シレンチンカンブ  
 トヲ知リ又賽馬集方面ニ兵力一旅團ニ達スル日本一縱隊行進シレンチンカンブ  
 少將ハ之ヨリ攻撃ヲ受ケ哥騎兵二聯隊チルチンスク第二アルグニ第二ニシテ鳳  
 凰城チンチンニ向ヒ退却シカルツエフ大佐ハ東狙兵第  
 二十三聯隊騎山砲兵一中隊及アルグニ哥騎兵第一聯隊ト共ニ四座窰嶺ニ向ヒ退  
 却シ賽馬集ハ同日日本軍ノ占領スル所ト爲レリ是ニ於テ日本軍ノ大兵露軍ノ全  
 線ノ左翼ヲ迂回シ前進ヲ始メサルヤ否ヤヲ明カニセンカ爲メ軍司令官ハ賽馬集方  
 向ニ廣大ナル地方ニ亘リ偵察ヲ行ヒ且ツ賽馬集ニ來レル歩兵一旅團ト推斷スル  
 日本軍前進部隊ヲ攻撃センコトヲ企圖シタリ其結果レンチンカンブ少將支隊哥  
 騎兵二ハ城廠方向ヨリカルツエフ大佐支隊歩兵三大隊哥騎兵ハ四座窰嶺方向ヨリ  
 ケルレル中將ノ東部兵團ノ首力砲歩兵八大隊ハ連山關方向ヨリ共ニ賽馬集ニ向ヒ

前進スルコトト爲レリ然ルニ同地ニ達スルニ先タチ六月一日ヲ以テ日本軍ハ賽馬集ヲ撤去シタルコトヲ知レリ詳細ハ第七

總督ノ訓令ニ對スル軍司令官ノ意見具申

シリンスキー中將ノ言ニ據レハ是ヨリ先キクロバトキン大將ハ二十七日奉天ニ到リ總督ニ會シ正式ニ總督ノ訓令ニ對スル自己ノ意見ヲ回答セリ其意見ノ要旨ハ兩策中第一策タル黒木軍ニ對シ山地ニ行動センニハ露軍ハ適當ナル輻重及裝具等ヲ有セス且ツ此ノ如クスルトキハ敵ハ我全軍ヲ鴨綠江畔ニ拘束スルヲ得ヘク我ノ不利ナルノミナラス寧ロ危險ナルカ故ニ第二策ヲ採用スヘシト云フニ在リ

南山陷落後ニ於ケル露軍ノ訓令

五月二十六日日本軍ノ南山ヲ攻撃シテ之ヲ占領スルヤ同二十九日極東總督アレクセエフ大將ハ軍司令官ニ訓令シテ曰ク旅順口ノ占領ハ軍事上及政略上日本ノ重要ナル目的ニシテ今ヤ敵ハ金州陣地ヲ占領シタルヲ以テ敵ノ第二及第三軍ハ今後旅順口ニ向テ行動スルナラント思ハル吾人ニシテ旅順口ヲ失ハンカ之ト同時ニ極東ニ於ケル我艦隊ノ全部ヲ失フモノナリ旅順口ノ主要ナル此ノ如シ故ニ滿洲軍ハ旅順口救援ノ爲メ四師團ヨリ少ナカラサル兵力ト之ニ相應スル砲兵及

同訓令ニ對スル軍司令官ノ意見

強大ナル騎兵トテ割キ騎兵ノ兵力優勢ナルヲ大ニ利用シ以テ迅速且ツ斷乎トシテ進攻セシムヘシト

此訓令ニ基キ軍司令官ハ旅順口救援ノ爲メ南進スヘキ部隊トシテ先ツ西伯利第一軍團ノ全部ト步兵第三十五師團ノ一旅團野砲四門共及西伯利哥騎兵師團ヲ任シタリ其兵力計步兵三十二大隊外ニ護境兵騎兵及哥騎兵二十二中隊野砲八十八門騎砲十二門ナリ之ト同時ニ營口ヨリ蓋平熊岳城ニ亘ル沿岸ノ守備ニ西伯利步兵第三師團ノ一旅團野砲六門共ヲ充テタリ又南進諸隊ノ豫備隊トシテ步兵第三十一師團ノ一旅團野砲四門共ヲ熊岳城ニ派遣スルノ豫定ヲ爲セリ之ニ因リ得利寺蓋平方面ニ集合スヘキ總兵力ハ步兵四十八大隊野砲百二十八門騎砲十二門并ニ騎兵及哥騎兵二十二中隊ト爲ル筈ナリ

當時黒木軍ニ對抗スル爲メ賽馬集ヨリ分水嶺ノ間ニ配置シタル諸隊ノ全兵力ハ步兵四十大隊野砲八十二門騎砲十二門及哥騎兵五十二中隊ニシテ總豫備隊トシテ遼陽ニ東狙兵第五師團海城大石橋ノ線ニ西伯利第三師團ノ一旅團アリ

此狀況ニ於テ軍司令官ハ軍ノ正面千山々脈ニ亘リ百四十露里ニ延長シ在ルト豫

總督及軍司令官ノ情況判斷

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動

一 シタクリベル兵團南下ニ至リシ情況

備隊ノ兵力之ニ對シ極メテ微弱ナルカ故ニ集團シテ行動シ在ル日本軍ハ大ニ力ヲ盡クスコト無ク露軍守備線ヲ任意ノ方向ニ突破スルヲ得ヘシト憂慮セリ之ニ反シ極東總督府ハ露軍縱ヒ前進ト同時ニ陣地ヲ擴大スルモ日本軍モ亦寬甸縣ヨリ旅順口迄四百露里ニ擴張シ在ルカ故ニ日本軍ハ何レノ方向ニ攻勢ニ轉スルモ大兵力ヲ使用スル能ハスト爲シ連絡線ノ殊ニ危險ナルコトヲ思惟セサリキ

六月六日軍司令官ハシタケリベルグ中將ニ命スルニ西伯利第一軍團ノ諸隊ヲ其輻重、彈藥旅團及病院悉皆ト共ニ得利寺附近ニ集合セシムヘキ旨ヲ以テシ且ツ同軍團ニ増援スル爲メ步兵第三十五師團ノ一旅團ヲ前進セシメ西伯利步兵第三師團ノ全部ヲ旅團毎ニ海城及營口蓋平線ニ向ヒ移動セシメタリ

六月上旬  
日本軍ノ  
位置ヲ推  
斷

六月上旬軍司令部ニ於テハ日本軍ノ集合ヲ左ノ如ク推斷シタリ

日本第一軍近衛師團第二師團第十師團第十二師團第六及第九師團ノ一部并ニ後備諸部隊ハ大孤山、鳳凰城、寬甸縣ノ線ニ配置セラレ一日行程前方ニ前進諸部隊ヲ出シ在リ

關東半島ニハ第二、第三軍第一、第三、第四、第五、第八及第十一師團并ニ獨立騎兵旅

團集中シツ、在リテ第二、第三軍ノ兵力ノ分配ニ關シテハ未タ詳ナラサルモ内兵力五師團ニ達スル首力ハ旅順口ニ向ヒ我南進兵團ニ對シ掩護隊トシテ一或ハ二師團ヲ派出シ在ルナラン

此ノ如ク敵全軍集合ノ狀況略々明瞭ト爲リシカ故ニ更ニ上陸スル日本軍アリトスルモ大ナル部隊ニ非スト思惟シタリ

南方ニ對  
スル警戒  
ノ警戒手  
段

南方ニ對スル警戒ノ警戒手段トシテ軍司令官ハ日本軍若シ大洋河下流ヨリ海城蓋平ノ線ニ向ヒ前進スル場合ニハ之ヲ抑留シ且ツ日本軍若シ營口蓋平熊岳城ノ地方ニ上陸スル場合ニ之ニ對抗スヘキ任務ヲ西伯利第四軍團ニ課シ又日本軍カ鳳凰城ヨリ岫巖大孤山ノ間ニ前進スルヲ適時ニ發見シ且ツ莊河ニ平行スル河川口ニ至ル迄ノ沿岸地ヲ監視スル爲メ黒木軍ノ左翼ヲ偵察スヘキ任務ヲミシチエンコ少將支隊ニ委シ同支隊ニハ「オレンブルグ」哥騎兵師團ノ二聯隊著セルモノヲ増援スルノ部署ヲ爲セリ

シタケリ  
ベルグ中  
將ヘノ前  
進命令

クロバトキン大將ハ六月七日西伯利第一軍團長シタケリベルグ中將ニ左ノ命令ヲ下セリ

貴官ノ指揮スル軍團ハ旅順口方向ニ前進シ成ルヘク大ナル敵ノ兵力ヲ自己ノ方向ニ誘致シ以テ其關東半島ニ行動スル敵兵力ヲ微弱ナラシムヘシ  
 之カ爲メ北面ニ配置セラレタル敵軍ニ對シ其軍團ハ若シ敵兵微弱ナル場合ニハ成ルヘク速ニ之ヲ擊破センカ爲メ斷然且ツ迅速ニ活動セサルヘカラス之ニ反シ敵優勢ナレハ決戦ヲ避クルヲ要ス又情況判明セサル時ハ戰鬪間決シテ豫備隊ノ全部ヲ費消スルヲ許サス之ヲ要スルニ南方ニ前進スル其軍團終局ノ目的ハ金州ノ陣地(南山)ヲ回復シ更ニ旅順口ニ前進スルニ在リ

シタケリ  
ベルグ兵  
團ノ兵力

シタケリベルグ中將ノ令下ニ置カレタル部隊左ノ如シ附錄第二參照ハ

西伯利第一軍團 步兵二十四大隊(內第三十三聯隊第一大隊ハ大石橋ニ在リ)  
 軍團内ニアル沿海龍騎兵聯隊ハ開戦ノ蘇里門兵聯隊ヨリ成ルニ屬セシカノ  
 ニシテ此聯隊ノ外ニ子ルチンズク第一聯隊ハ烏蘇里軍ニ編入セラレ烏蘇  
 モ無ク旅團ハ解散セラレチンズク第一聯隊ハ烏蘇里軍ニ編入セラレ烏蘇  
 里聯隊ノ三聯隊ハ龍騎兵聯隊ノミニ屬セラレタリ  
 部ニ屬セラレ沿海龍騎兵聯隊ノミニ屬セラレタリ  
 ノフ少ト共ニ西伯利第一軍團ニ屬セラレタリ  
 步兵三十五師團第二旅團及砲兵第三十五旅團ノ第二大隊 步兵(內八大隊野砲團二十  
 參與  
セス

西伯利哥騎兵師團ノ第四中隊第五第八中隊聯隊并ニ後貝加爾哥騎砲兵第二中  
 隊(砲六門)護境兵二中隊同哥騎兵二中隊同騎山砲兵一中隊(砲六門)

計步兵三十二大隊半(實際戰團ニ參與セテ騎兵二十二中隊野砲八十八門(實際門ハ  
 騎砲六門及騎山砲六門)工兵一大隊

六月上旬  
以來露軍  
ノ配置

六月上旬ヨリ露軍ハ左記ノ如ク配置セリ(六月七日頃ニ於ケル  
 配置ハ附圖第五參照)

一 東部兵團

東狙兵第三師團(十二大隊)

東狙砲兵第三旅團(砲二十八門)ノ九連城戰團  
 (損害砲ノ  
 完補充未タ)

東狙兵第二十二第二十四聯隊(六大隊)

東狙砲兵第六旅團第二第三第四中隊ノ内

(砲十四門)

西伯利步兵第二師團第二旅團(八大隊)

西伯利砲兵第二大隊(砲十六門)

塔子嶺大磨嶺分水嶺及浪子山附  
 近



「チタ」哥騎兵第三聯隊(六中隊)

烏蘇里哥騎兵聯隊(五中隊)

「ウエルフ」チウジンスク「哥騎兵第二聯隊(六中隊)

東部西伯利工兵第二大隊(一大隊)

計歩兵二十六大隊、哥騎兵十七中隊、砲五

十八門、工兵一大隊

二「レンチン」カンブ少將支隊

東狙兵第二十三聯隊(三大隊)

西伯利歩兵第六聯隊ノ内一大隊

東部西伯利山砲兵第二中隊(砲八門)

後貝加爾哥騎兵師團第二旅團(十二中隊)

「アルグニ」哥騎兵第一聯隊(六中隊)

後貝加爾哥騎砲兵第四中隊(砲六門)

城廠 賽馬集橋頭附近

計歩兵四大隊、哥騎兵十八中隊、山砲八門

騎砲六門

右ノ外左ノ獨立部隊アリ

「ストレチン」スク「第一聯隊ノ内一大隊

護境兵ノ砲二門

黑龍哥騎兵聯隊ノ二中隊

「ストレチン」スク「第二聯隊ノ内一大隊

護境兵ノ砲二門

黑龍哥騎兵聯隊ノ半中隊

「マドリ」トフ大佐支隊

烏蘇里哥騎兵聯隊ノ内一中隊

高加士志願兵「チン」セ「哥騎一中隊

東狙兵第一及第十五聯隊ノ獵兵二隊

外ニ徵募支那義勇兵一隊(五十名)

韓國ヨリ懷仁ニ復歸セリ

小市

興京廳

三 ミシチエニコ少將支隊

後貝加爾哥騎兵旅團ノ内十一中隊  
「オレンブルグ」哥騎兵第十一及第十二聯隊  
(十二中隊)  
岫巖<sup>シュイエン</sup>西北方

四 レウエスタム少將支隊

西伯利步兵第二師團第一旅團(七大隊)  
東狙兵第二十一聯隊ノ三、三大隊  
西伯利哥騎兵第七聯隊  
西伯利砲兵第一大隊砲十六門  
東狙砲兵第六旅團第一中隊砲八門  
五 西伯利第一軍團  
東狙兵第一師團(十二大隊)  
同 第九師團(十二大隊)  
分水嶺<sup>フエシユイリ、フエシユイリ</sup>析木城

步兵第三十五師團第二旅團(八大隊)

東狙砲兵第一旅團(砲三十二門)

同 第九旅團(砲三十二門)

砲兵第三十五旅團第二大隊(砲二十四門)

沿海龍騎兵聯隊(五中隊)

西伯利哥騎兵師團(十五中隊)及護境騎兵二

中隊

護境兵二中隊

後貝加爾哥騎砲兵第二中隊及護境騎山砲

兵中隊(砲十二門)

計步兵三十二大隊半、騎兵哥騎兵二十二

中隊、砲百門

步兵第三十一師團第二旅團八大隊

砲兵第三十一旅團第二大隊(砲二十四門)

熊岳城<sup>シュンゴク</sup>

得利寺<sup>トクリジ</sup>熊岳城<sup>シュンゴク</sup>間騎兵ハ得利寺南  
方ニ在リ

六 西伯利第四軍團

西伯利步兵第三師團第一旅團八大隊

大石橋

西伯利砲兵第三大隊砲十六門

西伯利步兵第十一聯隊ノ内三大隊

營口

西伯利砲兵第四大隊ノ砲八門

西伯利步兵第十一聯隊ノ内一大隊

同 第十二聯隊四大隊

蓋平

西伯利砲兵第四大隊ノ砲八門

七 遼河支隊

「ウエルフチウジンスク」第四聯隊ノ一大隊

大灣牛莊間遼河ノ線

黑龍哥騎兵聯隊ノ二中隊

護境兵步兵二中隊、哥騎兵四中隊、砲六門

八 首力

東狙兵第五師團(十二大隊)

東狙砲兵第五旅團(砲三十二門)

「ウエルフチウジンスク」第四聯隊ノ内二大

隊)

西伯利砲兵第一旅團第一中隊(砲八門)

遼陽附近

西伯利哥騎兵第四聯隊ノ内(二中隊)

黑龍哥騎兵聯隊ノ内(一中隊半)

東部西伯利白砲第一中隊(白砲八門)

護境兵騎山砲二中隊騎山砲第四及集成中隊四(山砲八門)

計步兵十四大隊、哥騎兵三中隊半、砲四十

門、白砲八門、山砲八門

「チタ」第二聯隊(四大隊)

奉天

九 關東要塞地區

東狙兵第五聯隊ノ二大隊ト三中隊ハ北京

ニ在

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動 一 シタケリベルグ兵團南下ニ至リシ情況

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動

東狙兵第四師團(十二大隊)

同 第七師團(十二大隊)

步兵補充大隊(三大隊)

東狙砲兵第四旅團(砲三十二門)

同 第七師團(砲二十四門)

五十七密砲兵中隊(砲八門)

關東要塞砲兵三中隊半

「ウエルフチウジンスク」哥騎兵第一聯隊ノ

内一中隊

計步兵二十九大隊四分三、哥騎兵一中隊、

砲五十六門、要塞砲兵三中隊半、五十七

密砲八門

南滿洲總

關東要塞地區ヲ除キ南滿洲戰地ニ在ル總兵力ハ左ノ如シ

兵力 步兵百十七大隊半

關東要塞地域

騎兵哥騎兵九十五中隊外ニ高加士志願兵一中隊アリ

野砲二百五十六門、騎砲二十四門、山砲十六門、臼砲八門

外ニ護境兵步兵二中隊、哥騎兵四中隊、砲十門アリ

第五

得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動

一 シタケリベルグ兵團南下ニ至リシ情況

二 得利寺南方騎兵ノ衝突及南部兵團ノ得利寺集合

露軍最南部隊

瓦房店停車場撤去五月十日以來露ノ最南部隊ハ得利寺停車場附近ニ在ル護境哥騎兵一中隊歩兵半中隊ニ過キス

五月二十七日日本騎兵約百五十ハ得利寺東南方八露里ノ地ヲ通過セント試ミシモ護境哥歩騎兵ノ射撃ニ遇ヒ退却セリ

サムソノ騎兵支隊ノ先發

二十九日サムソノ少將ハ西伯利第一軍團ノ先頭ト爲リ得利寺迄拋棄セシ鐵道線ヲ再ヒ占領シ軍團ノ輸送ヲ掩護スヘキ任務ヲ以テ左ノ部隊ヲ率テ萬家嶺ニ到著セリ

沿海龍騎兵聯隊(五中隊)

西伯利哥騎兵第八聯隊(同右)

護境哥騎兵一中隊

東狙兵第十三聯隊ノ乘馬獵兵一隊(六十名)

後貝加爾哥騎砲兵第二中隊

計騎兵哥騎兵(獵兵共)十一中隊半、砲六門

于家屯附近ノ戰團

三十日歩兵八中隊騎兵八中隊機關銃四門ヨリ成ル日本一支隊ハ護境哥騎兵一中隊歩兵半中隊ノ據守セル得利寺南方城子山附近ノ陣地ヲ攻撃セリ是日サムソノ少將ノ率ウル騎兵支隊ハ龍騎兵一中隊ヲ前衛トシ萬家嶺ヲ出發シ得利寺ニ向ヒ前進セシカ午前十一時前衛ヨリ得利寺ニ出セシ斥候ヨリ護境兵部隊得利寺南方ニ於テ優勢ナル敵ト交戦シ在リトノ報告ニ接シ前衛龍騎兵中隊ト本隊ノ先頭ニ在ル龍騎兵二中隊ヲ應援ノ爲メ急派シ次テ砲兵ノ萬家嶺附近隘路通過畢ルヤ此砲兵中隊其他ノ騎兵ヲ率テ之ニ續行セリ既ニシテ得利寺停車場ニ達スルヤ少將ハ護境兵カ于家屯ニ於テ戦ヒ龍騎兵三中隊既ニ同地ニ向ヒシヲ聞キ護境哥騎兵一中隊及獵兵隊ヲ復州河ニ沿ヒ于家屯西方ノ高地ニ派遣シ日本軍ノ左側ヲ脅威セシメタリ以下附圖 第四參照

サムソノ少將ハ挺身老燒鍋南方高地ニ到リ先遣ノ龍騎兵三中隊ニ追及セリ是時此諸中隊ハ高地上ニ展開シツツ在リ又護境兵部隊カ龍騎兵ノ斥候ヲ併セ于家屯ノ北部集團家屋ニ於テ村落ノ南部及其兩側高地ヲ占領セル日本軍歩兵ニ對シ防禦シツ、在ルヲ見タリ少將乃チ砲兵中隊ニ命スルニ龍騎兵ノ占領スル高地ニ

布列スヘキヲ以テセリ然ルニ偵察ノ結果此高地ノ斜面頗ル急峻ニシテ登ル能ハ  
 サリシニ因リ砲兵中隊ハ復州河ニ架セル鐵道橋南方ノ高地ニ布列シ于家屯ノ東  
 南及東北方高地ヲ射撃スルコトニ變更セリ然レトモ此ヨリ于家屯ヲ射撃スル能  
 ハサリキ此間支隊ノ殘餘哥騎兵五中隊到著シテ砲兵ノ附近ニ停止セリ  
 午後一時頃護境兵ハ于家屯ヨリ撤退ヲ始メタリ日本歩兵ハ同地北方ノ敞開セル  
 谷地ニ進出シテ之ヲ急追セリ而カモ其隊形頗ル亂レ在ルヲ認メタリ少將乃チ退  
 却セル護境兵ヲ救ハンカ爲メゼルツヒン中佐ニ命シ哥騎兵二中隊ヲ以テ襲撃ヲ  
 行ハシメタリ然ルニ此兩中隊未タ進出セサルニ先タチ護境兵ハ老燒鍋南方高地  
 ニ來リ龍騎兵諸中隊ニ合シタリ唯最後ニ村落ヲ撤去セル龍騎兵斥候及護境哥騎  
 兵等約三十騎ノミ尙ホ谷地ヲ退却セシカ日本軍騎兵一中隊ハ其兩側ヨリ鐵道東  
 方ノ岩壁ノ方向ニ之ヲ壓迫セリ是時恰モ哥騎兵二中隊ハ之ト齊頭ノ地ニ進出シ  
 ゼルツヒン中佐ハ「ラ」ヲ隊形ヲ編成シ鐵道ヲ越エ日本騎兵中隊ニ向ヒ襲撃セリ退  
 却中ナル露ノ騎兵モ亦馬首ヲ回ラシテ襲撃ニ移レリ兩軍騎兵ハ短距離ニ於テ相  
 衝突シ格闘ヲ交ヘシカ哥騎兵ノ槍ト兵力優勢ノ爲メ日本騎兵ハ遂ニ于家屯方向

サムソノ  
 フ支隊得  
 却寺ニ退

ニ壓迫セラレタリ此村端ニハ日本歩兵及若干ノ機關銃アリテ哥騎兵ニ對シ盛ニ  
 射撃ヲ開始セリ是ニ於テ哥騎兵ハ退却スルノ已ムヲ得サルニ至レリ是ニ於テ新  
 銳ナル日本騎兵二中隊ハ退却中隊ノ左方ニ梯次シツ、于家屯ヨリ突進セリ然レ  
 トモ是時恰モ于家屯西方ノ高地ニ達セル獵兵隊ハ數回一齊射撃ヲ行ヒ退却シ來  
 ル哥騎兵ヲ收容セリ之ニ因リ先頭ノ日本騎兵中隊ハ退却セシカ更ニ其左方ヨリ  
 梯次前進シ來レル他ノ日本騎兵兩中隊モ亦獵兵隊ト共ニ西方ニ在リシ騎兵中隊  
 ノ射撃ニ依リ擊退セラレタリ是時支隊ノ左側ニ於テ徒歩セル龍騎兵ハ騎戰ヲ以  
 テ戰團ニ參與スル能ハサリシニ因リ徒歩ノ儘于家屯東北方高地ヨリ日本兵ヲ射  
 撃シタリ然ルニ別ニ日本兵ノ一隊左方ヨリ迂回シ來ルヲ發見シ第二陣地ニ退却  
 シタリ午後一時三十分頃ニ至リ後貝加爾哥騎砲兵第二中隊ハ陣地ニ布列シテ日  
 本歩兵及機關銃ヲ射撃シ之ヲ沈黙セシメタリ是時恰モ日本歩兵于家屯ニ向ヒ行  
 動セルノ狀アリ二時頃ニ至リ果シテ日本歩兵數中隊ハ曩ニ龍騎兵ノ占領セル于  
 家屯東北方高地上ニ現出セリサムソノフ少將乃チ鐵道橋南方豫備隊ヨリ更ニ龍  
 騎兵二中隊哥騎兵一中隊ヲ此方面ノ救援ニ赴カシメタルモ及ハス是ニ於テ少將

ハ得利寺停車場附近ニ支隊ヲ退ケ情況ノ變化ヲ待チシカ日本軍ハ露軍砲兵ノ布列セルヲ見テ敢テ攻撃シ來ラス三時三十分頃銃砲火沈靜ニ歸セリ此戰團ニ於テ露軍將校二名負傷シ下士卒三名戰死シ三十二名負傷シ馬匹四十頭ヲ失ヘリ戰團後幾モ無クサムソノフ少將ハ鐵道ニ由リ得利寺ニ到著シタル東狙兵第九師團ノ第三十六聯隊第三大隊ノ増援ヲ得タリ

日本支隊ハ于家屯附近ニ停止シ此ニ防禦陣地ヲ構成セリ露軍支隊ハ小哨ヲ復州河及四平街方十露里東貌子窩熊岳城ノ街道上ニ出シ停車場附近ニ駐止セリ

六月二日日本歩兵ハ上崔家屯方二露里東ニ據リタル露軍小哨ヲ強襲センコトヲ企テタルモ射撃セラレテ退却セリ露兵一名是日日本騎兵約三中隊ハ四平街附近ノ小哨ヲ壓迫シ小哨ハ西北方四五露里ノ沙河樓子ニ退却セリ

二日ヨリ三日ニ亘ル夜間日本軍ノ前哨線ハ露ノ哨所ヲ距ル約二百米突ノ距離ニ近ツキ三日沙河樓子ノ小哨ハ増援兵ヲ得テ附近ニ據レル敵ノ騎兵支隊ヲ退却セシメタリ

同支隊威  
力偵察ノ  
再行

三日サムソノフ少將ハ再ヒ于家屯ニ向ヒ威力偵察ヲ企テタリ之ニ使用シタル兵

力ハ歩兵一大隊騎兵四中隊半砲兵一中隊ニシテバチンスキー大佐ノ率ウル歩兵一大隊東狙兵第三十六ハ復州河東方ノ高地ヲ經テ于家屯ニ向ヒ騎兵二中隊内一ハ龍騎兵他ハ右岸ニ沿ヒ于家屯西方ノ高地ニ向ヒ前進セリ又砲兵中隊ハ哥騎兵二中隊ノ掩護ヲ受ケ一時鐵道橋ノ南方ニ留マリタリ東狙兵大隊ハ日本小哨及斥候ヲ徐々ニ老燒鍋附近ノ高地ヨリ擊退シ一時間半ノ小鬪ノ後同村南方ノ山背ニ達シタリ于家屯ニハ防禦工事施サレ其東方高地ニ亘リ日本歩兵約四中隊占據セリ是ニ於テバチンスキー大佐ハ前進ヲ中止シ砲兵中隊ノ援助ヲ求メ砲兵ハ午後四時頃老燒鍋東方高地ニ布列シ日本歩兵ヲ射撃セシカ日本歩兵ハ徐々曲家店方向ニ退却セリ是ニ於テ露軍砲兵ハ于家屯西方高地ヲ射撃セリ此地ニハ日本騎兵射撃ノ爲メ展開シ在リ此騎兵ハ是ヨリ先キ復州河ニ沿ヒ前進セル哥騎兵諸中隊ヲ擊退シタルモノナリ哥騎兵三名傷キ馬午後六時頃日本砲兵一中隊ハ于家屯南方ヨリ射撃ヲ開始シ次テ第二ノ中隊同所ヨリ發火セリバチンスキー大佐ハ此砲兵ヨリ追射セラレツ、退却セリ此偵察ニ依リサムソノフ少將ハ日本軍更ニ砲兵ヲ増加シタルコトヲ知り得タリ此戰團ニ於テ東狙兵第三十六聯隊中佐セレダ負

日本軍支隊ノ退却

シタケリ  
ベルグ兵  
團首力ノ  
蓋平附近  
集令并一  
退ノ南進

傷シ下士一名戰死シ下士卒十四名負傷セリ外ニ挫傷將校一名(ハチン大佐)兵卒六名アリ  
 五日ニ至リ日本軍ハ于家屯附近陣地ヲ放棄シ南方十三露里ナル瓦房店停車場ニ退却シ次テ又此ヲ撤去シテ南方ニ退却シ露ノ騎兵ハ之ニ追躡セリ  
 此間五月三十日シタケリベルグ兵團ノ首力ハ蓋平及營口ニ集合東狙兵第一師團ハ三十日海城ニテ  
 一日蓋平ニ到著セリセシカ其一部ハ逐次得利寺ニ向ヒ前進セリ即チサムソノ少將騎兵支隊ノ南進ニ續テ西伯利騎兵第四聯隊ノ三中隊同第五聯隊ノ二中隊ハ五日ヲ以テ少將ノ許ニ到著シ又東狙兵第三十六聯隊(一中隊欠)ハ鐵道ニ由リ同地ニ輸送セラレ其先頭大隊ハ既述ノ如ク營口ヲ發シ一日ニ得利寺ニ到著セシカ他ノ兩大隊モ亦之ニ續行セリ斯クテ五日ニハ少將ノ指揮スル兵力ハ騎兵十六中隊歩兵三大隊砲兵一中隊ト爲レリ又東狙兵第一師團ハ前記第三十六聯隊ニ續キ鐵道輸送ヲ以テ得利寺ニ到著シ五日迄ニ到著セリ  
 五日夕シタケリベルグ中將モ亦特別列車ニテ蓋平ヨリ得利寺ニ到レリ爾後中將ハ一列車ヲ以テ自己ノ宿舎用ニ供セリ  
 當時東狙兵第九師團ノ諸部隊ハ西伯利第四軍團ノ諸部隊ト交代シタル後營口蓋

平間ノ沿岸ノ地ヲ出發シ得ルコトニ定メラレシカハ其集合稍遲滯セリ而シテ交代スヘキ西伯利歩兵第三師團ノ六大隊ハ蓋平ニ同師團ノ二大隊ハ營口ニ又八大隊ハ大石橋ニ派遣セラレタリ  
 歩兵第三十五師團第二旅團ハ其砲兵ト共ニ西伯利第一軍團増援ノ爲メ蓋平及其南方ニ向ヒタリ

西伯利第一軍團ノ訓令

得利寺附近ノ布陣

又西伯利第一軍團ハ關東半島ニ行動スル敵ニ對シ細心自己ノ兩側ヲ監視シ敵若シ更ニ莊河熊岳城ノ線ノ南方ニ上陸スルカ如キコト有ラハ如何ナル場合ニモ敵ヲシテ何レノ翼ヲモ迂回セシメサル如ク注意スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケタリ  
 六日中將ハ得利寺ニ諸隊ヲ集合シ後南方ニ前進スルノ決心ニ基キ命令ヲ發シサムソノ少將ノ率ウル支隊ヲ前衛ト爲シ得利寺停車場ノ南方八露里ノ地ニ陣地ヲ占領セシメ軍團ノ首力ヲシテ得利寺附近ニ陣地ヲ占領セシメタリ而シテ此等諸陣地ハ七日午前九時迄ニ配備ヲ畢ルヘキ豫定ニシテサムソノ少將ハ復州街道ニモ獨立監視哨ヲ差遣スヘキヲ命セラレタリ是日日本軍ノ首力ハ普蘭店ヨリ唐家房ニ至ル間ニ集中セリ



サムソノフ少將ハ騎兵十六中隊騎砲兵一中隊ヲ率テ六日得利寺ヲ發シ所命ノ地ヨリ尙ホ南方ナル瓦房店ニ到レリ此前進間日本軍ノ破壞セシ鐵道ヲ修理セリ七日ニ至リ西伯利哥騎兵師團解散セラ長シモノフ中將騎兵ノ指揮ヲ執ランカ爲メ瓦房店ニ到著セリサムソノフ少將ハ其令下ニ屬シ一部隊ノ指揮ニ任セシカ如シ騎兵支隊ハ首力ヲ以テ瓦房店附近ニ停マリ警戒線ヲ大馬圈子肖家店趙家屯ノ線ニ進メ獨立監視隊ヲ復州及周家屯ニ派遣セリ

六月七日  
夜シタケ  
リベルグ  
兵團ノ配  
置

斯クテ六月七日夜シタケリベルグ兵團ハ左ノ如キ配置ニ在リ  
附圖第  
シモノフ中將ノ前進騎兵支隊

沿海龍騎兵聯隊(五中隊)

西伯利哥騎兵第四聯隊(三中隊)

同 第五聯隊ノ一中隊

同 第八聯隊(五中隊)

護境哥騎兵一中隊

東狙兵第十三聯隊乘馬獵兵一隊

瓦房店

後貝加爾哥騎砲兵第二中隊(砲六門)

計騎兵十五中隊隊外ニ西伯利哥騎兵第五聯隊ノ一中

乘馬獵兵一隊騎砲六門

ルトコフスキー少將ノ前衛

東狙兵第一聯隊

同 第二聯隊

西伯利哥騎兵第五聯隊ノ一中隊

東狙砲兵第一旅團第一中隊

計歩兵六大隊騎兵一中隊野砲八門

首力

東狙兵第三聯隊

同 第四聯隊(二大隊ト一中隊)

同 第三十六聯隊(二大隊ト三中隊)

西伯利哥騎兵師團第四聯隊ノ一中隊

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動 二 得利寺南方騎兵ノ衝突及南部兵團ノ得 百七

得利寺南方八露里

護境哥騎兵一中隊

得利寺附近

同 騎山砲兵一中隊(砲六門)

東狙砲兵第一旅團ノ三中隊

東部西伯利工兵第一大隊ノ一中隊半

計歩兵八大隊、哥騎兵二中隊、野砲二十四門、山砲六門

工兵一中隊半

步兵第三十五師團第二旅團(八大隊)

海城

砲兵第三十五旅團第二大隊(砲二十四門)

東狙兵第三十四聯隊(三大隊)

營口

同 砲兵第九旅團第二中隊(砲八門)

東狙兵第三十三聯隊ノ一大隊

大石橋附近

乘馬獵兵一隊 (在湯地)

東狙兵第三十三聯隊ノ二大隊

同 第三十六聯隊ノ一中隊

同 第三十三聯隊ノ乘馬獵兵一隊

蓋平附近

同 砲兵第九旅團ノ第一、第三及第四中隊

計歩兵二大隊ト一中隊、乘馬獵兵一隊、砲二十四門

東狙兵第三十五聯隊(三大隊)

波其塞中央熊岳城

同 聯隊ノ乘馬獵兵一隊

西伯利哥騎兵師團第五聯隊ノ二中隊

唐家店附近

同 聯隊ノ一中隊

坎子同

外ニ護境兵二中隊アリ

第一線ニ於テハ八日ニ至ル迄著シキ變動ナシ但シ是日騎兵ハ三兵種ヨリ成ル日本軍ノ一支隊前進スル旨ノ情報ヲ兵團指揮官ニ報告セリシタケリベルグ中將ハ此敵ヲ成ルヘク普蘭店ヨリ遠ク得利寺方向ニ誘致シ之ヲ擊破センコトニ決心セリ其後前哨線ニ於テハ小衝突毎日絶エス九日ニハ日本騎兵二中隊來リテ周家屯ノ監視隊(哥騎兵半中隊)ヲ壓迫シ瓦房店ヲ距ル六吉米ノ地迄近接シ此地ニ於テ哥騎兵五中隊及砲兵一小隊ノ抵抗ニ遇ヒ退却セリ此等小團ニ依リ露ノ中尉一員傷シ兵

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動 二 得利寺南方騎兵ノ衝突及南部兵團ノ得 百九 利寺集合

日本艦隊  
蓋平方面  
ニ現出

九日七時一説ニ日本巡洋艦隊ハ熊岳城附近ニ現ハレ露軍監視哨并ニ熊岳城蓋平間ノ  
鐵道ヲ砲撃シ上陸ヲ裝ヒ牽制行動ヲ爲シ翌日八日一説ニハ蓋平西方張家屯附近ニ在  
ル歩兵約二中隊、騎兵一中隊ノ露軍一部隊ヲ射撃シ十一日ニ至ル迄數隻ノ軍艦其  
沿岸附近ニ遊弋セリ之ニ因リ東狙兵第九師團ノ首力ハ尙ホ蓋平附近ニ駐留セラ  
レタリ

牽制運動

十日在瓦房店シモノフ騎兵支隊ハルトコフスキ少將ノ前衛即チ東狙兵第一、第  
二聯隊、哥騎兵一中隊西伯利第五聯隊及砲兵一中隊ヲ以テ増援セラレタリ修理ニ由  
レタリ此前衛ノ南進セシ目的ハ日本軍ノ注意ヲ喚起シ露軍大舉シテ南方ニ向ヒ  
攻撃前進スヘシトノ風説ヲ流布シ成ルヘク多數ノ日本軍兵力ヲ旅順口方面ヨリ  
分割セシメントスルニ在リ

シモノフ  
支隊ノ配  
備

是ニ於テシモノフ支隊ハ歩兵六大隊、騎兵十六中隊、砲十四門ノ兵力ヲ有シ其歩兵  
半大隊、騎砲兵一小隊ヲ支援部隊ニ充テ歩兵二大隊ヲ警戒線ノ増加ニ使用セリ之  
ニ因リ警戒部隊ノ兵力配備左ノ如ク爲レリ附圖第  
六参照  
西部地區 (四哨) 歩兵二中隊、哥騎兵一中隊半

中央地區 (四哨) 歩兵二中隊、哥騎兵半中隊

東部地區 (三哨) 歩兵四中隊、哥騎兵一中隊

十日夕強大ナル日本軍搜索隊(騎兵一中隊及歩兵三中隊ナラン)ハ肖家店附近ノ露  
軍哨兵ヲ急襲シ之ヲ擊退シタリ十一日朝哥騎兵二中隊續テ東狙兵一大隊同地ニ  
向ヒ進ミシニ因リ日本支隊ハ退却セリ是夕警戒線ノ東翼ニ於テ日本騎兵二中隊  
ハ哥騎兵半中隊ヲ奇襲シ露軍ハ二名ノ損害ヲ以テ力爭スルヲ得タリ同夜日本一  
支隊歩兵三大隊ナラン)ハ肖家店附近ノ露ノ小哨ヲ襲ヒ既記ノ東狙兵大隊ハ銃槍  
ヲ以テ逆撃ヲ試ミシカ射撃ニ依リ擊退セラレ二名ノ兵卒戰死シ十五名ノ兵卒傷  
キタリ一説ニ下士卒四名戰死シ黎明日本軍ハ南方及東南方ニ退却セリ支隊ハ此戰團  
後雲臺山瓦房店拉子山附近ノ隘路及高地ヲ占領セリ

シタケリ  
ベルグ  
中將  
ヘノ訓

此間十一日軍司令官ハステッセル中將ヨリ情報ヲ得タリ曰ク敵ハ歩兵六師團ヲ  
關東州ニ上陸セシメ内二師團ヲ旅順口方面ニ、二師團ヲ金州地頭南方老虎山附近  
ニ、二師團ヲ地頭ノ北方西伯利第一軍團ニ對シ配置セリト軍司令官乃チ訓令ヲシ  
タケリベルグ中將ニ與ヘ之ヲ通報シ且ツ曰ク老虎山附近ニ豫備タル敵ノ二師團

五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動

二 得利寺南方騎兵ノ衝突及南部兵團ノ得  
利寺集合 百十一

ヲモ牽制シ地頸以北ニ誘致スルヲ要スト尙ホ之ニ附加スルニ敵ハ根據地ヲ獲子  
 窩附近ヨリ大連灣ニ移シタル如ク思惟セラル、カ故ニ軍隊ノ地頸ヲ經テ南方ニ  
 移ルノ時ニ乘シ砲兵及輜重部隊ノ行進ヲ阻害スルコトヲ勉メ以テ地頸通過ノ行  
 動ヲ妨害スヘキヲ以テセリ蓋シ軍司令官ハ此際艦隊ニシテ既ニ修理ヲ畢リ大洋  
 ニ出テ能ク敵ノ艦隊ト對抗スルカ或ハ少クモ敵ノ交通ヲ妨害シ得ヘクンハ此行  
 動ハ之ト連繫シテ極メテ緊要ナリト判斷シタルニ因レリ

シタケリ  
 ベルカ兵  
 團防禦陣  
 地ノ構成

此間シタケリベルグ兵團ノ首力ハ陣地ノ撰定及防禦工事ニ從事シタリ即チ軍團  
 長躬ラ五日ヨリ八日ニ亘リ停車場附近ノ地形ヲ偵察シ尙ホ軍團附工兵大尉ヲシ  
 テ偵察セシメ得利寺南方十二露里ナル高地ヲ以テ適好ナリトノ報ヲ得タリ然レ  
 トモ軍團長ハ八日之ニ代フルニ瓦房窩堡ヨリ龍口ニ亘ル高地線ヲ以テシ是日躬  
 ラ左翼地區ヲ巡視シ步兵線ノ位置及砲兵陣地ヲ指定セリ然レトモ是レ軍團ノ集  
 合間利用スヘキモノニシテ其工事極メテ一時的ノモノニ限ラレタリ右翼陣地ハ  
 十二日午後ニ至リ始メテ確定セリ是レ軍團參謀長代理タルグルコ大佐ノ工兵將  
 校ト共ニスル偵察ニ係ルモノニシテ此地區ノ工事ハ漸ク翌十三日ヨリ著手シタ

兵團得利  
 寺集合ノ  
 遲滯

リ此ノ如クシテ工事ノ時日ニ乏シキノミナラス工用器具(大鋸及爆裂器具)不足  
 シ加フルニ此地附近ノ地圖ハ十日ヲ以テ始テ工兵隊ニ交付セラレ又蓋平ニ在リ  
 シ東部西伯利野戰工兵廠第一支部ヲ招致スルニ鐵道ニ由ラスシテ徒步行軍ヲ以  
 テセシニ因リ十一日始テ到着セリ送工兵隊ヨリハ八日ヲ以テ該工兵廠ヲ鐵道輪又  
 散兵壕ハ工兵將校ノ指導下ニ步兵部隊ノ築造ニ係リ豫メ占領部隊ヲ定メスシテ  
 一般ノ工事ニ從事セシメタリ是ヲ以テ陣地ノ工事甚タ進捗セス散兵壕ノ如キハ  
 概ネ膝射ニ適スルニ過キス肩牆ハ比較的良好ニ築造セラレシモ山頂ニ在リテ目  
 標ト爲ル如ク經始セラレタリ而シテ若干蔭蔽陣地ノ設備アリシモ砲兵隊ハ未タ  
 蔭蔽陣地ヨリ射撃スルニ慣レス利用セラル、ニ至ラサリシト云フ掩蓋及人工障  
 害物ハ一般ニ設置セサリキ當時多少鐵板等ヲ有セシモ復州河ノ橋梁ニ使用スル  
 筈ナリシヲ以テ陣地ノ工事ニ使用セサリキ此工事ハ十四日午前十一時ニ至リ纔  
 ニ落成シ散兵壕三十六個砲臺九坐、通路約千二百米突ヲ設ケタリ  
 六月五日迄ニ東狙兵第一師團及同第三十六聯隊得利寺ニ到着後日本軍ノ岫巖占  
 領及艦隊ノ熊岳城蓋平間海上ニ現出ハ一時西伯利第一軍團ノ輸送ヲ中止セシメ

タルカ日本軍カ岫巖ニ防禦工事ヲ施シ前進セサル旨ノ報告軍司令部ニ達シ又艦隊ハ十一日頃遼東灣ヲ去リシニ因リ再ヒ得利寺ヘ向ケ軍隊ノ輸送開始セラレタリ乃チ十二日先ツ東狙兵第九師團ノ一部隊即チ第三十三聯隊(二大隊ノミ)及砲兵二中隊同地ニ著シ師團ノ殘餘(第三十四、第三十五聯隊及砲兵二中隊ニシテ尙ホ營口、蓋平間ノ地方警戒ノ爲メ留マリ西伯利第三師團ヨリ交代セラレタル後十四日ニ至リ使用ニ供セラルルニ至レリ)ハ之ニ續行セスシテ反テ歩兵第三十五師團(第七軍第二旅團ハ其砲兵二中隊ト共ニ十三日夕迄ニ得利寺ニ達シ總豫備隊ト爲リ崔家屯附近ニ宿營セリ)是時シタケリベルグ兵團ノ兵力ハ歩兵二十五大隊半、騎兵十八中隊、砲兵十中隊ニ達シタリ其後東狙兵第三十四、第三十五聯隊ハ砲兵二中隊ト共ニ十四日得利寺ニ到著シタリ尙ホ増援トシテ派遣セラレタル西伯利歩兵第三師團ノ先頭聯隊(第九聯隊)ハ十五日ニ到著シ退却戰ニ加ハレリ故ニ歩兵三十五大隊半、騎兵十八中隊、砲兵十二中隊即チ銃約二万五千挺、刀二千五百、砲九十二門ハ得利寺戰團ニ參與スルヲ得タリ

得利寺戰團參與露軍ノ全兵力

### 三 得利寺戰團

#### (一) 戰團前ノ情況

日本軍ノ前進

六月十三日午前六時日本軍ハ三縱隊ト爲リ前進シシモノヲ騎兵支隊ノ前哨線ヲ壓迫シ夜ニ至ル迄ニ之ヲ瓦房店ニ壓シタリ是日ハ露軍ニ於テモ恰モ普蘭店方向ニ偵察ヲ試ミント欲シ十二日夕肖家店附近ニ一支隊(騎兵二中隊、乘馬獵兵一中隊)集合シ夜間前進セシカ是日途中既ニ日本軍縱隊ノ前進シ來ルニ遇ヒタリ

支隊及前哨ノ退却

此ノ如クシテシモノフ中將ハ中央、東部警戒地區ノ哨兵ヨリ陸續日本軍ノ前進ニ關スル報告ニ接シ且ツ日本先頭部隊ノ兵力歩兵九大隊、騎兵七中隊、砲十門ナルノ報アリタルニ因リ其優勢ナルヲ察シ其受ケタル命令ニ依リ得利寺ニ向ヒ退却スルニ決シ警戒線ヲ撤退セシメタリ然レトモ警戒線ノ正面廣大ナリシニ因リ急速ニ退却ニ就ク能ハス日本歩兵ヨリ甚タシク壓迫セラレ砲兵ノ射撃ヲ受ケツ、困難ナル土地ヲ經テ徐々ニ退却セリ中央地區ノ哨兵拉子山ヲ通過シ同地ノ南方ニ布列セル哥騎砲兵中隊カ優勢ナル日本軍砲兵ヨリ射撃セララル、ニ及ヒ前衛ノ首

日本軍ノ陣地占領

シタケリ  
ベルグ兵  
團得利寺  
附近陣地  
占領命令

力モ亦得利寺方向ニ退却ヲ開始セリ退却中電信局ヲ閉鎖撤去セリ  
 シモノフ支隊ハ復州街道ニ顧慮スルコト無ク專ラ鐵道線路ニ沿ヒ逐次退却セリ  
 故ニ日本第四師團ノ復州ニ向フ前進ニ就テハ最後ニ至ル迄之ヲ知ラザリキ斯克  
 テ午後四時三十分頃ニ至リ日本軍ハ瓦房店ノ南方四吉米ノ地ニ停止シ西方ハ盛  
 家勾南方高地ヲ占領シ中央ハ王家屯ヲ占領シ東翼ハ大沙河々谷ノ陳家屯ヲ占領  
 シタリシモノフ支隊ハ祝家屯南方高地ニ停止シ監視ノ爲メ騎兵部隊ヲ用ヒ前進  
 セシメタリ夜間鐵道ニ沿ヒ前進セル哥騎兵聯隊ハ瓦房店ノ南方ニ於テ不意ニ日  
 本軍前哨ニ衝突シ小鬪ヲ行ヒ大ニ惱マサレタリ之ニ因リシモノフ中將ハ日本軍  
 夜間再ヒ前進ヲ行ヘルモノト誤信シ退却セシカ其後ノ報告ニ依リ誤解發見セラ  
 レ首力ハ三家子附近ニ宿營シ後衛ヲ以テ日本軍ト接觸セシメタリ一名負傷シ將校  
 士本數名  
 負傷セリ  
 是日午後シタケリベルグ中將ハ得利寺停車場ニ於テ左ノ命令ヲ西伯利第一軍團  
 各軍隊ヘ下セリ  
 一、敵ハ歩兵約二師團ノ兵力ヲ以テ瓦房店ニ向ヒ前進ス

二、敵若シ得利寺停車場ニ向ヒ攻撃シ來ル場合ニハ西伯利第一軍團ハ鐵道線路  
 ノ兩側ニ沿ヒ于家屯北方ノ陣地ヲ占領セントス  
 三、軍隊區分

騎兵支隊

指揮官シモノフ中將

沿海龍騎兵聯隊ノ五中隊

西伯利哥騎兵師團ノ六中隊

東狙兵第十三聯隊ノ乘馬獵兵一中隊

後貝加爾哥騎砲兵第二中隊(砲六門)

計騎兵十一中隊、乘馬獵兵一中隊、騎

砲六門

前衛

指揮官ルトコフスキ少將

東狙兵第一師團第一旅團長

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動 三 得利寺戰團

大房身ニ向ヒ進出シ同村西方ニ位置  
 シ大房身、田家屯、曲家屯ノ地帯ニ於ケ  
 ル河谷及道路ヲ監視シツ、陣地ノ右  
 側ヲ警戒スヘシ

敵若シ優勢ノ兵力ヲ以テ攻撃シ來ル  
 場合ニハ曲家屯ヨリ瓦房窩堡ニ向ヒ

西伯利哥騎兵師團ノ一中隊

東狙砲兵第一旅團ノ一中隊(砲八門)

計歩兵六大隊騎兵一中隊(砲八門)

左翼地區(鐵道線路ヨリ東方)

指揮官ゲルンダロス少將

東狙兵第一師團ノ十二大隊

同 砲兵第一旅團(砲三十二門)

護境山砲中隊(砲六門)

西伯利哥騎兵(シモノフ中將ニ屬スル

モノ)ノ三中隊

西伯利哥騎兵第四聯隊ノ第五中隊

東部西伯利工兵第一大隊ノ半中隊

計歩兵十二大隊野砲三十二門山砲

六門騎兵(四中隊)工兵(半中隊)

退却スヘシ但シ瓦房窩堡ニ達セサル  
途中ヨリ老燒鍋ニ轉進シ此地ニ於テ  
左翼地區隊ノ編組ニ入ルヘシ

歩兵二聯隊及砲兵三中隊ヲ第一線ト  
シ歩兵二聯隊及砲兵一中隊ヲ豫備隊  
ト爲シ陣地ヲ占領スヘシ

中央地區隊

指揮官ルチコフスキ少將(東狙砲兵第一旅團長)

東狙兵第三十三聯隊ノ三中隊

東狙砲兵第九旅團ノ二中隊(砲十六門)

砲兵第三十五旅團ノ一中隊(砲八門)

計歩兵三中隊(砲二十四門)

右翼地區隊

指揮官クラウゼ少將

東狙兵第三十三聯隊ノ一大隊ト一中

隊

同 第三十六聯隊ノ二大隊

東部西伯利工兵第一大隊ノ一中隊半

東狙砲兵第九旅團ノ一中隊(砲八門)

計歩兵三大隊ト一中隊(砲八門及工

鐵道線路ヨリ山嘴ニ至ル迄ノ陣地ヲ  
占領スヘシ

山嘴ヨリ右翼ノ堡壘ニ至ル迄ノ陣地  
ヲ占領スヘシ

兵一中隊半

右翼前進地區隊

指揮官バチンスキー大佐

東狙兵第三十六聯隊ノ一大隊

乘馬獵兵一隊

總豫備隊

指揮官グラスコ少將

步兵第三十五師團ノ第二旅團(八大隊)

李家店附近ニ位置スヘシ

砲兵第三十五旅團ノ二中隊(砲十六門)

四、左翼警戒ノ爲メ左翼地區隊指揮官ハ騎兵監視哨ヲ廟兒嶺孫家屯ノ東方廟溝

山ニ進メ且ツ歩兵二中隊ヲ以テ曲家屯附近道路ノ交叉點ヲ占領スヘシ

五、シモノフ中將ハ右翼ヲ監視シ復州附近ニ於ケル監視哨ト連絡ヲ保ツヘシ

六、萬家嶺停車場ニ配置セラレタル東部西伯利遊動砲廠第二旅團ハ特命アル迄

前進ノ準備ニ在ルヘシ

七、綳帶所ハ地區隊指揮官ノ命ニ依リ開設スヘシ赤十字「マツヤ、ヒヨードロフナ」

皇后遊動班ハ東狙兵第九旅團ニ屬シ又「フレイマン」遊動班ハ萬家嶺停車場ニ

位置スヘシ

八、第二輜重ハ午前三時宿營地ヲ發シ萬家嶺停車場ニ向ヒ前進スヘシ各師團長

各旅團長ハ各行李ニ對シ掩護隊ヲ附スヘシ

九、諸報告ハ老燒鍋ニ送ルヘシ

十、後繼者ハシモノフ中將及ゲルングロス少將トス

十一、陣地ニ於テ露營シ且ツ炊爨スヘシ

當時軍團ノ參謀長ハイワノフ少將ニシテ得利寺ニ在リシニ拘ラス此命令ニハ參

謀長代理グルコ大佐署名シタルハ注意スヘキ事項ナリ當時軍團ノ不成功ニ終ルヘ

署名ヲ豫知シ責任ヲ免カレンカ爲メ

發令當夜  
未著部隊

此命令ヲ發シタル當夜左ノ部隊ハ未タ來著セザリキ

東狙兵第九師團第三十三聯隊ノ第一大隊

大石橋

同 第三十四聯隊

途中ニ在リ

第五篇 得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ行動 三 得利寺戰團



同 第三十五聯隊

波其塞

同 砲兵第九旅團ノ第二中隊

營口

(二) 得利寺戰團

甲 六月十四日ノ戰團附圖第七參照

日本軍ノ  
攻撃開始

午前六時頃敵ハ瓦房店停車場ヲ經テ露ノ騎兵支隊ニ向ヒ攻撃シ來レリシモノフ  
中將ハ其陣地ヲ撤退シ步兵一大隊砲二門ヲ以テ祝家屯北方ニ新タナル陣地ヲ占  
領セシメ殘餘ヲ曲家屯ニ向ヒ退却セシメタリ是時前記軍團命令ニ接シルトコフ  
スキー少將ノ許ニ步兵ヲ還附シ躬ヲ騎兵ノミヲ率テ大房身西方ニ到レリ  
之ニ因リ十時頃日本軍ハ抵抗ヲ受ケスシテ祝家屯ヲ占領シ露軍ノ陣地前三露里  
ノ地ヨリ露軍ヲ瞰制スルノ便ヲ得タリ

シモノフ中將カ軍團命令ニ基キゲルングロス少將ノ許ニ送附セシ騎兵三中隊ハ  
途中軍團司令部員ノ使用スル所ト爲リ遂ニ左翼地區ニ到着セス爲ニ左翼地區ノ  
警戒ニ甚タ不便ヲ生シタリ露軍ニハ電信材料ヲ有ケス

是日騎兵支隊ハ大房身西方ノ高地ニ於テ騎砲兵第二中隊ヲ以テ二個處ニ在ル日

本砲兵ト砲戰ヲ交ヘシカ日本軍ハ砲兵ヲ榴霰彈射程外ニ移シ榴霰彈ヲ以テ露ノ騎  
砲兵ノ側面ヲ射撃セリ

夜ニ至リシモノフ支隊ハ龍口北方ニ露營セリ

左翼地區  
ノ占領

是ヨリ先キ東狙兵第一師團ハ軍團命令ニ基キ正午迄ニ陣地ニ就ケリ即チ左翼地  
區ニ於テハ初メ東狙兵第三聯隊ノミ老燒鍋南方高地ニ位置シ同第四聯隊ハ後方  
ニ在リテ豫備隊タリシカ午前十時頃前衛ノ來リテ地區ニ加ハルヤ該聯隊ハ第三  
聯隊ノ右方高地ニ就ケリ是時シモノフ支隊ハ大房身西方ニ達シタリ

同地區ノ  
砲戰

午後一時頃日本軍ノ前衛曲家屯北方ノ高地ニ展開ヲ始メタリゲルングロス少將  
ハ老燒鍋南方ノ砲兵未タ占領セサル肩墻ノ附近ニ在リテ此敵情ヲ望見セリ砲兵  
中隊長ノ一人ハ蔭蔽シテ布列シツ、在ル日本砲兵ニ向ヒ發射センコトヲ請ヒシ  
カ少將之ヲ容レサリキ一時十五分日本軍砲兵既ニ射撃ヲ開始シタル後ニ至リ始  
メテ砲兵第二第三第四中隊ハ發射ノ命令ヲ得タリ是時砲兵第一中隊ハ東狙兵第  
一旅團ト共ニ豫備隊タリ

砲兵第四中隊ノ全砲門其右方ニ在ル第二中隊ノ七門ハ高地ノ頂上ナル肩墻ニ進

入シ第二中隊ノ砲一門及第三中隊ノ砲一門放列ノ右翼天然ノ頂界線ノ後方ニ留マリ間接射撃ヲ行ハントセリ砲兵司令官ハ此配備ヲ不利ト既ニシテ第二中隊ハ試射ヲ爲シ後兩翼中隊モ亦日本砲兵ニ向ヒ發射セリ是時ゲルングロス少將榴霰彈ノ爲メ頸ニ負傷セシモ尙ホ指揮ヲ繼續セリ其後約十分ヲ經テ日本砲十二門ハ射撃ヲ中止シ砲ヲ遺シテ砲手ノ隱匿スルヲ認メタリ因テ露軍砲兵モ亦砲撃ヲ止メタリ須臾ニシテ日本砲兵三三中隊ハ曲家屯チユイキヤートンノ西方ニ布列シテ發火セリ是時前ノ砲兵二中隊ハ前車ヲ連結シ陣地變換ヲ試ミシトセシモ露軍ノ砲撃ニ因リ之ヲ果サ、リキ斯克テ日本砲三十門ハ露ノ砲二十四門ト砲戰ヲ交ユルコト一時間ニ及ヒシモ効力現ハレス破裂高概ニ高キニ失シ中ニハ破裂セサルモノ有リ唯一榴霰彈ハ露ノ放列ノ後方約百乃至百五十歩ニ位置セル第二中隊ノ駕馬ニ命中シ一名ノ下士死シ一名ノ兵卒三頭ノ馬匹負傷セリ之ニ因リ前車ハ更ニ安全ナル地ニ退ケラレタリ

日本軍ノ前進

午後二時頃上瓦房窩堡南方ノ高地ニ砲兵一中隊ヲ有スル日本歩兵廣ク展開シツ、現出シ露ノ陣地ノ左翼ニ迂回スルノ狀アリゲルングロス少將乃チ此迂回ニ對

抗センカ爲メ豫備ニ在リシ東狙兵第一聯隊ヲ上瓦房窩堡西方高地ニ派遣シ尙ホ日本軍ヲ擊破スルノ目的ヲ以テ豫備ノ殘餘タル同第二聯隊ヲ同方向ニ派遣セリ然ルニ日本軍ハ第一聯隊ニ向ヒ攻撃シ來リ此聯隊ニ十四名ノ將校内聯隊長ヲ及副官ハ榴霰彈約百五十名ノ下士卒ヲ失ハシメシカ第二聯隊ノ進出スルヲ見ルニ中リ戦死セリヤ上瓦房窩堡南方高地ニ退却セリ此頃于家屯チユイキヤートン南方高地ニモ亦日本歩兵部隊現ハレ其西方斜面ニモ砲兵一中隊現出シテ停止セリシタケリベルグ中將ハ午後三時頃東狙兵第一師團ノ許ニ到リ親シクゲルングロス少將ヨリ日本軍ノ攻撃ノ擊退セラレタルコト豫備隊ノ派遣最早必要無キ旨ノ報告ヲ得テ得利寺ニ歸レリ

砲戰ノ再興

四時頃ニ至リ優勢ナル日本砲兵ハ曲家屯チユイキヤートン西南方ニ布列シ露ノ砲兵三三中隊殊ニ認識シ易キ第四中隊ニ砲火ヲ集注セリ之カ爲メ第四中隊ニ於テハ多數ノ死傷者ヲ生シ中隊長傷キ第二中隊ノ一將校指揮ヲ執リ遂ニ沈黙スルノ已ムヲ得サルニ至レリ第二第三中隊ハ此間依然射撃ヲ繼續シ殊ニ蔭蔽陣地ニ在リシ第三中隊ハ損害無カリキ斯克テ兩軍ノ砲戰ハ午後七時頃夜暗ニ入ルト共ニ中止セリ砲兵諸中隊ニ於テア五十名

中央地區ノ戰況

又午後五時ニ至リ日本軍ハ中央地區ニ對シ前方ニ連亘セル高地ノ頂界ニ現出セシモ砲兵第九旅團ノ第一及第三中隊交互ニ數回射撃セシカハ日本軍ハ退却セリ但シ幾モ無ク此方面ニ方リ砂塵飛揚シ日本砲兵ノ運動徵候アルヲ認メタルモ是日遂ニ現出セサリキ

是夜露軍諸中隊ハ到着セル遊動砲廠旅團ヨリ彈藥ヲ補充セリ唯、第四中隊ハ砲手ヲ補充スル能ハス已ヲ得ス馭者露軍ノ砲手ハ馭者トヲ以テ之ニ充テタリ

露軍ノ損害日本軍情況判斷

全陣地ニ於ケル是日ノ戰團ハ終結シ將校二十三名下士卒三百十一人ノ死傷アリ是日日本軍ノ攻撃ハ擊退セラレ爲ニ露軍ノ志氣振ヒ勝利ノ容易ナルヲ思惟シシタケリベルグ中將ハ是夕露帝ニ電奏スルニ日本軍ノ攻撃ヲ既ニ防止シタル旨ヲ以テセリ而シテ中將ノ判斷ハ敵ノ兵力僅ニ二師團ニ過キス即チ上瓦房窩堡ニ對スルモノ歩兵二旅團中央ニ對スルモノ一旅團ニシテ袁家溝方面ヨリ進ミタルモノ一旅團合計二十四大隊ニ過キス然ルニ露軍ノ陣地ニ在ルモノ二十七大隊途中ニ在ルモノ五大隊計三十二大隊アルヲ以テ優ニ勝利ヲ得ヘシト思惟セリ而シテ復州方面ニ向ヒシ日本第四師團ニ關シテハ毫モ情報ニ接セサリキ

シタケリベルグ中將ハ敵ノ右翼ニ向ヒ攻勢ニ轉セント決心セリ是レ軍司令官ノ希望セシ所ニシテ殊ニ好機ニ乘シ夜襲スヘキ要求スラ有リタレハナリ其攻撃計畫ハ午後四時左ノ如ク決定セリ

此判斷ニ基キシタケリベルグ中將ハ敵ノ右翼ニ向ヒ攻勢ニ轉セント決心セリ是レ軍司令官ノ希望セシ所ニシテ殊ニ好機ニ乘シ夜襲スヘキ要求スラ有リタレハナリ其攻撃計畫ハ午後四時左ノ如ク決定セリ

東狙兵第一師團ノ三聯隊第一、第二、第三及グラスコ少將旅團第三十五師團第二旅團并ニ東狙兵第三十四聯隊ハゲルングロス少將ノ指揮ヲ以テ敵ヲ攻撃ス

爾餘ノ部隊即チ東狙兵第四聯隊ハ砲兵第一旅團ノ第三、第四中隊ト共ニ其右方ニ在ル諸部隊ヲ併セムロゾフスキ少將ノ指揮ニ屬シ陣地ニ在リテ攻撃部隊ヲ援助ス

攻撃開始ノ時刻ハゲルングロス少將ニ委シグラスコ少將ト協議シテ定ムヘキコトヲ命ス

然ルニ此部署ニ關スル命令軍團參謀長イブノフ少將ハ此攻撃案ニ同意セス命ニゲルングロス及ムロゾフスキ少將ニノミ下サレタルカ如シ但シグラスコ少將ニハ上崔家屯ニ前進シテ敵ノ迂回ニ對シゲルングロス少將ノ左翼ヲ安全ニスヘキ命令ヲ與ヘタリ旅團ニ到リ四時三十分頃口演セリ次テ午後六時通報ヲ與

ヘテ曰ク貴官ノ増援トシテ歩兵第三十四聯隊ノ二大隊ヲ派遣ス貴官ノ任務ハゲ  
ルングロス少將ト協議シ同少將ニ對シ瓦房窩堡附近ニ行動スル敵ノ側面ヲ攻撃  
スルニ在リ若シ退却ノ必要アルニ至レハ先ツ後茶條房ニ向ヒ退キ次テ萬家嶺方  
向ニ退却スヘシト此ノ如ク各隊各別ニ命令ヲ下シ全般ノ情況ヲ知ラシメヌ爲ニ  
各隊ハ任意ニ行動セサルヲ得サルニ至レリト云フ

旅團ノ行  
動

步兵第三十五師團第二旅團長、ケラスハ四時三十分ノ命令ニ基キ其砲兵二中隊ト  
共ニ得利寺ヲ發シテ上崔家屯ニ到リゲルングロス少將隊ノ左翼ヲ安全ニセンカ  
爲メ歩兵第三百三十九聯隊ノ一大隊、砲四門ヲ小陳家屯ト大陳家屯間ノ峠ヲ占領セ  
シメ同聯隊及第四百四十聯隊ノ各一大隊并ニ砲四門ヲシテ上瓦房窩堡ニ通スル豁  
谷ヲ占領シ前面ノ敵ニ向ヒ威力偵察ヲ爲シ且ツ東狙兵第一師團トノ連絡ヲ保タ  
シメ殘餘ノ歩兵五大隊ト砲八門ハ上崔家屯附近ニ在リテ豫備タリ此上瓦房窩堡  
ニ向ヒタル支隊ハ楊家溝ニ到リ其砲兵半中隊ハ其西方高地ニ布列シ上瓦房窩堡  
東南高嶺ニ在ル日本山砲及同村南方ノ日本歩兵ヲ射撃セリ日没ト共ニ全正面ノ  
戰鬪熄ミ諸隊ハ現在地ニ宿營セリ

支隊ヘノ  
偵察命令

午後八時頃軍團長ハシモノフ中將ヨリ騎兵ハ既ニ金斗房ヲ出發セリトノ報告ニ  
接シ此騎兵支隊ニ命スルニ速ニ前進シテ八張碾子曲家屯方面ニ於ケル敵ノ背後  
及側面ニ向ヒ強行偵察スヘキヲ以テセリ而シテ軍團長ハムロゾフスキ少將ノ  
陣地方面ニハ何等ノ衝突起ラサルヘシト確信シ在リ是夜到著シタル東狙兵第九  
師團長コンドラトウキチ少  
將ニモ此事加之各縱隊好時機ニ出發スヘシト倣シ攻撃ノ成功ニ疑ヲ容レヌ且ツ  
新タニ到著シタルコンドラトウキチ少將ノ部隊ニハ深ク留意セス又敵ノ配備ヲ  
モ偵察スルニ勉メサリキ

防禦部隊  
ノ陣地占  
領命令

是日營口ヨリ到著シタルムロゾフスキ少將砲兵第九  
旅團長ハ防禦陣地指揮官ニ任セ  
ラレ左ノ要旨ノ命令ヲ發セリ

一 陣地ハ十五日午前三時半迄ニ左ノ如ク占領スヘシ

左 地區 指揮官東狙兵第一師團第四聯隊長  
東狙兵第一師團第四聯隊

東狙砲兵第一旅團ノ第三第四中隊(砲十六門)

指揮官大佐リソフスキ

十三日夜ノ軍團

右翼地區

東狙兵第三十三聯隊ノ一大隊ト一中隊  
東狙砲兵第九旅團第四中隊(砲八門)

命令ニ依リ指定

セラレタル諸陣

地ヲ占領スヘシ

中央地區

東狙兵第三十三聯隊ノ三中  
東狙砲兵第九旅團ノ第一、第三中隊(砲十六門)

右翼前進地區

指揮官大佐バチンスキー  
東狙兵第三十六聯隊ノ一大隊

李家店附近ニ位

總豫備隊

指揮官少將クラウゼ  
東狙兵第三十六聯隊ノ二大隊

置スヘシ

二、バチンスキー大佐ハ右翼監視ノ爲メ其聯隊所屬ノ獵兵隊ヲ進メ我騎兵ト連絡ヲ保チ且ツ龍口ニ向ヒ斥候ヲ出スヘシ

三、東狙兵第一師團第四聯隊長ハ左翼監視ノ爲メ獵兵隊ヲ進メ同師團爾餘ノ各聯隊及歩兵第三十五師團ノ各聯隊ト連絡ヲ保ツヘシ

四、鐵道線ヨリ大房身ニ至ル間ノ監視線ハ第三十三、第三十六兩聯隊長ヨリ之ヲ

出スヘシ又第四聯隊長ハ自己ノ配置ニ準シテ監視線部隊ヲ出スヘシ監視線

ノ指揮官ハ第三十三聯隊中佐カロブチエフスキートス

五、午前四時迄ニ第四、第三十三及第三十六聯隊ヨリ各將校一名ノ傳令使ヲ予ノ

司令部ニ差遣スヘシ

(右ノ外)リヂヤンコ遊動班ノ現在地ニ殘留スヘキコト、最緊要ナルモノ、外輻重ハ萬家嶺ニ派遣スヘキコト、報告ヲ總豫備隊ノ位置ニ送ルヘキコト、後繼者ハクラウゼ少將及バチンスキー大佐ナルコトヲ含メリ)

其他ムロゾフスキ少將ハ左ノ處置ヲ爲セリ

一、我左翼攻撃ニ關スル軍團長ノ命令ヲ熟知セシメンカ爲メ各聯隊長ヲ召集セ

二、敵ト近接シ在ルヲ以テ當直部隊ヲ各陣地ニ置キ燈火ハ一定ノ場所ニ限リ蔭

蔽シテ使用スルノ外之ヲ禁ス

三、第三十六聯隊ノ獵兵隊ヲシテ敵ノ配置ヲ搜索セシム

四、ダレングロス少將及シモノフ中將トノ連絡ヲ保タシム

兵隊ハ其所在ヲ發見セ  
ス目的ヲ達セザリキ

五、彈藥補充ノ爲メ萬家嶺ヨリ遊動砲廠ノ派遣ヲ請求セシモ其來著遅キ爲メ東  
狙砲兵第九旅團ノ各中隊ヨリ同第一旅團ノ二中隊ニ對シ砲一門ニ付百五十  
發宛ノ彈藥ヲ分與セシム

是夜ハ平穩ニ經過セシカ午前一時三十分頃監視線前方ニ小衝突アリシタケリベ  
ルグ中將ハ此銃聲ヲ聞キ各歩兵部隊長ニ命シ部隊ヲ巡視シ靜謐ヲ保タシメタリ  
此射撃ハ露ノ監視兵カ日本軍ノ陣地ニ稍喧噪ノ聲ヲ聞キ敵ノ侵入ノ徵ト誤認シ  
之ヲ開キタルナリ

東狙兵第三十四聯隊ハ是日得利寺停車場ニ到着シ之ニ續キ同第三十五聯隊ノ第  
一中隊ハ夜十二時ニ第二中隊ハ翌十五日午前八時到着シタリ  
第三十五聯隊ノ殘  
餘及東狙砲兵第九  
旅團ノ第二中隊モ續  
テ到着セリト云フ

乙 六月十五日ノ戰團附圖第八參照

イ、東部地區

攻撃部隊

黎明前運動ヲ起シ攻撃ヲ實施スヘキ任務ヲ受ケタルゲルングロス少將ハ昨夜

備ノ前進準備

リ諸隊ヲ次ノ如ク區分セリ即チ老燒鍋南方ノ高地ニハ防禦部隊トシテムロゾフ  
スキー少將ノ指揮下ニ入ルヘキ東狙兵第四聯隊ノ三大隊及砲兵第一旅團第三、第  
四中隊ヲ配置シト砲兵九中隊ハ第一線ト成リ内二中隊ハ鐵道ニ沿ヒ、三中隊ハ鐵道  
方ニ在リ別ニ歩兵二中隊ヲ地區豫備隊ト爲シ一中隊ヲ輻重ノ護衛ニ任  
セリ砲兵第三中隊ハ舊陣地ニ、同第四中隊ハ同第二中隊ノ陣地ニ就ケリ砲兵第二  
中隊ヲハ後方ニ撤退セシメ十四日豫備ニ在リシ第一中隊ト共ニ之ヲグラスコ旅  
團ニ屬セシメタリ而シテ歩兵ノ首力東狙兵第一、第二、第八、九大隊ハ攻撃準備ヲ整ヘルトコ  
フスキー少將ノ指揮ニ屬シテ陣地ノ左翼ニ位置シ第二、第三聯隊ヲ第一線ニ併列  
シ第一聯隊ヲ第二線トシ中央後ニ置ケリ

攻撃實行ノ實際

此ノ如ク出發ノ準備ヲ整ヘグラスコ少將ノ指揮下部隊歩兵九大隊、哥羅兵一ノ到  
著ヲ待チ拂曉ニ至リシモ到着セザリキ是ヨリ先キ昨夕八時十五分ゲルングロス  
少將ハ其許ニ來著セルグラスコ少將ノ副官ニ通報ヲ與ヘテ曰ク予ハ瓦房窩堡ワラフウカウ子  
家屯間ノ徑路ニ在リ軍團長若シ拂曉ヲ以テ攻撃ヲ開始セント欲セハ希望ノ如ク  
之ヲ行フヲ得ヘント蓋シゲルングロス少將ハ既ニ拂曉前進ヲ起スヘキ旨ノ報告  
ヲ軍團司令部ニ呈出セシニ依リ同司令部ニ於テ之ヲ認可セハグラスコ少將ニ何

等カ命令セラルヘキヲ信シ在リタルナリ然ルニグラスコ少將ハ全般ノ狀況ヲ知ラス軍團司令部ヨリ何等ノ通報ヲ受ケス是夜依然舊位置ニ殘留セリ將ハ二傳令ヲ軍團司令部ニ送り十五日ニ關カスル命令ヲ請ヒシモ唯獵兵隊ヲ以テ敵ヲ拂曉迄驅カスヘキ訓令ヲ得タルノミ而カモ此事ハ既ニ實行セラルベト云フニダリト云フニダリ是レ其ニゲルングロス少將ハ再三通牒ヲ送リテグラスコ少將ノ出發ヲ促シタリ是レ其砲兵ヲ得サレハ砲戰ヲ開始スルヲ得サレハナリ午前八時頃ニ至リ始テグラスコ少將ノ報告到著シ六時四十分上崔家屯ヲ出發シ瓦房窩堡ニ向フコトヲ知レリ是ニ於テ第一師團ノ諸隊ハグラスコ少將部隊ノ來著遠カラサルヲ察シ前進攻撃ニ移レリ

日本軍ノ砲撃開始

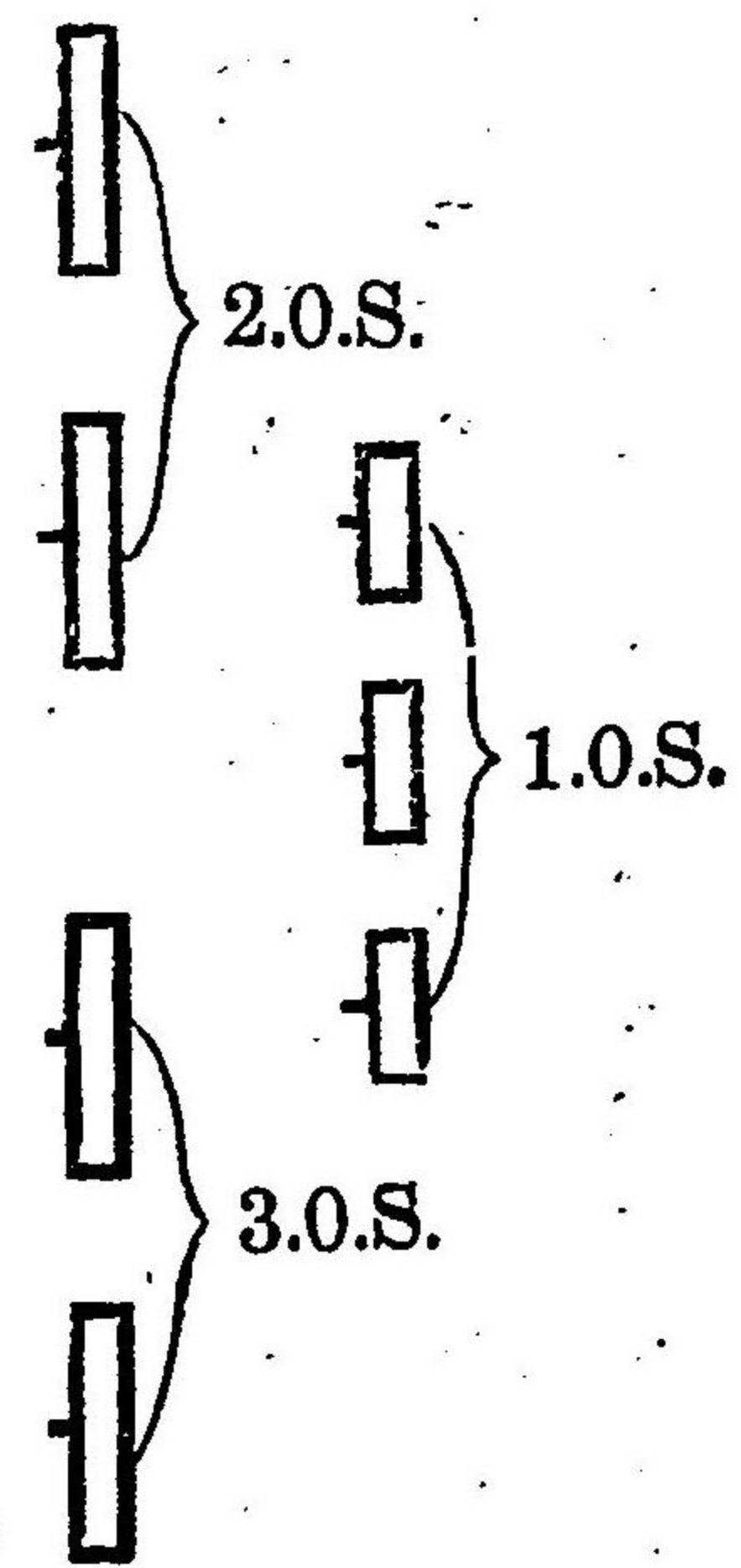
是ヨリ先キ午前五時日本軍ハ復州河ト鐵道ノ間ニ介立スル高地ノ背後即チ八張碾子附近ヨリ砲十二門ヲ以テ砲兵第一旅團ノ各中隊ニ向ヒ砲撃ヲ開始セリ露軍ノ陣地ハ昨日ト異ナラサルニ因リ試射ヲ要セス最初ヨリ一齊ニ榴霰彈射ヲ行ヒ露軍砲兵ヲ撲滅センコトヲ勉メ同時ニ日本歩兵ノ大部隊ハ高地ノ北方斜面ニ現出シ漸次西部地區ニ向ヒ攻撃セリ

爆發シ人馬ノ死傷モ亦少カラス爲ニ火戰漸次衰退セリ日本砲兵ハ此威力ノ減少ヲ見一部ノ砲ヲ以テ此東部地區ノ砲兵ニ對セシメ他ハ西部地區ノ露軍砲兵ニ向ヒ猛射セリ

攻撃部隊ノ前進

是時ニ方リ軍團長ノ馬車一輛哥騎兵ノ護衛ヲ以テ得利寺停車場附近ノ道路ニ來リシカ其飛塵日本砲兵ノ注目ヲ惹キ爲ニ砲撃ヲ受ケ馬車ハ高地ノ背後ニ隱匿セリ東狙兵第一師團第四聯隊欠ノ前進攻撃ハ此頃開始セラレ昨夜ヨリ準備セル隊形ノ儘即チ第二第三聯隊ハ第一線ト爲リ第一聯隊之ニ繼ケリ其運動開始ノ時ニ於ケル隊形ハ左圖ノ如ク前線ニ在リテ射撃ニ使用セラレタルハ九大隊中二大隊ニ過キス他ノ七大隊ハ第二第三線ニ在リテ之ニ跟隨シ各大隊ハ狹小ナル間隔ノ縱隊横隊ヲ爲セリ而カモ其左翼ハ日本軍ノ高地ニ向ヒ廣濶ナル谷地ヲ通過シ三千米ノ距離ヨリ日本砲兵ノ射撃ヲ受ケシト露ノ砲兵既ニ砲戰ニ因リ沈黙セシメラレ僅ニ大拉子山西南方ナル山砲六門ノ援助ノミヲ受ケシヲ以テ前進頗ル困難ナリ是ニ於テ數多ノ小隊同時ノ躍進困難ト爲リ更ニ小ナル集團及各個兵ヲ以テ或ハ匍匐シ或ハ躍進スルノ已ムヲ得サルニ至リ大隊及聯隊ノ豫備隊ハ忽ニシテ使

用セラレ日本軍ノ陣地前約九百米ニ達シ得タルニ過キス爾後東狙兵第一聯隊ノ使用セラル、ヤ第一線ハ稍蔭蔽セル地域ニ前進シ個々ノ部隊ハ日本軍散兵壕ノ前方ニ接近シ就中左翼ハ銃剣ヲ以テ突入ヲ試ミタリ然レトモ十時頃ニ至リ第一線ハ死角内ニ進入シ石ヲ投シ得ルノ近距離ニ達シタルニ拘ラス停止シテ茲ニグラスコ旅團ノ進出ヲ待ツコト切ナルニ至レリ



少將攻撃前線ノ部署

是ヨリ先キ歩兵第三十五師團第二旅團長グラスコ少將ハ昨夜中ニ歩兵一大隊、三十四聯隊砲兵二中隊ノ増援ヲ受ケシモ十五日ノ爲メ決定セル命令ヲ受ケサリシト是朝五時ヨリ砲聲起リシニ因リ部下隊長ヲ集メテ意見ヲ徵シ遂ニ攻撃前進ニ決シ左ノ部署ヲ取レリ時四十分

小陳家屯、大陳家屯間ノ時ニ駐屯セル一大隊ハ二大隊ニ増員シテ大陳家屯上瓦房窩堡ノ線ニ向ヒ前進ス

楊家溝附近ノ一支隊ハ三大隊ニ増員シベトロフ大佐ノ指揮ヲ以テ上瓦房窩堡ニ向ヒ前進ス

總豫備隊三大隊ハベトロフ大佐支隊ニ續行ス

軍團長退却ノ願慮

此運動ヲ開始セル頃ゲルングロス少將ヨリ前進攻撃スヘシ予ハ山上ヨリ掩護セシトノ通報アリ次テ軍團司令部ヨリ左ノ命令到著セリ

敵若シ優勢ノ兵力ヲ以テ陣地ノ中央若クハ他ノ方面ヲ攻撃セハ第一軍團ハ徐々ニ萬家嶺ニ退却スヘシグラスコ少將支隊ハ此ノ如キ時機ニ際セハ同軍團ヲシテ上崔家屯ヨリ得利寺ヲ經テ北方ニ退却シ得セシメンカ爲メ成ルヘク長ク

上崔家屯、郭家屯線ヲ固守スヘシ各支隊ハ互ニ連絡ヲ保ツヘシ

次テ又軍團長ノ命令アリ曰ク敵若シ退却セハ各支隊ハ更ニ特別命令ニ接スル迄ハ依然自己ノ陣地ニ停止スヘシト蓋シ此ノ如ク軍團長ノ退却ニ願慮シタルハ昨日ノ斷然タル攻撃ノ決心ニ動搖ヲ生シ時トシテ日本軍ノ優勢ナルヲ懸念シタル



ニ因ルモノ、如シ

却  
旅團ノ退

午前七時頃ニ至リペトロフ大佐支隊ハ日本軍ト衝突セリ即チ日本軍ハ高地ノ頂界線ヲ占領シテ支隊ノ側面ヲ砲撃シ前進ヲ困難ナラシメタリ既ニシテ左翼ヨリ報告アリ砲兵若干ヲ有スル敵ノ騎兵數中隊ハ少數ノ歩兵部隊ヲ伴ヒ周家屯方面ヨリ我ヲ包圍シツ、在リト次テ最終ノ軍團命令アリ曰ク攻撃ヲ除クノ外其他ハ總テ自由ノ動作ヲ取ルヘシト乃チグラスコ少將ハ日本軍ノ其左側ニ現出シタルヲ以テ退却ニ關スル軍團命令ノ時機ニ達シタルト思惟セシカ八時三十分頃ニハ首力ヲ率テ上崔家屯郭家屯ノ線ニ退却シタルニ然十時ニ至リ參謀部附ザボリスキ一少將大佐來リ攻撃スヘキ決定的軍團命令ヲ齎セリ九時軍團司令部ハ命ヲ傳ヘ是ニ於テ斷然攻撃ノ爲メ前進ニ移リベルフイリエフ中佐ニ步兵三大隊、砲兵一中隊ヲ附シ陳家屯ヲ經テ前進セシメ少將躬ヲ步兵六大隊、砲兵三中隊ヲ率キ上瓦房窩堡ニ向ヒ前進セリ

此ノ如ク東部地區ニ於テハ狀況變化セスシテ十時ニ至レリ

ロ、西部地區

同旅團ノ  
再進

午前六時  
頃ニ至ル  
情況

西部地區ニ於テハ是ヨリ先キ昨夜強行偵察ヲ行フヘキ命令ヲ受ケタルシモノノ中將ノ騎兵支隊ハ前進路上ニ日本ノ歩砲兵充塞シ在リテ通過スルヲ得ス而シテ十四日夜中將ハ病氣ノ故ヲ以テ支隊ノ指揮ヲサムソノ少將ニ讓リタリ此騎兵部隊ハ龍口ト大房身間ノ高地ヲ占領シ露ノ陣地前ヲ掩護シタリ其後方ムロゾフスキ一少將ノ防禦陣地ニ於テハ昨夜ノ命令ノ如ク諸隊陣地ニ就キシカ午前五時既記ノ如ク其左翼ニ於テ砲戰起レリ午前六時コンドラトウキチ少將ハ山嘴附近ノ山頂ニ來リムロゾフスキ一少將ニ代リ防禦陣地ノ指揮ヲ執レリ未タ地形ヲ以テ十一時迄ムロゾフスキ一少將ヲ此ニ留メテ其指示ヲ受ケタリコンドラトウキチ少將ハ是朝微傷ヲ負ヒシモ指揮ヲ繼續セリ

中央及右翼地區ノ砲兵各中隊ハ東狙砲兵第一旅團ノ砲戰ニ參與スルコト能ハナリキ是レ其方面ニ對シ適當ノ射界ヲ有セサレハナリ砲兵ハ概テ稀薄ナル樹木ニ依リ蔭蔽セラレタル凹地ノ壕内ニ配置セラレ其左方ハ鐵道線路前方ハ圓錐形山ニ限ラレ僅ニ于家屯ニ至ル迄ノ鐵道線路ト大房身トノ間ノ谷地ヲ射撃シ得タルノミ

日本軍ノ  
攻撃前進

日本歩兵ハ大房身龍口間ニ連亘セル高地ヨリ二露里ノ地ニ在ル森林端ヲ占領シ

該高地ニ在ル露軍ノ騎兵ニ對シ射撃ヲ開始シ約一時間半ヲ經テ即チ六時三十分ヨリ步兵一師團許ト砲兵ヲ以テ大房身龍口間ノ地區ニ向ヒ攻撃シ來レリ是ニ於テ露軍騎兵部隊ハ此高地ヲ棄テ退却セリ日本軍ハ之ニ乘シテ一部隊ヲ龍口ヲ經テ露軍陣地ノ右側面ニ進出セシメタリ

此間中央及右翼地區ノ砲兵ハ目標ヲ得テムロゾフスキ少將ノ指揮ヲ以テ射撃ヲ開始セシカ日本軍砲兵ハ深ク山頂ノ背後ニ隱匿シ發射ノ閃光スラ之ヲ認ムルヲ得ス射撃甚タ困難ヲ感セリ七時頃砲戰熾盛ナリシカ當時日本砲兵ハ數個ノ集團ト爲リ一定ノ目標ニ對シ各集團ヲシテ砲火ヲ集注セシメタリ即チ東狙砲兵第一旅團ノ二中隊ニ對スルモノ、同第九旅團ノ第三及第一中隊ニ對スルモノ及同旅團ノ第四中隊ニ對スルモノ是ナリ加之日本砲兵ハ更ニ露ノ第一線ノ後方ヲ砲撃セリ七時過日本軍ノ據リタル高地ニ赤十字旗ノ如キモノ樹立セラレ砲兵ハ露軍射之ニ應

當時砲兵第一旅團ノ第三、第四中隊ハ最モ榴霰彈火ヲ被ムリ損害比較的大ナリ露軍砲兵ハ日本砲兵ノ射撃ニ因リ發揚スル砂塵ノ方向ニ向ヒ射撃シ以テ自己ノ方

面ニ敵ノ砲火ヲ誘致セリ

日本軍ノ迂回

七時十分コンドラトウキチ少將ハ東狙兵第三十四聯隊ノ副官ノ言ニ據リ敵軍ノ龍口方面ニ迂回ノ狀アルヲ知リ之ヲ電話ニテ軍團長ニ報告セリ次テ七時十五分大尉ヲバチンスキー大佐ニ遣シ敵ノ行進方面ニ應シテ大佐部隊ノ正面ヲ變更シ成ルヘク其地ヲ固守シ敵ノ兵力ト行進方向ヲ探知スヘキヲ命セリ

同大佐ハ是ヨリ先キ高地上ニ陣地ヲ占領セントシツ、在ル際日本歩兵ノ現出スルヲ認メ而カモ高地ノ背後ヨリ日本山砲ノ射撃ヲ受ケ陣地ノ占領困難ナルニ至レリ是時日本歩兵ハ既ニ金斗房東方ノ高地間ニ現出シ其先頭ハ大房身附近ト金斗房間ニ在ル高地ヨリ龍口ニ行進セントシツ、在リ大佐ハ背射セラル、ノ困難ヲ冒シ辛ウシテ西方龍口ニ對シ陣地ヲ占領シ四中隊ヲ悉ク展開シ敵火ノ下ニ散兵壕ヲ掘開セリ日本軍ハ山砲八門ヲ布列シタル後チ歩兵三聯隊以上ノ兵力ヲ以テ龍口北方ニ迂回シタリ次テ此地ヨリ直ニ東方ニ向ヒ攻撃ヲ行ヒ其一部約一聯隊ノ歩兵ハ尙ホ遠ク北方ニ向ヒ行進セリ

サムソノ

露ノ騎兵部隊ハ最初バチンスキー部隊ノ右翼ヲ掩護セシモ日本軍ヨリ射撃ヲ受

騎兵支隊ノ退却

クルヤ退却セリ是ニ於テ右翼ニ在リシ第五中隊ノ側面暴露セリ是時大佐ハ步兵第五第七兩中隊ニ命シ北方ニ進出シテ敵ノ側面ヲ攻撃セシメタリ是ニ於テ大隊ハ二中隊毎ニ兩分セラレタリ日本軍砲兵ハ大房身東南高地大房身及龍口ノ三方面ヨリ大隊ニ向ヒ射撃ヲ集注セリ

時ニ大佐ハコンドラトウキチ少將ヨリ通報ニ接シ増援トシテ東狙兵第三十六聯隊ノ二中隊ヲ大佐ノ北方ニ進出セシメ日本迂回兵ノ側面ニ向ハシメタルヲ知レリ次テ又軍團司令部ヨリ右翼ニ向ヒ東狙兵第三十四及第三十五聯隊派遣ノ通報アリシモ此等増援隊ハ皆高キ圓錐形山ノ背後ニ在リテ進出セサリシカハ大隊ハ終始孤立ノ地ニ立テリ

是ヨリ先キ六時既ニ軍團長ハ騎兵部隊ヨリノ報告ニ接シ優勢ナル日本軍ノ龍口大房身間ニ對シ攻撃シ來ルヲ知リシモ依然前計畫ヲ遂行セシメ唯東狙兵第三十四聯隊ノ二大隊一大隊ハ命令ニ從ヒ將ニ留セリヲ西方ニ向テ日本軍迂回隊ノ側面ニ縱チタリ第三十四聯隊ノ一大隊ハケス少將ノ指揮ニ入レリ

右翼前進地區隊ノ

斯クテ孤立セル東狙兵第三十六聯隊第二大隊ノ二集團ハ最初互ニ四五百步離レ

退却

タルカ敵ヨリ包圍セラレ各其方面ヨリ敵ノ側面ヲ攻撃センカ爲メ兩圍益々離隔スルニ至レリ兩團ハ攀登シ來ル日本兵ニ對シ頑強ニ抵抗セシモ彼我ノ兵力固ヨリ懸隔シ且ツ各中隊ハ減シテ約四十伍ト爲リシヲ以テ遂ニ東狙兵第三十三聯隊ノ陣地ニ向ヒ退却セリ大隊ハ此退却中更ニ分レテ三集團ト爲リ二峽谷ヲ越エ第三十三聯隊陣地ノ左翼ニ投シタリ大隊ノ殘部ハ第三十三聯隊ニ合併シバチンスキ關終ノ後第五第七中隊ハ第三十三聯隊ニ合併セリ又殘部中大部ハ散亂シ戰聯隊ニ第六第八中隊ハ第三十三聯隊ニ合併セリ

同隊救援部隊ノ退却

是ヨリ先キコンドラトウキチ少將ハバチンスキ大佐ヲ救フ目的ヲ以テ七時四十分頃第三十六聯隊ノ第十第十一中隊ヲ參謀大尉アレクサンドルト共ニ龍口方面ニ進出セシメ成ルヘク敵ノ迂回ニ抵抗セシメシカ此兩中隊ハ龍口東北方高地ニ進出シ日本歩兵一聯隊餘カ騎兵一中隊ヲ先頭トシ龍口ニ向ヒ南方ノ高地ヲ下ルヲ見タリ次テ日本砲兵ハ龍口西南ノ陣地ニ進出シ射撃ヲ開始セリ加之日本歩兵二大隊餘騎兵五中隊ト共ニ第十第十一兩中隊ノ右翼ニ向ヒ迂回シ來リ突撃セリ兩中隊之ニ抵抗シ相援助シツ、梯次ニ退却セシカ參謀大尉ハ是時戰死セリ此間八時三十分コンドラトウキチ少將ハバチンスキ大佐ヨリ敵砲四十門大房身附

近復州河谷ニ向ヒ降下セリトノ報告ニ接シ電話ヲ以テ軍團司令部ニ報告シ尙ホ  
將校ヲ派シテ右翼ノ戰況ヲ報告セリ當時サムソノ騎兵支隊ト連絡ヲ通セザリ  
シヲ以テ八時三十五分軍團司令部ニ尋問セシカ該支隊大房身ニ在ルノ答ヲ得タ  
ルモ八時五十分ニハ敵砲既ニ同高地ヨリ陣地ノ右翼ニ向ヒ砲火ヲ開始シ該支隊  
ノ位置不明ナリキ

右翼地區  
龍口方面  
進出

コンドラトウキチ少將ハ其位置ヲ山嘴北方高地ニ移セリ十時ニ至リグルコ大佐  
軍團參謀 來リ曰ク敵ノ迂回ヲ拒止シ龍口方面ニ進出センカ爲メ軍團長ハ其豫備  
隊東狙兵第三十五聯隊及第三十四聯隊ノ二大隊ヲ少將ニ屬スト是時ニ方リ參謀  
大尉ノ戰死及其兩中隊退却ノ報アリ又右翼地區リソフスキ大佐ノ右翼ニ敵ノ  
攻撃アルヲ報セリ因テ少將ハクラウゼ少將ニ命シ殘餘ノ豫備隊即チ東狙兵第三  
十六聯隊ノ一大隊ヲ東龍口ニ進出セシメ其第十第十一中隊ヲ併セ成ルヘク敵ヲ  
拒止スヘキヲ以テシ増援トシテ更ニ第三十五聯隊ヲ送ルヘキヲ約セリ  
リソフスキ大佐ノ右翼地區ニ於テハ東狙兵第三十三聯隊第三大隊ハ南方高地  
ヲ占領シ砲兵第九旅團ノ第四中隊及歩兵第八中隊ハ北方高地ヲ占領シ其第八中

隊ハ砲兵掩護ニ任スルト同時ニ地區豫備隊タリ又南方高地ニ於テハ歩兵三中隊  
半ハ第一線半中隊ハ豫備隊タリ側面ニハ乘馬獵兵隊ヲ出シ在リ

パニユチン中佐ノ中央地區ニ於テハ同聯隊ノ第五第六及第七中隊并ニ砲兵第九  
旅團ノ第一第三中隊アリテ鐵道線路ヨリ高地ニ至ル間ヲ占領セリ

七時敵ハ此地區ニ向ヒ砲火ヲ開始シ八時四十分頃其右翼ニ向ヒ砲火ヲ注キシカ  
幾モ無ク射撃ヲ斷續シ彼我ノ間ニ砲戰ノミ行ハレシカ十時頃ニ至リ乘馬獵兵ノ  
報告ニ依リ敵ハ右翼ニ迂回スルコトヲ知レリ是ヨリ先キパチンスキ大佐ヨリ  
出セシ連絡將校ヨリモ同様ノ報アリ次テ日本歩兵右翼前ニ現出セリ因テ包圍ヲ  
免カレンカ爲メ第九第十一兩中隊ヲ右方半露里ノ地ニ派遣シ西面シテ陣地ヲ取  
ラシメ此ニ彼我ノ衝突起リ日本軍ハ益々其兵力ヲ増加セリ

斯クテ十時過ニ至リ露軍全體ノ情況ヲ綜合スレハ東部地區ニ於テハ東狙兵第一  
師團ノ諸聯隊ハ攻撃ヲ繼續シ日本軍ノ小銃射程内ニ伏臥シ猛烈ナル急射撃ヲ  
行ヒ更ニ突撃セントシテ歩兵第三十五師團第二旅團ノ迂回ノ結果ヲ待チシモ該  
旅團ハ進出シ來ラス加フルニ此方面ノ露軍砲兵ハ砲戰ノ結果大ニ威力ヲ減削セ

午前十時  
過露軍全  
般ノ情況

ラレタリ爲ニ第一師團ノ歩兵ハ獨力敵ノ陣地ヲ攻撃スルヲ要セリ西部地區ニ於テハ優勢ナル日本軍ハ漸次北方ニ迂回シバチンスキー大佐モ其右翼前進陣地ヲ維持スル能ハス東狙兵第三十三第三十六聯隊ハ正面ノ日本軍ト對戰シテ北方ノ敵ノ迂回動作ニ應スルノ餘裕無キニ至レリ

シタケリ  
ベルグ  
中將  
決心  
ヲ  
退却  
ノ

是ニ於テシタケリベルグ中將ハ總豫備隊タル東狙兵第三十四第三十五聯隊ニ命シテ龍口方面ニ前進シ敵ノ迂回ヲ拒止セシメ此間ヲ以テ退却スルニ決心セリ時ニ十一時三十分ナリ

此間東部地區ニ於テハ戰團激烈ヲ極メ左翼陳家屯ニ向ヒシベルグ中佐ノ率ウル第三十五師團第二旅團ノ一支隊ハ同地附近ニ於テ突然下馬セル日本騎兵ト衝突シ其砲兵中隊迄日本兵ノ射撃ヲ受ケタリ中佐ハ日本騎兵三中隊ヲ攻撃シ日本騎兵ハ大ニ苦境ニ陥リタルカ恰モ騎兵旅團ノ増援ヲ得タリ十一時頃ニ至リ第三十五師團第二旅團ハ攻撃ノ爲メ第一線ニ近ツキシモ豫定ノ如ク敵ノ側面ニ出テスシテ第一師團ノ左翼後ニ進出シ戰線ヲ擴張シ得タルニ過キサリキ此旅團ハ多數ノ砲ヲ險路ニ進ムル爲メ歩兵ノ援助ヲ要シ行進頗ル遲滯シ正午頃辛ウ

同中將  
受ケタル  
訓令

シテ展開スルヲ得タリト云フ是時恰モ軍團長ヨリ退却ノ命令到達シタリ得利寺戰團正ニ酣ナル時シタケリベルグ中將ハ軍司令官ヨリ左ノ要旨ノ訓令ヲ受領セリ

日本軍ハ岫巖方向ヨリ前進シ分水嶺ニ在ル我諸隊戰團ヲ開始セリ因テ得利寺ニ於テ戰勝ヲ得ルモ全軍團ヲ擧テ追躡スヘカラス是レ黒木軍兵力ヲ集中シテ行進シ在ルヲ以テ兵團ト軍首力間ノ連絡線上ニ進出スルノ虞アレハナリ

(三) 露軍ノ退却

東部地區  
諸隊退却  
ノ情況

退却命令アリシ十一時頃東部地區ニ在リシ露軍砲兵ハ殆ト沈黙シ東狙砲兵第一旅團第四中隊ノ如キハ側射ヲ蒙リタル結果僅ニ一砲ヲ餘スノミ殘餘ノ砲ハ總テ破壊セラレ車輪無ク而カモ破壊セル砲架上ニ在リテ使用スヘカラス下士卒ノ編成ハ數次變換セラレ將校ハ中尉レセウキギ一人ヲ殘セルノミ中尉ハ退却命令ヲ傳ヘシ者ニ對シ揚言シテ曰ク予ハ砲ヲ有セスシテ去ルヲ欲セスト暫クシテ彈片ニ中リテ戰死セリ此間唯一ノ殘砲ニモ一彈命中シ遂ニ破損セリ是ニ於テ曹長ハクシンハ中隊ヲ指揮シテ砲手ノミヲ退却セシメタリ第三中隊ニ於テハ五門ノ



モ自然ノ戰況ハ是時ヨリ已ニ退却ノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリ  
 十一時稍前右翼前進地區ニ在ルバチンスキ―大佐ノ率ウル東狙兵第三十六聯隊  
 第二大隊ハ先ツ退却セサルヲ得サルニ至リ其負傷者次テ他ノ壯者ハ右翼地區リ  
 ソフスキ―大佐ノ左翼ニ來リ投シ各中隊ニ併合セラレタリ

優勢ナル日本軍ハ之ニ尾シ露軍ノ射撃ヲ冒シテ益西北方ヨリ攻撃シ來リ新銳ノ  
 部隊續々來リ會シ漸次露軍陣地ニ近接セリ午後ニ至リ砲兵第九旅團ノ第四中隊  
 ハ先ツ陣地ヲ撤シ第八中隊ノ半中隊ハ一タヒ退却セシカ陣地ニ復歸シ之ヲ掩護  
 セリ砲兵第一第三中隊モ亦敵ノ小銃火ノ爲メ損害ヲ蒙リシニ因リパニユチン中  
 佐ノ命ヲ受ケ退却ニ就ケリ

リソフスキ―大佐ハ日本兵ノ益右方ニ進ミ來ルヲ見テ第九第十二中隊ニ命スル  
 ニ敵ノ迂回兵ト平行シテ右方ニ移轉スヘキヲ以テシタルモ敵ハ百乃至二百歩ノ  
 距離ヨリ猛烈ニ兩中隊ヲ射撃シタルニ因リ更ニ退却ヲ命シ兩中隊ハ歩々抵抗シ  
 辛ウシテ退却セリ

ムロゾフスキ―少將ハ山嘴附近ヨリ砲兵ノ退却スルヲ見テ其一中隊ヲ同地ニ留

メ收容陣地ヲ占領セシメタリ

十一時頃クラウゼ少將ハ西部地區豫備隊タリシ東狙兵第三十六聯隊ノ一大隊ヲ  
 率キ龍口方面ニ進出スヘキ命令ニ接シ李家屯附近ノ道路ニ到リ同聯隊第十第十  
 一中隊ノ退却シ來ルニ會シ之ヲ併セテ附近ノ高地ヲ占領シ日本軍ヲ拒止セリ然  
 ルニ日本軍ハ北方ヨリ側面射撃ヲ爲セシカ故ニ露軍ノ右翼ハ後退シ西北方ニ正  
 面ヲ向クルニ至レリ少將ハ東狙兵第三十五聯隊ノ到着ナキ爲メ之ヲ聯隊長ニ督  
 促シタルニ該隊ハ既ニズイコフ少將<sup>第九師團</sup>ノ指揮下ニ陣地ヲ占領シ在リ是  
 レ軍團長カ直接ニ該聯隊ニ砲兵第三十五旅團ノ一中隊ヲ附シ東龍口北方ノ戰團  
 ニ參加セシメ次テズイコフ少將ヲシテ指揮セシメタルモノニシテグルコ大佐カ  
 曩ニコンドラトウキチ少將ニ約シタルニ拘ラス此事ヲ通報セサリシニ因リクラ  
 ウゼ少將ハ尙ホ該聯隊ヲ指揮シ得ルモノト思惟シタルナリ

第三十五聯隊ハ九時三十分頃既ニ日本軍ノ迂回ニ對シ行動センカ爲メ李家屯  
 北方ヨリ西方ニ前進シ砲兵第三十五旅團第四中隊ト共ニ陣地ヲ占領シ第一第二  
 大隊ヲ第一線第三大隊ヲ豫備隊ト爲セリ然ルニ日本軍ハ尙ホ右方ニ現出スルノ

虞アリシニ因リ更ニ右方ニ移リ日本軍ト僅ニ八百歩ノ距離ニ於テ相對セリ日本軍ハ尙ホ右方ニ迂回セシニ因リ之ヲ拒止センカ爲メ更ニ右方高地ニ歩兵第十二中隊ノ半部ヲ派遣セリ

十一時軍團參謀長代理グルコ大佐ハ後員加爾哥騎砲兵第二中隊ヲ招致シ人力ヲ以テ砲ヲ陣地ニ就カシメタリ

コンドラトウキチ少將ハ第三十五聯隊附近ノ地ニ於テ軍團長ニ會シ戰況ヲ報告シ既ニ該聯隊ノ任務ニ就キ在ルヲ見タリ時ニ軍團長ハ同少將ニ告クルニ東狙兵第三十四聯隊ノ二大隊ニモ直接命令シテ東狙兵第三十五聯隊トクラウゼ少將トノ間ニ進出セシメタル旨ヲ以テシ且ツ同少將ニ其陣地ヲ撤去シ退却スヘキヲ命令シタリ時ニ正午稍過ナリ

東狙兵第三十四聯隊ハ軍團長ハ命令ニ依リ十一時三十分指定ノ地ニ進出シ次テ轉シテ獨立樹アル圓錐形山ニ移リ裝具ヲ脱シテ峻阪ヲ攀チ其第二大隊ハ右方第三大隊ハ左方ニ在リテ共ニ來レル哥騎砲兵ト共ニ同高地ノ陣地ニ就ケリ然ルニ日本軍ハ此高地ニ射撃ヲ集注シ殊ニ機關銃ヲ發射セシカハ散兵線ニ在リタル第

五第九中隊并ニ狹隘ナル地ニ在リタル豫備隊ハ多大ノ損害ヲ受ケ左方蔭蔽物ノ後方ニ移ラサルヲ得サルニ至レリ

此第三十四聯隊ノ二大隊及同第三十五聯隊及騎砲兵ハ師團全部ノ退却スル頃迄即チ午後三時過迄陣地ニ留マリ諸隊ヲ收容シタリ

此間西部地區ノ各陣地ヨリ第三十六聯隊ハ第一ニ退却シ次テ第三十三聯隊之ニ續キ聯隊長負傷セリ此等退却セル諸隊ハコンドラトウキチ少將ノ指揮ヲ以テ整頓セラレタリ此間少將ハ日本軍カ得利寺停車場ヲ砲撃スルヲ見テ砲兵第四中隊ニ命シ停車場南方ニ陣地ヲ占領シ砲火ヲ開始セシメタリ是時停車場ノ東方ニ退却シ來レル東狙兵第四聯隊ノ一中隊半及工兵ヲ合セシメタリ同聯隊ノ大部ハ既ニ東方ニ繞回シテ退却シタリ

既ニシテ負傷者陸續停車場ニ廣集シ列車ハ之ヲ搭載シ鐵道大隊ノ各部隊ニ依リ搬送セラレタリ當時列車ハ停車場ヨリ北方約二哩迄ノ線路ヲ填塞セリト云フ

是ヨリ先キ正午頃西伯利步兵第三師團ノ第九聯隊(トボリスク)ノ二大隊ヲ載セタル一列車停車場ノ北方二哩ニ到着シタリ十一時豫備隊ト共約ニ西方ニ向ヘリ會前方

増援隊ノ  
到着及後  
衛戰



高地ノ麓ニ少數ノ日本兵現出セシニ因リ此兩大隊ハ直ニ展開シテ前進シ之ヲ驅逐セリ

後衛ニ屬セラレタル砲兵ハ停車場南方ニ在ル砲兵第四中隊ト後貝加爾哥騎砲兵第二第三中隊ニシテ此騎砲兵ハ得利寺北方高地斜面ニ布列シテ諸隊ノ退却ヲ收容セリ東狙兵第三十五聯隊ノ二中隊ハ來リテ停車場北方ノ「トボリス」隊ニ合シタリ幾モ無ク日本軍ハ西方ヨリ來リテ鐵道線路ニ達セリ既ニ將校ヲ失ヒシ同聯隊ノ第二第三中隊ハ下士ノ指揮ヲ以テ西方ニ向ヒ突進シ敵ヲ拒止セント企テタリ此際「トボリス」聯隊ノ二大隊モ亦急進シテ前記兩中隊ニ續行シ以テ日本軍ノ攻撃ヲ中止セシメ同時ニ負傷者搭載ノ最終列車ヲ發車セリ第三十五聯隊ハ陣地ヲ撤シ第三大隊ノミ最終ニ殘リ退却ヲ掩護セリ聯隊長ハ是時負傷セリ

此間日本軍西方ヨリ迂回スルノ報ニ依リ後衛司令官サムソノフ少將ハ「トボリス」步兵二大隊ヲ夾河心龍潭後間ノ高地ニ西面シテ陣地ヲ占領セシメタリ夾河心東南高地ニハコンドドラトウキチ少將ノ指示ニ依リ第二ノ後衛陣地ヲ設ケ東狙兵第三十四聯隊及砲兵第九旅團ノ第四中隊ヲシテ之ニ據ラシメムロゾフスキ少

將之ヲ指揮セリ日本軍ハ西方ヨリ「トボリス」隊ニ向ヒ攻撃シ來リ狀況危急ニ迫レリ偶々驟雨沛然トシテ來リ四面闇黒ト爲リ彼我ノ行動ヲ没セシカハ諸隊ハ此間ニ乘シ北方ニ退却シ日本軍ノ追撃ヲ免カレタリムロゾフスキ少將ハコンドドラトウキチ少將ヨリ工兵ノ援助ヲ以テ第二ノ後衛陣地ヲ占領シ「トボリス」步兵通過ノ後クラウゼ少將ノ第三後衛陣地ノ掩護下ニ退却スヘキ命令ニ接セリ其他シモノフ中將ノ騎兵隊ハ午後六時大亡附近ニ位置シ在リタル事ノ外知ル所ナシ

從軍武官リ「トマン」大尉ハ是夜萬家嶺ニ於テ西伯利哥騎兵第八聯隊ト共ニ宿營シタリト云フヲ以テ見レハ同聯隊ハ同地迄退走シタルカ如シト

斯クテ日本軍ノ追撃無カリシカハ露軍ハ茲ニ隊伍ヲ整頓シ夜暗退却ヲ繼續シ後衛ハ拂曉萬家嶺停車場ニ到著シ始メテ休憩セリ東狙兵第一師團ノ大部ハ鐵道線時頃萬家嶺停車場ニ到著シ十六日午前四時再ヒ出發シテ其北方三吉米ノ地ニ到リ第九師團ノ首力ト齊頭ニ位置セリ「ラス」旅團ハ第一師團ノ後方ニ續行シ萬家嶺附近ニ宿營シサムソノフ騎兵支隊ノ首力(騎兵十二中隊、騎砲兵一中隊)ハ之カ後方ニ續キ在リ但シ露ノ騎兵ノ一部隊ハ十七日朝 尙ホ夾河心附近ノ陣地ニ在リタリ

得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ損害

二日間ニ亘レル得利寺戰團ニ於ケル露軍ノ死傷ハ合計將校百三十一人下士以下

三千六百四十一人 内將校二十三人、下士死傷三ナリト云フ聯隊長以上ノ死傷者左ノ如シ

微傷 東狙兵第一師團長少將  
 同 第九師團長少將  
 戰死 東狙兵第一聯隊長大佐  
 負傷 同 第二聯隊長大佐  
 同 第四聯隊長大佐  
 同 第三十三聯隊長大佐  
 同 第一師團參謀長大佐  
 同 第三十四聯隊長大佐  
 同 第三十五聯隊長大佐  
 ドフボルクムニツキー  
 ズーベルト  
 クルニツキー  
 リソフスキー  
 メルチヤンスキー (捕虜ト爲ル)  
 オセルスキー  
 ファストノフ  
 コンドラトウキチ  
 ゲルングロス

野砲十三門、山砲五門及彈藥車四十六輛ハ戰場ニ委棄セラレタリ 日本第二軍戰團  
 三門ノミハ委棄セラレタルナラン  
 尚ホ其損害ノ詳細ハ左ノ如シ

團	隊	高級司令部	戰		負傷		失踪		計		
			將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒	將校	下士卒	
東狙兵	第一團	東狙兵第一聯隊	一	二七	二	二〇六	一	一六	二	二四九	
			同 第二聯隊	六	一一六	一	二九八	七	三〇	一八	七二四
			同 第三聯隊	三	一一三	一	二八二	三	三三五	二四	七四〇
			同 第四聯隊	一	二二	一	一六二	二	三九	九	二二三
			同 砲兵第一旅團	一	一五	一	八五	一	一〇	一〇	一〇〇
東狙兵	第九團	東狙兵第三十三聯隊	一	二二	一	四三五	一	一五	一	四七三	
			同 第三十四聯隊	一	一五	一	一一五	一	四	一	一三四
			同 第三十五聯隊	一	一五	一	一一五	一	四	一	一三四
			同 第三十六聯隊	一	一五	一	一一五	一	四	一	一三四
			同 砲兵第九旅團	一	一五	一	一一五	一	四	一	一三四
步兵第三十五師團	同 第三百二十九聯隊	同 第四百十聯隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六	
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
步兵第三十五師團	同 第三百二十九聯隊	同 第四百十聯隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六	
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六
			同 砲兵第三十五旅團第二大隊	一	二二	一	一三七	一	七	一	一五六

團 隊 號	戰 死		傷 亡		失 踪		計	
	將 校	下 士 卒	將 校	下 士 卒	將 校	下 士 卒	將 校	下 士 卒
西伯利「ドボリスク」步兵第九聯隊	一	九	一	五六	一	一	三	六六
西伯利哥騎兵第四聯隊								
同 第五聯隊			一					
沿海龍騎兵聯隊				二				
護 境 兵		五		一五	一			二〇
總 計	一九	四七〇	九八	二三九六	一四	七七五	一三二	三六四一

四 得利寺戰後ノ情況

軍司令官ノ決心

南部兵團ノ頑強ナル戰鬪ニ依リ軍司令官クロバトキン大將ハ此方面ノ日本軍ハ豫期ニ反シ關東ニ上陸セル兵力ノ大部分ニシテ旅順口ニ對スルモノハ僅ニ二師團ヲ越エサル兵力ト後備諸隊ナルコトヲ察知シ尙ホ次ノ如ク當時ノ情況ヲ觀察セリ

此判斷ハスウエチン參謀大尉ノ戰略概要ニ據ル

南部兵團ノ著シク進出シタルニ依リ黒木軍若シ露軍ノ延長大ナルニ乘シ突破ヲ試ミハ我ハ極メテ不利ナル情況ニ陥ルヘク又分水嶺ニ在ル露軍支隊レウエスタ少將支隊ニシテ防禦ヲ完ウスル能ハサランカ南部兵團ハ雷ニ正面ノミナラス側方ヨリモ亦敵ノ壓迫ヲ受クル危險ニ陥ルヘシ黒木軍ノ蓋平進出ト同時ニ尙ホ敵軍カ熊岳城附近ニ上陸ヲ行ヒ得ヘキコトモ亦願慮セサルヘカラス又當時黒木軍ハ三方面ニ前出シ得ルノ位置ニ在リ即チ遼陽ニ直進スルカ將タ海城ニ進出スルカ或ハ蓋平ニ向フカ是レナリ

此ノ如クナルヲ以テ黒木軍ノ攻勢ニ對抗センカ爲メ最良ナル唯一ノ手段ハ露軍ヨリ攻勢ニ轉スルニ在リ之カ爲メ軍司令部ニ於テ首力ノ前進ニ關スル二個ノ場

合ヲ講究シタリ即チ一ハ鳳凰城方向一ハ岫巖方向是レナリ  
 然ルニ大軍カ山地へ前進スルニ方リ避クヘカラサル障害アリ即チ諸隊ノ給養ヲ  
 確保スルノ不可能ナルコト是レナリ殊ニ露軍ノ車輛輻重及野砲兵ヲ以テ行進シ  
 得ル道路ハ少數ニ限ラル當今日本軍ニ取リテ決戰的時期ナルニ拘ラス黒木軍ノ  
 前進セスシテ諸陣地ニ固著セルモ亦恐クハ給養上ノ障害アルニ因ルナラン露軍  
 輸送機關ハ強大ニ編成セラレタルモ地方調辨ニ依ル能ハサル地方へ前進スルニ  
 ハ未タ十分ナラス

六月中旬  
 滿洲軍ノ  
 配備

此ノ如キ理由ニ依リ露軍司令部ハ一方ニハ前進ノ準備ヲ整フルト同時ニ南方ニ進  
 出セル西伯利第一軍團ノ行動ヲ能ク掩護シ且ツ黒木軍ノ前進(主トシテ海城及蓋  
 平方向へノ)ニ抵抗スル爲メ防禦ノ目的ヲ以テ諸團隊ヲ甚タシク移動セサルニ決  
 シタリ即チ六月中旬滿洲軍ノ配備ハ左ノ如ク爲レリ

一、南方面ニ對シシタケリベルグ兵團步兵三十六大隊、騎兵哥騎兵四聯隊ヲ有  
 ス

二、岫巖蓋平線上ニハ步兵二十大隊、哥騎兵四聯隊アリ

三、岫巖海城線上ニハ步兵三十一大隊、哥騎兵一聯隊アリ此方面へハ遼陽ニ集合  
 スヘキ烏拉爾哥騎兵ノ一旅團ヲモ増加スル豫定ナリ

四、東部兵團ニ於テハ七十露里ニ亘ル山背ノ線守備ノ爲メ步兵十四大隊、哥騎兵  
 二聯隊半殘留セリ

五、左翼守備ノ爲メ步兵五大隊、哥騎兵三聯隊アリ

六、遼陽ニハ步兵四大隊、哥騎兵二中隊アリ

當時露軍ノ警戒及防禦ノ線ハ萬家嶺ヨリ太子河谷地ニ亘リ全長二百二十露里ヲ  
 算セリ

シタケリ  
 ベルグ兵  
 團萬家嶺  
 以北ノ退  
 却

六月十六日シタケリベルグ兵團ハ萬家嶺ニ休憩シ十七日二縱隊ヲ以テ蓋平ニ向  
 ヒ退却ヲ起スニ決シ之ニ三日ヲ要スルノ豫算ニテ左ノ部署ヲ爲セリ

西方縱隊即チ東狙兵第九師團トボリスク步兵聯隊及哥騎兵二中隊ハ鐵道ニ沿  
 フ街道ヲ進ム

東方縱隊即チ東狙兵第一師團、哥騎兵五中隊ハ鐵道ノ東方平行路ヲ進ム

後衛即チグラスコ少將旅團(砲兵三中隊ヲ有ス)及騎兵ノ首力騎兵及哥騎兵十二

中隊騎砲兵一中隊ハ兩縱隊ノ退却ヲ掩護ス

然ルニ是日午後突然兵團ハ熊岳城ニ向ヒ退却シ午後六時出發スルコト、爲レリ其原因詳ナラサルモ蓋シ岫巖ヲ占領シタル日本軍カ是頃七盤嶺及分水嶺方向ニ對シ小支隊ヲ派遣シタルヲ判斷シテ兵團ノ退却ヲ妨クルノ意圖アリト爲シタルニ起因スルモノ、如シ

斯クテ兵團ハ突然夕刻出發シ隊伍ヲ整頓シ在リシカ夜間ニ至リ紛亂ヲ醸セリ是レ砲兵及輜重車輛ノミ道路ニ由リ歩兵ハ側方ノ畑地ヲ行進シ屢々停滯ヲ生シ後續部隊其原因ヲ知ラス疑懼ノ念ヲ起シ遂ニ互ニ射撃シタルモノナリ即チ一哥騎兵支隊ハ十七日午前三時三十分頃熊岳城南方ニ停止セル東狙兵第一師團ノ部隊ニ對シ射撃ヲ開始シ此部隊ハ爲ニ退却シ師團縱隊ノ先頭中將之ニ伴ヘリハ戰團展開ヲ行ヒ天明迄此姿勢ヲ取リタリ哥騎兵小隊ノ搜索ニ依リ午前六時頃始メテ其誤解ナルヲ知ルヲ得タリ時ニ大雷雨アリ軍隊ハ全身濕潤シ困憊ヲ極メツ、午前九時頃熊岳城停車場ノ北方及東方ノ宿營地ニ達シ十七日夜此地ニ留マレリサムソノ騎兵支隊ハ晝夜共後衛ノ後方ニ續行シ歩兵部隊ノ前方ニ在リテ監視及警

戒ニ任セリ之カ爲メ騎兵ノ人馬大ニ疲勞シタリ

得利寺戰團後幾モ無クシモノフ中將ハ西伯利哥騎兵師團長ノ職ヲ免セラレ本團ニ召還セラレ次テ其旅團長ノ一人ナルヒリコフ少將モ亦其職ヲ免セラレタリ

是ヨリ先キ十六日ヲ以テ得利寺戰團ノ負傷者二列車ヲ以テ遼陽ニ到著スルヤクロバトキン大將ハ之ヲ巡視シ慰藉ヲ與ヘ且ツ負傷將校ヨリ激戰ノ狀ヲ聽取セリ

十八日兵團ハ二縱隊ト爲リ蓋平ニ向ヒ退却セリ此退却ニ關スル軍團司令部ノ部署ニ曰ク敵ハ王家屯王家屯 萬家嶺ノ西馬家屯馬家屯 萬家嶺ノ東方三十吉米ノ線ニ達シタリ西方縱隊ハ

從來ノ編組ノ儘大街道ヲ蓋平ニ向ヒ進ムヘシ東方縱隊東狙兵一聯隊哥騎兵半中隊砲兵一中隊欠ハ留家屯留家屯 熊岳城東北方十吉米ヲ經テ蓋平ニ向ヒ進ムヘシ後衛ハ關家屯關家屯 熊岳城南方方十吉米

道ニ沿フヲ占領シ敵ト觸接ヲ保チ西海岸畢利河間ノ區域ヲ監視シ七盤嶺方向ノミシチエンコ少將ト連絡ヲ求ムヘシマクシモウキチ少將令下ノ東方側衛東狙兵

第四聯隊哥騎兵半中隊砲兵一中隊獵兵一隊ハ軍團ノ四家屯四家屯 熊岳城東北十二吉米地ヲ通過シ畢ル迄同地ニ停止シ後沈家屯沈家屯 蓋平ニ向ヒ進ムヘシト

是日ノ出發ハ頗ル遅ク東狙兵第一師團ノ如キハ午後三時ニ行進ヲ起セリ各縱隊

兵團ノ蓋  
平到著

ハ約十二吉米ヲ行進シ柳樹底下留家屯ノ地方ニ宿營セリ十九日ヨリ二十日ニ亘  
リ軍團ハ蓋平ニ到著シ蓋州河ハ鐵道橋ノ外渡クルヘカテ軍團司令部ノ一部ハ十九  
日朝鐵道ニ由リ早ク此ニ到著セリサムソノ少將ノ後衛騎兵ハ關家屯附近ニ殘  
留セリ爾後西伯利第一軍團ハ蓋平ニ駐留シタリ

日本軍熊  
嶺城ノ占

當初日本軍ハ戰場附近ニ駐止シ在リシカ十九日ニ至リ其北方二十五、六露里ニ前  
進シ其第一線ハ熊岳城南方十一露里ノ地ニ達シ海岸ヨリ山地ニ亘レリ二十日サ  
ムソノ少將ハ七個ノ將校斥候ヲ派遣セリ之ニ依リ步兵三大隊ト大砲十四門ヨ  
リ成ル一隊ノ迂回運動ヲ爲スヲ知レリ是ニ於テサムソノ少將ハ輻重ヲ出發セ  
シメ僅ニ若干ノ駄馬ヲ殘留シ前哨ハ熊岳城南方六露里ノ地ニ於テ終夜徒歩戰闘  
ノ姿勢ヲ保チシカ二十一日午前八時ヨリ敵ノ先頭部隊ハ之ニ向ヒ攻撃シ來リ露  
ノ騎兵小哨ハ壓迫セラレテ徐々ニ熊岳城ニ退却セリ正午騎兵九中隊、砲兵一中隊  
及多數ノ歩兵ヨリ成ル日本支隊ハ熊岳城ヲ攻撃シ續テ大縱隊現ハレタニ至リ遼  
ニ熊岳城ヲ占領セリサムソノ支隊ハ同地東北約十四吉米ノ地ニ退却シタリ  
此間岫巖海城及岫巖蓋平線上ニ於テ日本軍ハ分水嶺及七盤嶺ノ線ニ前進セリ

日本軍  
東方集團  
ニ對スル  
軍司令部  
ノ計畫  
及  
露軍  
ノ  
敗  
北

露軍司令部ニ於テハ此頃第十軍團既ニ遼陽ニ到著ヲ始メタルニ因リ遼陽ノ危險  
ハ先ツ少ナシト爲シ日本軍ノ南方集團旅順方向ノモノニ對シ兵力ノ一部ヲ殘置  
シ自餘ヲ以テ東方集團即チ最モ近距離ニ在ル黑木軍當時黑木軍ト見做セリニ對  
シ攻勢ニ轉シ之ヲシテ南方集團ト合スル能ハサラシメントヲ企圖シタリ然ル  
ニ六月二十一日南方ニ於ケル日本軍ハ熊岳城ヲ占領シタルカ故ニ今ヤ大石橋ヨ  
リ南方集團ニ至ル距離ハ東方集團ニ至ルモノト相等シク爲リ此計畫ハ畫餅ニ歸  
シタリ

軍司令部ハ爾後兵力優勢ナル日本軍カ西伯利第一軍團及第四軍團ニ對シ前進ス  
ル場合ニハ大石橋附近ノ陣地ニ於テ防戦センコトニ決心セリ是レ蓋平附近ノ地  
形防禦ニ適セスト認メタレハナリ

戰闘失敗ノ際クロバトキン大將ハ審査ヲ行ヒ其責任者ヲ指摘スルヲ例トセシカ  
得利寺戰闘ニ關シテハ之ヲ行ハス西伯利第一軍團參謀長イワノ少將ヲ命令起案  
者及參謀グルコ大佐ヲ參謀長代理トシモ共ニ遼陽ニ召喚セラレ休息ヲ命セラレタ  
リ之ニ反シ無益ノ犠牲ヲ供シタリトノ批難ハシタケリベルグ中將ノ上ニ落チタ

リ然レトモク、ロバトキン大將ハ自ラ其責ヲ引キ且ツ豫察セル如ク此作戰ノ不成  
功ナルヲ証シタリトノ意味ヲ以テ自ラ慰メタリト云フ

列序闘戦團兵東關旬下月五年七十三治明

リセッテス將中長

ニキスフトナズロ將少長謀參

ンチイキニ將少長部兵砲

團師七第兵狙東 (コンテラドンゴ將少長) (フトスオフ佐大長謀參)		團師四第兵狙東 (クーオフ將少長) (ニクスフレトミド佐中長謀參)	
II. B. (ニキッピルエチ將少長)	I. B. (ニクスフトバルゴ將少長)	II. B. (ソイデナ將少長)	I. B. (ニビデレトニア將少長)
27. O.S. (スイレ佐大長) ■ ■ ■ 28. O.S. (ソマルーム佐大長) ■ ■ ■	25. O.S. (ソキウウプロ佐中長) ■ ■ ■ 26. O.S. (フノヨミセ佐大長) ■ ■ ■	15. O.S. (フノズヤリグ佐大長) ■ ■ ■ 16. O.S. (ニクスフエザリ佐大長) ■ ■ ■	13. O.S. (ニリベヤチマ公佐大長) ■ ■ ■ 14. O.S. (ニキウイウサ佐大長) ■ ■ ■
隊大七第兵砲狙東 (クッベドメサ佐大長) ■ ■ ■ 隊中兵砲擊出 ■		團旅四第兵砲狙東 (ソマルイ佐大長) ■ ■ ■ ■	
<p>隊聯五第兵狙東 (フコヤチレト佐大長) 北中隊ハ ■ ■ ■ 隊中四第隊聯一第兵聯野クスンチウネフルエウ (チキウエツンカ尉大長) ↑</p> <p>隊大充補兵狙東 III. IV. VII. ■ ■ ■</p> <p>隊大兵砲塞要 I. II. III. ■ ■ ■ 隊雷水 ⊙</p> <p>隊中雷地 隊中兵工東關 ■ ■</p> <p>隊道鐵 廠兵工 ■ ■</p> <p>等兵歩境護 (フツア佐中長) ■</p> <p>團兵海 ■</p> <p>團兵勇義 ■</p> <p>隊信電 ■</p>			

附錄第一



# 明三十七年六月下旬「タシケリベル」兵團戰序列

長騎兵中將爵「タシケリベル」

參謀少將「ワイノ」

東祖兵第十三聯隊 乘馬獵兵隊	團師三第利伯西	團師五十三第兵歩	團軍一第利伯西			
	9. (クスリボト) (チキウケジツ佐大長)	II. B. (コスラグ將少長)	II. B. (フコイズ將少長)	I. B. (ゼウラク將少長)	II. B. (チキウモシクマ將少長)	I. B. (キスフコトル將少長)
		139. (クスナシルモ) (フロトベ佐大長)	35. O.S. (キニムルボフ佐大長)	33. O.S. (キスフソリ佐大長)	3. O.S. (シキツニヤリムゼ佐大長)	1. O.S. (フノトスワフ佐大長)
		140. (クスイラザ) (フノキツルマ佐大長)	36. O.S. (キスンチバ佐大長)	34. O.S. (トルベーツ佐大長)	4. O.S. (キスンヤチルメ佐大長)	2. O.S. (キスルゼーオ佐大長)
	隊大二第團族五十三第兵砲 (キスフホルオ佐大長)	團族九第兵砲祖東 (キスフゾロム將少長)	團族一第兵砲祖東 (キスフコチル將少長)			
		隊大一第兵工 (シキロソ佐大長)	隊聯兵騎龍海沿 (フノロオウ佐大長)			

薩島蘇里哥騎兵旅團長少將  
サムソノフハ西伯利第一軍  
團二屬シアリ

## 西伯利哥騎兵團師

長騎兵中將「シモ」

團族二第 (フコリチ將少長)	團族一第 (キスフコリエ佐大長)
8. (フエセクレア佐中長)	7. (エコツベル小島公佐中長)
5. (フェツチア佐中長)	4. (フエツラコ佐中長)

## 護境兵の内

隊中二兵歩	隊中二兵騎哥	1. 9. r. A (門六)
-------	--------	-----------------

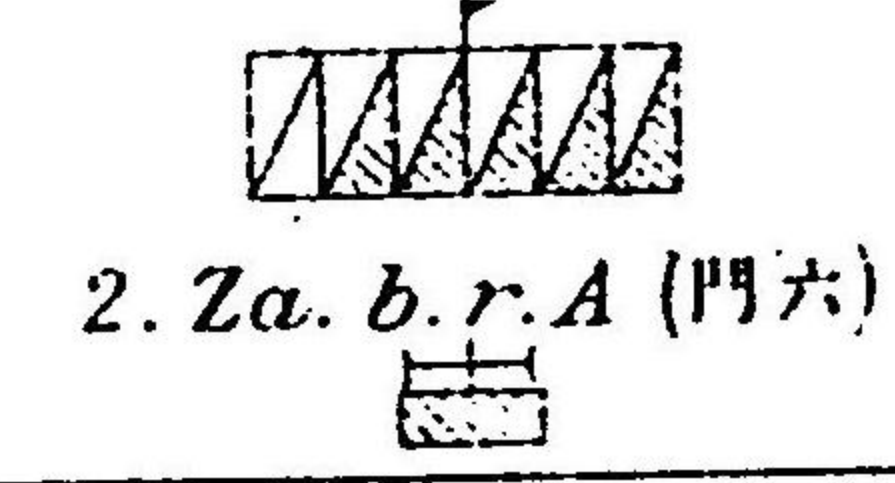
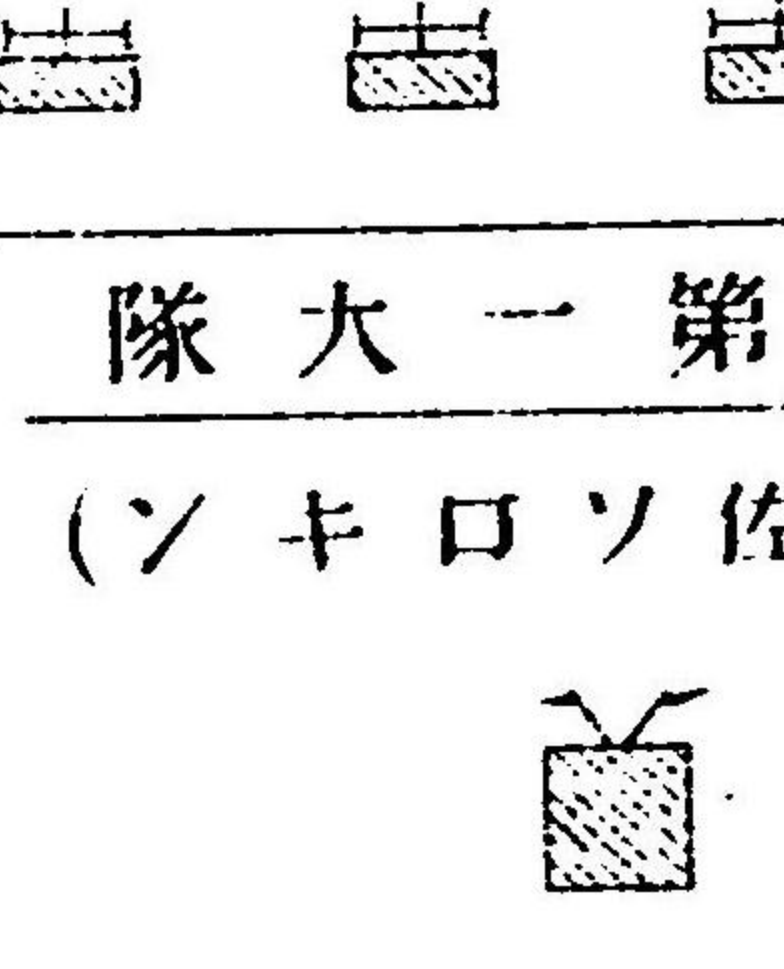
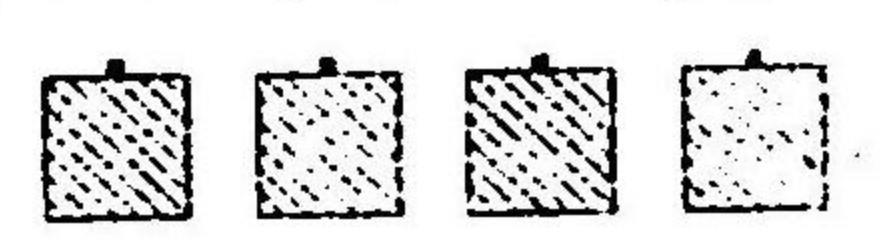
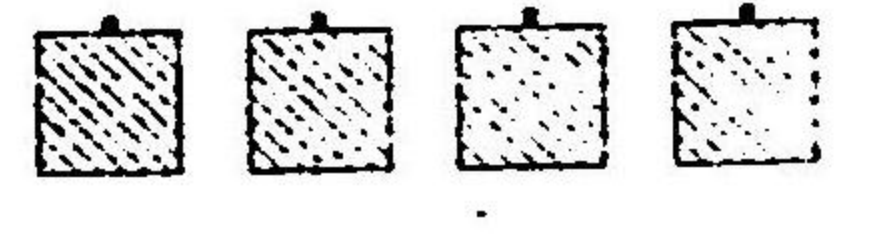
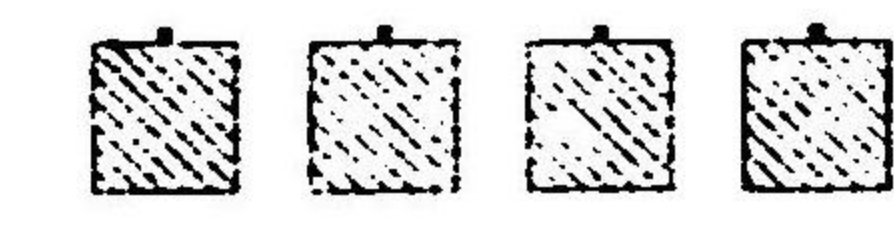
備考 隊表ニ斜線ヲ施サバルモノハ不在ヲ示ス

明三十七年六月廿九日「タケベリケル」兵團戰序

長騎兵中將伯爵「タケベリケル」

參謀少將「ワイノ」

東 狙 兵 第 十 三 聯 隊  乘 馬 獵 兵 隊	團師三第利伯西	團師五十三第兵歩	團軍一第利伯西			
	9. (クスリポト) (チキウケジツ佐大長)	II. B. (コスラグ將少長)	II. B. (フコイズ將少長)	I. B. (ゼウラク將少長)	II. B. (チキウモシクマ將少長)	I. B. (キスフコトル將少長)
		139.(クスマシルモ) (フロトベ佐大長)	35. O.S. (キニムルボフ佐大長)	33. O.S. (キスフツリ佐大長)	3. O.S. (シキツニリムゼ佐大長)	1. O.S. (フノトスワフ佐大長)
		140.(クスイラザ) (フノキツルマ佐大長)	36. O.S. (キスンチバ佐大長)	34. O.S. (トルベーツ佐大長)	4. O.S. (キスンヤチルメ佐大長)	2. O.S. (キスルゼーオ佐大長)
	隊大二第團族五十三第兵砲 (キスフホルオ佐大長)	團族九第兵砲狙東 (キスフゾロム將少長)	團族一第兵砲狙東 (キスフコチル將少長)			
		隊大一第兵工 (シキロソ佐大長)	隊聯兵騎龍海浴 (フノロオウ佐大長)			
備考 隊表ニ斜線ヲ施サ ルモノハ不在ヲ示ス	舊島蘇里哥騎兵旅團長少將 サムソノフハ西伯利第一軍 團ニ屬シアリ	團師兵騎哥利伯西 フノモシ將中兵騎長 團族二第 (フコリチ將少長) 團族一第 (キスフコリ工佐大長) 8. (フエヒクレア佐中長) 5. (フエツンチバ佐中長) 7. (エコツベル小爵公佐中長) 4. (フエンツラコ佐中長)				
内ノ兵境護 隊中二兵歩 隊中二兵騎哥 1.9.r.A(門六)						



明治三十一年露軍之行動 第三卷

第四篇 補修

本卷印刷中ステッセル中將フオーク中將金州陣地戰當時少將等ニ對スル旅順要塞開城ノ軍法會議告訴書發表セラレ第四篇ニ補修ヲ加ヘサルヲ得サルニ至レリ因テ左ニ其全文ヲ掲ケ卷尾ニ附ス様式ハ總テ本卷字傍ニ黒圈ヲ施セルハ本卷ヲ補修スヘキ文トス

チチヨ 金州陣地南ニ於ケル防禦

千九百四年五月五日日本軍ハ艦隊ノ掩護ヲ以テ鹽大灣チチヨノ北方ヒメス子窩チチヨ附近ニ上陸ヲ開始セリ

東狙兵第四師團同砲兵旅團及東狙兵第五聯隊ハ東狙兵第四師團長フオーク少將ノ指揮ヲ以テ旅順要塞ヨリ成ルヘク遠ク日本軍ヲ防止スヘキ任務ヲ受ケタリ日本軍既ニ金州地峽チチヨノ北方ニ上陸シタルカ故ニ此任務ヲ達セントスルニハ唯一

第四篇補修 金州陣地南ニ於ケル防禦

ノ通路タル約一露里半ノ正面ヲ有スル金州陣地チンチョウ山特ニ重要ト爲レリ此陣地ノ重要ナルコトハ開戦前ヨリ夙ニ認メラレ急ニ防禦工事ヲ施シ大口徑砲ヲ備ヘタリ

金州陣地防禦ニ關シ關東防禦司令官ステッセル中將ハフオーク少將ニ數回命令ヲ與ヘタリ即チ二月二十八日金州陣地巡視ノ際防禦委員會議ノ決議ニ基ツキ次ノ如ク命令セリ曰ク「金州陣地ノ防禦ハ如何ナル攻撃ヲ受クルモ最後即チ銃劍突擊迄保持スルヲ得ヘシト信ス唯同陣地ヲ撤退セサルヲ得サル敵ノ壓迫ヲ受クルニ際セハ守兵ハ總テヲ失フモ尙ホ歩々抵抗シテ旅順要塞ニ退却スルヲ要ス第十三及第十四聯隊ハ豫備隊ヲ編成シテ第一ニ敵ノ上陸ヲ擊退シ次テ金州陣地ニ援助セサルヘカラス然レモ到底敵ヲ支フル能ハサルニ至ラハ金州守備隊ト共ニ要塞ニ退却スヘシ金州陣地ハ非常ニ重要ナルヲ以テ正面ヨリ攻進スル日本軍ノ背後ニ滿洲軍クロバトキン大將ノ軍ノ支隊到着スル迄此ヲ保持セサルヘカラスト次テ五月十九日次ノ電命ヲフオーク少將ニ發セリ曰ク「背後ニ敵兵上陸セス且ツ其準備無キヲ以テ見レハ金州陣地ハ北方或ハ東方ヨリ敵ノ攻撃ヲ受クヘシ且ツ敵既ニ近接スルカ故ニ此際若シ背後ニ上陸ノ虞無シトスレハ意ヲ專ラ陣地ノ防

禦ニ注クヘシ一聯隊ニテハ不足ナリ豫備隊ヲ増遣セサルヘカラス金州ニシテ我有ニ在ル間ハ旅順口ハ安全ナリ一大隊ヲ營城子ヨリ取ルヘシ同地ハ予自ラ旅順口ノ部隊ヲ以テ守備スヘシト

五月十五日日本軍ハ二縱隊ト爲リ歩兵約二大隊ハ三十里堡ニ向ヒ五六大隊ハ魏子窩街道上衣家屯ニ向ヒ前進スルコト明瞭ト爲レリステッセル中將乃チフオーク少將ニ電話ヲ以テ命スルニ若シ要スレハ金州ヨリ北方ニ向ヒ強行偵察ヲ爲スヘキヲ以テセリ是日晚師團ノ諸隊ハ左ノ位置ニ在リ

- 東狙兵第十四聯隊
- 東三里莊
- 大房身命令ニ依リ金州停車場ニ到ル答ナリシカナティン少將ノ命ニ依リ此ニ止メラレタリ
- 青泥窪
- 夏家屯附近
- 十三里臺附近
- 同 第五聯隊ノ二中隊
- 同 第十六聯隊
- 同 第十三聯隊ノ二大隊砲兵二中隊
- 同 二中隊(前衛)
- 前衛ノ前方ニ第五第十六聯隊ノ乘馬獵兵隊アリ

十六日午前一時フオーク少將ハ命令ヲ發シ第十四聯隊第一大隊ハ砲兵第三中隊